

平成27年度
(2015年度)

博物館教育普及活動



沖縄県立博物館・美術館

平成二十七年
度（二〇一五年度）

博物館教育普及活動

沖縄県立博物館・美術館

はじめに

博物館は様々な資料を分かりやすく展示し、多くの人々に見ていただくことを大きな使命としています。同時に、来館者の知的文化的な好奇心を充実させる地域の中核施設であることも求められています。近年、博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者はそれぞれが様々な目的を持って来館します。このような来館者の要求に、より高い満足度をもってこたえていくため、当館では今年度もいろいろな博物館事業を実施してまいりました。

当館の教育普及活動は、大きく二つの事業に分け推進してきました。1つ目に、学校連携事業では、学校団体支援体制の強化を推進し、学校団体受入の充実を図ってきました。「出前授業等」で、学芸員と教師が連携した授業を小・中・高等学校で実施することができました。

2つ目に、博物館が企画運営する事業として、本年度は、ふれあい体験室専属ボランティアの募集と養成をおこない、博物館ボランティアと合わせ総勢82名のボランティアを確保し、学校団体支援体制の強化を推進しサービスの向上に繋げることができました。また、総合展示部門解説ガイドボランティア養成のもと、一般来館者へのサービス向上を図ることができました。

文化講座及び展示会関連講座は、「ゲノムから探る琉球人の多様性とその成り立ち」を皮切りに全12回実施し、県民の皆様によくの参加をいただき好評を得ることができました。その他にも、「筒描き紅型に挑戦Ⅲ！」をはじめとする4種類の体験学習教室の開催と、学芸員講座12回、常設展展示解説会とバックヤードツアーをそれぞれ12回、夏休み企画として「夏休み！博物館学芸員教室」を全10教室開催してまいりました。

当館としては、学校連携事業、文化講座、体験学習教室等に参加された皆様をとおして、沖縄の自然や歴史及び文化に触れ親しむ、知的文化的な好奇心の輪が広がることを願っております。そして、新しい時代に対応した、規模、目的、事業等をより広く、より深く、より大きく展開させ、県民と共に知的財産を創造していく博物館をめざしていきたいと考えております。

平成27年度の博物館教育普及事業の実施にあたり、ご講演、ご指導いただきました講師の方々をはじめ、ご協力いただきました博物館ボランティアの皆様、ならびに関係者各位に厚くお礼を申し上げます。

平成28年3月

沖縄県立博物館・美術館

館長 安里 進

博物館教育普及活動

目次

はじめに

I 博物館活動について……………1

- 1 はじめに
- 2 博物館活動（四つの車輪）
調査活動 展示活動 教育普及活動 保存管理
- 3 博物館の機能
- 4 博物館の施設
- 5 博物館教育普及活動の概要

II 学校連携……………7

博物館利用学校団体受入要項
沖縄県立博物館・美術館利用にあたって
～先生方へのお願いと確認～
博物館を利用した学習（例）・プログラム例
県内学校団体受入一覧
博物館「出前授業等」実施要項
「出前授業等」実施校

III 体験学習教室…………… 28

- 1 博物館体験学習実施要項
体験学習教室 活動状況・資料

IV 博物館文化講座…………… 70

- 1 博物館文化講座実施要項
- 2 文化講座の実施状況

V 博物館学芸員講座…………… 80

- 1 博物館学芸員講座実施要項
- 2 学芸員講座の実施状況

VI 展示解説会…………… 90

- 1 博物館展示解説会実施要項
- 2 実施状況

VII バックヤードツアー …………… 92

- 1 バックヤードツアー実施要項

VIII 夏休み！博物館学芸員教室…93

- 1 夏休み！学芸員教室実施要項
- 2 実施状況

IX ふれあい体験室 …………… 99

- 1 ふれあい体験室の概要
- 2 体験キットの種類
- 3 スタッフの配置状況
- 4 利用者状況
- 5 ふれあい体験室の取組み
- 6 沖縄県立博物館・美術館 魅力アップ事業
「ふれあい体験室機能強化事業」

X ボランティア養成事業…………… 105

- 1 沖縄県立博物館・美術館
博物館ボランティア活動実施要項
博物館ボランティア各種講座関連資料
博物館ボランティア登録申請書
ボランティア登録証交付式関連資料
博物館ボランティアのてびき
ボランティア通信

XI その他…………… 135

- 1 移動展
- 2 沖縄県立博物館・美術館のフリーパス
- 3 職場体験
- 4 けんぱくキット貸出
- 5 ボランティアによる展示ガイド
- 6 企画展付帯事業
- 7 常設展に関する取組み
- 8 新聞・雑誌等掲載一覧
- 9 印刷物一覧

I 博物館活動について

1 はじめに

博物館は、調査研究、展示、教育普及、保存管理の四つを館活動の車輪としています。それら車輪を機能させるために館は次の4つのスタンスに基づいた活動を構築していきます。

- ・琉球王国時代の文化(王朝文化)を体系化し、現在につなげる視点からの活動。
- ・人類学に代表されるような、沖縄の特性を生かし、沖縄の優位性を発信する調査研究の推進。
- ・沖縄の自然、歴史、文化の独自性を発信。
- ・博物館が動き、観覧者が動く博物館活動の展開。

2 博物館活動(四つの車輪)

◎調査活動

沖縄に関する資料や関連資料は、本県の海洋性・島嶼性の地理的要因により日本や中国、東南アジア諸国までその範囲を広げています。そこで本県の豊かな自然や独自の歴史・文化に関する資料を自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の6分野で探求し、体系的に調査研究し、資料の充実を図ります。

また、各研究機関や大学と共同で調査研究を行い、沖縄が持つ特性や優位性を発揮できるよう努めます。

◎展示活動

展示は資料を公開することですが、その資料が持っている背景や意味も重要になります。学芸員の展示活動は、この資料が持つ意味をできるだけ詳細に分析し、得られた成果を展示等に活かすことです。

展示の形は、郷土を紹介する基本的な展示である常設展、ある特定のテーマで開催される特別展・企画展、そして各島々で開催される移動展は、島嶼県である本県の特徴的な展示活動です。

◎教育普及活動

博物館が持つ知的財産を一般に提供する手段として普及活動があります。学校などの教育機関や関連施設と連携協力を行うネットワーク化を推進し、教育的配慮のもと様々な方法をもって県民共有の財産としていきます。また、博物館活動を活性化するためには、県民の積極的な参画が必要です。そのため「博物館ボランティア養成」を行い活動を推進していきます。

博物館では、県内の文化講座で草分け的存在である「博物館文化講座」や「学芸員講座」、「体験学習教室」等を実施、遊びながら学べる「ふれあい体験室」も普及事業を担っています。

◎保存管理

博物館資料は、産地、用途、製作年、材質、大きさ等の違いにより、その種類は多岐に涉っています。これら博物館資料は、材質別・性質別に区分され、適切な温度・湿度や虫害などの対応ができるような環境で保存・管理され良好な状態で次世代へ引き継ぎます。また、資料の管理状況が把握できるようなデータベース化を進めています。

3 博物館の機能

博物館はその名の通り、様々な資料を収蔵している施設です。資料は収蔵されるだけでなく、できるだけ長くきれいな状態を維持するために整理・保存していきます。しかし、保管しているだけではなく、調査研究により、いつ・だれが・どこで・なんのためにつくったかを解明し、皆様へ紹介していきます。資料は、展示や講座、論文、インターネットなどいろいろな媒体を通して、県民の知的財産として蓄積されていきます。

いつでも誰でもが利用できるようにするために、博物館にはいろいろな機能があります。

◎資料を保存する収蔵庫

博物館には、自然史・化石・特別（歴史・美工・民俗）・考古陶磁器・民俗・大型収蔵庫が設置され、それぞれの収蔵庫で、温度や湿度そして害虫などから資料を保護します。

◎資料を公開する展示室

博物館には、総合展示室・部門展示室・屋外展示・ふれあい体験室が配され、常設の展示を行っており、特別・企画展示室では、期間を限定して沖縄をはじめ、国内外の自然・歴史・文化に関する展示会が開催されます。

◎学習する場としての展示室、講座室

博物館は、「沖縄」について知り、そして将来の沖縄像を考える場所です。郷土学習に利用できる資料が分かりやすく展示されています。また、講演や体験をとおした学習を行う講座室等があります。

◎資料を研究する学芸員研究室

博物館資料に関するあらゆる調査・研究は、学芸員研究室を中心に行われます。8分野の学芸員が各々または共同で、様々なテーマに取り組みます。ここで蓄積された研究成果は、研究資料室や情報センターに保管され、展示会や講演会などで公開されます。また、博物館紀要論文はHPで公開されます。

◎博物館を管理する諸室

博物館の電気、空調施設などを管理するための機械室や、館を運営している職員が事務を行うための部屋があります。

4 博物館の施設

(1) 常設展示

常設展示のメインテーマは、「海と島に生きる一豊かさ、美しさ、平和を求めて一」です。沖縄は、立地・環境的に「海洋性」と「島嶼性」という特性を持ち、そこに住む人々は絶えず「豊かさ」と「平穏」を求め続けてきた歴史があります。その風土、自然のなかで育んできた歴史、文化を人類史・自然史の流れの中で位置付け、普遍的に海と島に生きていくことをメインテーマとしています。

その展示構成は、沖縄の歴史を時間で追いながら自由動線で観覧することのできる「総合展示」と自然史・考古・美術工芸・歴史・民俗の5つの「部門展示」に分かれます。

総合展示は、次の10のテーマによって、琉球列島の生い立ちから現代までの約2万年に亘る沖縄の歴史をたどります。中国や日本の文化を取り入れながら、独特の文化を創造してきた琉球王国の時代、王国解体後の近代化する沖縄、現在の沖縄までを紹介します。

「ニライカナイの彼方から」「シマの自然とくらし」「海で結ばれた人々」「貝塚のムラから琉球王国へ」「王国の繁栄」「薩摩侵攻と琉球王国」「王国の衰亡」「沖縄の近代」「戦後の沖縄」「沖縄の今、そして未来へ」の順に展示を観ることができます。中央に配した「シマの自然とくらし」のエリアでは、沖縄の「海洋性」「島嶼性」を大型地形模型によって実感することができます。また、情報端末機で島ごとに異なる表情を持った自然やくらしなどを調べることができます。

部門展示は、総合展示を取り巻く展示です。自然史・考古・美術工芸・歴史・民俗の5つの部門展示室では、収蔵資料を活用しながら、各分野のテーマをより深め、展示替えの頻度を高める展示を目指します。

自然史部門展示

「生物が語る沖縄2億年」をテーマに。島の成り立ちや、島々で独特の進化をとげた生き物の世界を展示します。自然観察コーナーでは、顕微鏡で化石や昆虫、岩石の破片、植物標本などを見ることができます。

考古部門展示

「沖縄考古学の世界」と題し、沖縄考古学のこれまでの成果と課題を示しながら、「沖縄考古学」を体系的に学び、古の人々の生活を追体験することができます。

美術工芸部門展示

美術工芸部門展示では、「琉球の美」を求めます。琉球王国時代、それ以降の染織品、焼物、漆芸品などの工芸品や絵画、彫刻、書跡などの逸品をゆったり鑑賞することができます。1年に数回テーマを変え、様々な美術工芸の世界を通し、「琉球の美」を追求します。

歴史部門展示

「モノから読む沖縄の歴史」とし、歴史の中で産出された様々な「モノ」資料を通して、その資料のもつ時代的な意味を解き明かしていきます。展示室内の一角では「那覇港」をテーマに、近世に製作された屏風絵の世界から、そこで暮らした人々の息づかい、ひいては歴史的、文化的意味を紐解いていきます。

民俗部門展示

民俗部門展示は「沖縄の伝統と暮らし」です。民俗の宝庫といわれる沖縄の様々な生活シーンの中で創造されてきた民具や信仰などを通して、戦前から伝わる沖縄の民俗世界を追体験することができます。また、現代に息づく民俗の変容した姿を紹介します。

(2) 屋外展示

高倉

高倉は、穀物を貯蔵する倉庫です。床を上げて風通しを良くし、湿気やネズミの害を防ぐ工夫がなされています。構造の違いにより、沖縄式と奄美式に分かれます。この高倉は、昭和初期に建てられたものを、1976年に奄美から移築しました。

民家

沖縄の伝統的な民家は、高温多湿の気候風土に適した構造をしています。門扉が無く、母屋も雨戸を全開にして風を通します。また、母屋の正面にあるヒンプン（中垣）は、外部への目隠しとなります。この建物は、資料としてのみならず、講座や多種イベントの際にも会場の一部として活用されており、平時も靴を脱いでいただいたの内覧も可能となっています。

湧田窯

湧田窯は17世紀頃の窯跡で、平窯の構造が特徴です。主に、屋根瓦を焼いた窯です。琉球・沖縄の焼き物の歴史を考える上で貴重な資料です。

(3) ふれあい体験室

博物館常設展示室の手前にある「ふれあい体験室」には、27種類の体験キットが準備されています。これらは展示と関連しており、展示資料を深く理解できるように工夫されています。キットは、パズルのように組み立てるものなど、操作することによって、より理解が深まる仕組みとなっており、体験することで五感を通して沖縄の「自然のしくみ」や「先人の知恵」にふれることができます。

(詳細については「IX ふれあい体験室」を参照)

(4) 情報センター

情報センターは博物館・美術館の共用施設として、閲覧・検索用の座席を38席設けた情報提供のための部屋です。博物館の収蔵資料の検索や、DVDやビデオの視聴ができます。また、沖縄の自然、歴史、文化、美術等に関する専門図書、地方出版図書も配架され、来館者の調べ学習に対応できます。

(5) 講堂・講座室等

講堂

講演会、シンポジウム、映画上演などを行うことができます。212 席(車いす 2 人含む)を収容することができます。

講座室

100 名規模の講演会や会議などを開催できます。机、椅子を撤去すると、小学生 150 名程度の集会が可能です。

実習室

体験学習や実技講習会などを開催できます。40 名程度の収容が可能です。

(6) 救護室

来館中における、軽度の気分不良の際には、休憩をとることが可能です。(ベット数 1 台)

(7) 駐車場

一般車両 140 台(身障者用 4 台含)、バス 10 台が駐車可能です。
特別支援学校などの大型車両を横付けできるように、庇付きの玄関を用意してあります。
また、盲導犬のトイレを駐車場側と公園側に整備してあります。

(8) コインロッカー

百円コインが返還される、無料のロッカーが 204 本準備されています。大きな荷物を持参の際は、他の観覧者に迷惑にならないよう、お手荷物を預けてからの入館をお願いします。

(9) バリアフリー

博物館・美術館は、不特定多数の人々が利用するため、誰でも安全に利用しやすい施設にする必要があることから、以下のような整備を行っています。

- ・観覧者が利用するトイレには、車イス使用者や乳児連れ、オストメイトに対応した機能を設けています。
- ・講堂や講座室に磁気誘導ループを設置して難聴者をサポートしています。
- ・館入口に音声誘導装置を設置して視覚障害者をサポートしています。
- ・車イスや使用者駐車スペースには、雨天時の乗降に考慮して雨よけを設置しています。
- ・道路や公園からの主な敷地通路に誘導ブロックを設け、総合案内まで連続して敷設しています。
- ・高齢者や体の弱い人がゆっくり観賞できるように、展示室内に休憩室や椅子を準備しています。
- ・案内表示は日本語と英語の 2ヶ国語表示としています。

(10) 環境への配慮

太陽光発電システムの導入

環境負担の低減と電気量の節約を図るため、10 k w程度の太陽光発電装置を設置しています。

雨水及び再生水の有効利用

地下に雨水タンクを設けて、トイレ洗浄水や灌水に利用しています。

夜間電力を利用した氷蓄熱方式空調設備の導入

夜間の安価な電力で作った氷を館内の冷房に利用することにより、割高な昼間電力の増加を抑えています。

総合的有害虫管理 (IPM) 施設 IPM (Integrated Pest Management)

博物館・美術館では、病害虫を管理するために総合的有害虫管理 (IPM) を行っています。この管理方法は、施設を取り巻く環境状況と対象となる害虫の繁殖などの動きを考慮して、生物的防除、科学的・物理的防除を組み合わせることで、虫害菌を抑える管理方法です。

博物館を利用する方には、館内への飲み物、食べ物の持ち込みをご遠慮いただいています。遠足等の行事の際にも、荷物を車で管理する等の配慮をお願いしています。

5 博物館教育普及活動の概要

博物館の教育普及活動は、大きく二つの事業に分けることができます。一つめに、学校の計画する授業・行事等で博物館を活用する際に支援する学校連携事業があります。二つめに、博物館が企画運営する、文化講座、体験学習教室、ボランティア養成等のそれぞれの事業があります。それ以外にも、博物館を通しての教育普及に関する全般的な活動にも取り組みました。

(1) 学校連携事業

学校連携事業では、各学校の計画による団体観覧の支援で、教育課程の一環として博物館を利用する際に、館として支援することのできる学習内容の調整を行いました。学校の規模や授業の進度、生徒の実態等を含めた学校からの要望と博物館の施設・職員・ボランティアの支援体制を考慮して、学校と博物館が連携していく学習プログラムを作成しました。

今年度は、「博物館の見学のとびき」、「博物館が教室になる！（博学連携について）」、「見る・聞く・触る・匂う（貸出学習教材について）」を2016年度版として一部修正を加え、一冊にまとめた『博物館学校団体利用マニュアル』及び「出前授業等」実施要項を作成し、沖縄県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援校に配布しました。

今後、県内外の多くの子どもたちに対し、博物館を利用した学習が幅広くおこなわれ、沖縄の自然、歴史、文化を伝え、学びの拠点になれるように一層の努力で取り組みます。

(2) 博物館文化講座

博物館の展示内容と関連する自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野についての講演、シンポジウム、実演、回によっては講演後には関連した展示場所での担当学芸員による展示解説を行う等、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施しました。

(3) 学芸員講座

博物館の学芸員が、研究成果や収蔵品の成果等の講演や展示解説などを通して、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施しました。各分野の学芸員の充実した講話は、博物館をより身近に捉え、観覧者の層を拡大する大切な役割を担いました。

(4) 展示解説会

博物館の展示内容に関する資料などの解説を、学芸員の広い視点からわかり易く解説しました。当館における展示資料がどのようなねらいのもと、それぞれの展示室に設置されているかを理解し、総合博物館ならではの資料のつながりを知る機会としました。

(5) 体験学習教室

沖縄の自然や歴史、文化と結びつけた体験的な活動を通して、郷土について関心を持ち、先人の知恵などを学ぶ機会としました。博物館の各分野（自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗）の展示や企画展等と関連する体験を実施し、総合博物館としての豊かな学びの場を提供しました。

(6) バックヤードツアー

博物館のもつ、調査・研究・保存の各機能を担う諸室の見学を実施しました。普段は、入ることの出来ない収蔵庫やトラックヤードなどの機能を理解し、博物館についてより知ってもらう機会としました。

(7) 夏休み！ 博物館学芸員教室

学芸員が、夏休み休暇中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究の導入となる内容を検討し、体験型の教室を開催しました。可能な限り博物館の情報を提供するなど郷土への興味・関心を高める場を提供しました。

(8) ボランティア養成講座

博物館では、県民の自己啓発や学習発表の場の提供を行うと共に、博物館支援活動を目的とした「博物館ボランティア」を導入しています。

平成27年度は、多様化する来館者のニーズに対応し、よりきめ細かなサービスの寄与を目的として、土・日・祝日のみ活動できる、ふれあい体験室専属ボランティアを募集し、養成講座をおこない13名のふれあい体験室専属ボランティア員の登録ができました。博物館ボランティアと合わせ総勢83名のボランティアが登録しています。

(9) その他

フリーパス

県内の各小中学校に、施設を身近に感じてもらい、より多く来館してもらうために、フリーパスの制度を取り入れています。「ふれあい体験室」や博物館・美術館双方の常設展や特別展、企画展などに訪れた時に総合案内に提示すると、スタンプを押してもらうことができます。30ポイント貯まると県立博物館・美術館オリジナルの景品をプレゼントします。

移動展

ふだん当館に足を運ぶことのできない離島や遠隔地の方々に移動展の展示を見てもらうことによって、沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図り、博物館資料や美術作品を観賞する機会を提供しました。今年度は、伊是名村で開催しました。

教育普及資料貸出

今年度は、博物館の教育普及資料の「骨スーツ」1件「ちむドンドン」2件「むかしむん」6件「洗濯ゴシゴシ」3件「豆腐をつくろう」1件「両面染紅型単着物」1件を貸出しました。

平成27年度 沖縄県立博物館・美術館—博物館利用学校団体受け入れ要項

1 ねらい

- (1) 博物館への学校団体をはじめとする入館者の増加を図る。
- (2) 博物館における団体受入を計画的に準備し、運営を行う。
- (3) 博物館を利用する学校団体に、博物館来館を年間計画の中に位置づけてもらうことにより、計画的な学習支援を行う。

2 対象・受け入れ内容等

	対 象	学習領域	受け入れ内容 *内容は、学校と博物館が調整して決める。	見学方法
1	【県内】 小学校 中学校 高等学校 特別支援学校 (各学年)	各教科の学習や総合的な学習の時間など	展示資料を、郷土に関するための教材として活用し、博物館や沖縄を知るための教室として利用してもらう。	○自由見学 (下見打合せ/無) ○ボランティアサポート (下見打合せ/有) ○夏季課題学習(主に高等学校) (下見打合せ/有)
2	【県内】 小学校 (3年)	社会科「昔の道具を体験しよう」など	民具体験学習(博物館収蔵の民具を活用した体験学習を行う)	ボランティアサポート (下見打合せ/有)
3	県内の教職員 (全校種)	校内研修など	博物館利用解説やバックヤードツアー等	(下見打合せ/有)

3 方法 (1)は館内情報センター(指定管理者)、(2)は博物館(県担当学芸員)が対応します。

(1) 必要事項を別紙『団体受付申込』に記入の上、沖縄県立博物館・美術館内の情報センターにFAXで申込む。

※希望日の受け入れについては、先着順。

※学習プログラム希望の場合は、11月末までに申込むこと。

(2) 学習プログラム希望の場合について

※情報センターに『団体受付申込書』を提出後、博物館教育普及担当職員との下見の日程調整が必要です。

① 見学の2ヶ月前までに、当日引率する教師全員来館による、下見を行う。 *博物館教育普及担当職員が対応。

② 見学の1カ月前までに、学習計画書を提出する。

11月末までに	見学の2ヶ月前までに(～11月末)	見学の1ヶ月前までに	来館当日
『団体受付申込』の提出 *情報センターにFAXで申込	下見 *博物館担当者対応 *引率教員全員参加	学習プログラムの完成 *ボランティアへの支援 依頼開始	

夏季・秋季休業等を利用されることをおすすめします。

学年会、教科会として利用することも可。

(3)自由見学の場合、下見の実施と学習計画書の提出は必要ありません。

4 その他

下見の受け入れ 期間:4～11月末 時間:9:00～17:00 所要時間:1～2時間程度

問合せ先:

〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1 沖縄県立博物館・美術館

『団体受付申込書』の提出→【情報センター】 Tel 098-941-1187 Fax098-941-3530

下見・学習計画書の提出→【博物館班 教育普及担当(金城久枝)】

Tel 098-851-5401 Fax098-941-3650

●博物館を利用して学ぶ

1 はじめに

博物館では、子どもから大人まで、生涯学習の一環として楽しく学ぶことができます。また、学校としての利用では“モノ”を通して、総合的で広がりのある学習内容を構成することが可能です。

博物館の各展示室では、沖縄の自然・歴史・文化について理解を深めることができます。さらに地域について理解を深めることは、県民にとって、将来について考える場ともなり、郷土に対する自信と誇りを持つことへ結びつけることもできるでしょう。

2 学校が利用する場合

(1) 日程の調整

- ① 施設の予約・日程調整等は**情報センター**で行います。
- ② 施設の下見から学習内容の調整を、**博物館教育普及担当**とともにを行います。
- ③ 沖縄県立博物館・美術館は、指定管理者（文化の杜共同企業体）が館の管理運営を行います。
観覧当日の対応は、指定管理者がボランティア員を活用し対応します。

—指定管理者—

指定管理者とは「公の施設」の管理運営を、地方公共団体の指定した民間企業やNPO法人などでも包括的に委託できるという制度です。（地方自治法第244条の2）
博物館・美術館においては、文化の杜（共同企業体）が、施設全体の維持管理や利用料金の設定など、これまで自治体が行っていた業務を行うこととなります。

(2) 博物館下見、打合せ

【下見の前半】情報センター円卓にて

- ① 来館日、来館時間、クラス(生徒)数、当日の日程、引率者など申請書の確認
- ② 博物館利用にあたってのマナー確認

○観覧マナーについて

「博物館での見学マナー」を児童生徒に、事前に指導しておいて下さい。 *コピー可

- ③ **学習のねらい（めあて）の確認（なぜ博物館を利用するのか？）**
- ④ **学習の展開方法（学習形態等）の確認**（体験内容・学習方法・ボランティア活用・保護者協力など）
- ⑤ 筆記の際の支え（探検バッグ・ファイル）や持ち物（水筒・カメラなど）の確認
- ⑥ 博物館への**飲食物持込みは禁止**されています。**〈IPMの考え方により〉**

*博物館では、IPMの考え方から、環境にやさしい施設を目指しております。

飲み物や食べ物の館内持込みはご遠慮ください。

遠足時の行事の際にも、荷物を車で管理するなど配慮をお願いします。

—IPM(Integrated Pest Management)とは—

耕種的、生物的、科学的、物理的な防除法をうまく組み合わせ、経済的被害を生じるレベル以下に害虫個体群を減滅させ、かつその低いレベルを維持させるための害虫個体群管理のシステムです。

(3) 博物館を利用した授業の、学習計画を考えます

* 授業の導入での活用、 展開で活用、 まとめで活用するのか？

- ・博物館からの情報提供をもとに、学校主体で学習計画案を作成します。
- ・見学の順路や学習時間の配分は、博物館からも案を提供します。
- ・学習形態によっては、グループや個人の調べ学習への対応も考慮します。
- ・博物館利用のマナーについて、授業計画に入れて下さい。
- ・保護者引率の場合、事前に学習内容と役目等の説明を、学校側で行って下さい。
- ・ボランティア員への協力要請は、学習プログラム決定後に行います。

(ボランティア員に連絡を入れます。急な変更には対応できません)

☆引率の先生が校外で行う授業です。免許を持たないボランティアは授業を行えません。

先生が、見学者やカメラマンにならないようにお願いします！

—ボランティア員—

博物館では、学校からの団体観覧をよりきめ細かに支援するために、ボランティア員を養成しています。現在は①誘導ボランティア ②展示ガイドボランティア ③体験サポートボランティア があります。

博物館ボランティアによる支援

① 誘導ボランティア

博物館の展示では、総合展示と、総合展示の周りに配置された部門展示室があります。広くて他の観覧者の多い展示室の中で、児童生徒を学級別に集団を保ちながら行動する場合に、案内人が必要となります。誘導ボランティア員は、学級の前後で学級担任の補助をする支援活動です。

② 展示ガイドボランティア

展示室における資料の解説は、ボランティアが行っており、解説ポイントをふまえ、学校側から依頼することができます。ただし、全ての要望には応じられないことをご了承下さい。

*ワークシートの活用について(答え合わせの為の展示ガイドにならないようにお願いします)。

③ 体験サポートボランティア

博物館での民具体験学習では、社会科の学習内容に対応した内容を推進しています。

体験内容には、運搬に関する体験、洗濯体験、着衣等の昔の暮らしの体験があります。

この体験では、各体験のサポートを博物館ボランティアが中心に行います(教員や保護者の引率者の参加協力をお願いします)。

【下見の後半】常設展示室、屋外体験実施場にて

- ・学習に必要な展示資料や以下の施設を確認します。
トイレ、集合場所、展示室、実習室、講座室、屋外等

3 当日の学習プログラムの流れ

☆入館した際、トイレを先に使用してから、オリエンテーション会場に入ります。

☆チケットは、主任の先生が「チケット売場」で、まとめて受取っておいて下さい。(欠席分は引く)

(1) オリエンテーション(児童向けのオリエンテーション約20分)＝先生とボランティア員とのミーティング *学習プログラムの確認、生徒の様子など申し送りなどを行います。

★博物館紹介(映像)―運営担当の職員(指定管理者)が行います。

ア マナーを含めた映像を準備しています。『みゅー爺』と『アム』というキャラクターにより、博物館内における基本的なマナーや施設の紹介、展示品の紹介を、掛け合い言葉により行います。

イ 本時の「ねらい」の確認

*事前の下見調整において確認された内容の「めあて」を司会が読み上げます。

*博物館での約束(マナー)を、児童・生徒といっしょに声に出して読み合わせて確認をします。

ウ ボランティア紹介(当日の対応は指定管理者が行います)

*当日の学習プログラムの、ボランティア員(誘導ボランティア員)を紹介します。

*展示室や屋外(民具体験)では(展示ガイドボランティア/体験サポートボランティア)の紹介があります。

(2) 博物館において学習活動を展開する

- ・児童生徒に、充実した活動内容が提供できるように、博物館、指定管理者、ボランティア、教師、保護者が連携して、博物館での学習を支援します。(安心安全な学習環境、主体的な学習を展開)
- ・体験では、実物に触れることで、子どもたちに感動の場を提供します。

(3) 体験学習(観覧体験のサイクル)

- ・観覧や体験ができる場所には、収容人数に限界があります。児童生徒全員に同じ体験をしてもらうために、サイクルで展示観覧と体験を行うようにしています。クラスが複数になると屋外での体験を先に行うクラスと、館内での観覧学習を先に進めるクラスを設定しています。
- ・体験資料(用具)や解説場所の関係上、少人数のグループ編成をしていただきます。

(4) まとめ

- ・一日の観覧・体験が終了した際に、博物館のホールや屋外の広場でまとめを行っています。基本的に学校の先生に司会をしてもらいながら進行します。博物館側からは、当日の観覧に協力したボランティアのスタッフも一緒に参加します。

(5) 博物館における学習活動を、次の学習に生かす

- ・博物館での活動を通して、わかったこと疑問点を確認。
- ・疑問点を見出して、自分なりに調査。 **発展 ★生徒用フリーパスの活用を呼び掛けて下さい**
- ・博物館等の社会教育施設の利用を促進。
- ・新聞を作成する事などにより、学習の発表の機会の設定。
*博物館には、情報センターがあり、学習内容の研究を行うことができます。

4 学習プログラムの組み立てについて

学習プログラム・・・学校が団体に博物館を利用する際に、学習内容等を組立てた計画

- (1) 学習プログラムは、博物館来館に際しての目標、順路、学習の展開などを、学校の実態に合わせて編制します。
- (2) 学習プログラムの企画調整は、県職員が行い、当日の運営は、指定管理者が行います。
- (3) プログラムに必要な施設利用の申請は、学校から指定管理者に対して行います。
⇒申し込みの際に、情報センターとの調整になります。
- (4) **学習プログラムの作成は、学校が主体となり、博物館はそれを補助します。**
- (5) 実施計画は、当日の天候や渋滞等により、遅れなどといった学校の状況の変化によって、又は博物館ボランティアスタッフの状況によっては、変更される場合もあります。
- (6) 学校が博物館を教科単元の時間に活用する場合や、学校行事、サークル活動などさまざまなニーズに応じた学習内容を、学校の職員とともに作成します。
- (7) 教育普及担当との調整では、過去の計画案や展示資料の紹介などを行います。
- (8) 教員・保護者(協力者)の博物館での役割配置は、協議しながら決めていきます。
- (9) **先生方と行う下見調整は、プログラムの作成のために実施します。**

5 ワークシートについて

- (1) **学習のねらいをはっきりとさせましょう！**

*本時のねらいは？ ・授業の導入、展開、まとめとしての見学なのか？

*博物館のホームページを確認して下さい「博物館学習ノート」がダウンロードできます

- (2) 「博物館学習ノート」を活用し、**生徒の実態に合わせた問題構成を考えましょう。**

- (3) ワークシートは1コーナーにつき1・2問にし、あとは、感想・気づいたことや気にいったものが記入できるようにしておくといいでしょう。1問につき回答時間はおよそ15～30分前後かかります。

- (4) ワークシートは**記入欄を多くすると、生徒が説明を聞かず、記入することに集中してしまいます。**

***博物館では収蔵品を観ること、ガイドの話聞くことが大切です。**

***当日は見学に専念し、学校で振り返り学習することも考えられます。**



『アム』と『みゅー爺』

○小学校3年生社会科 「昔の道具を体験しよう」「きょうとしりょう館をたずねて」

・地域に残る古い道具について ～ 知る・ふれる(感じる)・考える・調べる

・昔の道具の使われ方(当時の暮らしの様子、生活の変化)～ 考える、調べる

* 児童の実態に合わせて選択、授業を組立てる

～引率の先生が(博物館で)行う授業です!

★博物館が提供できるメニュー

オリエンテーションとA:映像の視聴=(日本民藝館制作。昭和14年頃的那覇の市場などの風景。モノクロ映像)

* 博物館利用のオリエンテーションと合わせて 20分間

* 先生はこの時間、ボランティアとのミーティングを行いません。

* 70年程前の沖縄の風景や生活の様子が出てきます。くらしの変容を考えさせます。

B:民具解説 (民具の名前や素材、使用方法を子どもたちとのやり取りで学ばせます)

15分間

C:民具体験

* ペアで行動。グループ単位で、ローテーションで体験学習をする。

1) 運搬に関する道具= バーキ↓

(魚や作物の

運搬等で使用)



ガンシナ↓



ティール↓



2) 運搬に関する道具= オーダー↓

(薪の運搬等で使用)



担ぎ棒→

2)、3)で使用

3) 運搬に関する道具= ターグ →

(井戸水の運搬で使用)

4) 洗濯に関する道具= ターレー↓



洗濯板↓



5) 着衣に関する道具= アダン葉サバ↓

(畑仕事等で使用)



クバンヌー↓



クバガサ↓



D:民俗展示室での展示品解説 ①畑の道具 ②田んぼの道具 ③海の道具 ④台所周辺道具 →2か所選択

* 1か所およそ7分×2か所+移動=15分間



民具体験学習のポイント〈子どもからの視点〉



A映像解説

昔の沖縄の風景を観る ・ 昔の人を観る

…映像を流しっぱなしにするのではなく、見せたい箇所で発問します！

B民具解説

民具にふれる・素材を考える ・ 先人の技を考える

…体験する民具の解説(名前/使用方法…知識)ではありません！

C民具体験

道具(民具)にふれる 感じる・ 使い方を考える ・ 使ってみる

…体験する民具の名前や使用方法を覚えるのが目的ではありません！

D民俗展示品解説

昔の道具を観る ・ 使用方法を考える

今の生活との違いを考える・知る

…単なる民具の解説(名前/使用方法…知識)ではありません！

A・Bは指定管理者が **C・D**はボランティアが 担当します
発問によって子どもに考えさせる—子どもの興味を引き付けるようにします

* **Cの着衣体験**に、保護者の参加をお願いします

誘導ボランティアさんの 役目 1クラスに 1~2名配置します

全体(流れ)を観る 時間を把握する

時間どおりに進める・時間調整をする

先生と連携する—相談し提案もする

子どもの安全を図る！

学校団体受入のキャッチボール (博物館を活用した授業)

学校側

〈内容〉

博物館側

申込み

FAX 送信

受付

館 HP より
指定用紙を
ダウンロード

情報センター

申請内容確認 TEL

施設押え(実習室)

学年会
下見日決め

FAX 送信① (下見希望日用)

FAX 連絡

博物館教育普及受付

FAX 返信

下見期日の決定

FAX 送信② (下見決定連絡)

下 見

当日参加教師全員で約 100 分

(前半：学習プログラムについて) (後半：現地確認)

学習プログラム
作成開始

ボランティア募集

プログラム案送信 (メール or FAX)

学習プログラム清書

FAX 送信③ (プログラム確認用)

学習プログラム完成

授業
マナー指導

FAX 送信④ (来館直前確認用)

*FAX 送信③と④はプログラム毎に書き換えること

来 館

(金城久枝)

6 観覧の展開（例）

時	内容	教師	博物館	児童生徒
	オリエンテーション(実習室にて)	児童着席指示	職員あいさつ	トイレをすませ入室
	マナー&施設案内映像放映	※児童映像視聴時に担任と誘導ボランティア員の観合せ	観覧順等確認	施設利用の学習
	本時の目標の確認		博物館学習の目標	めあての確認
	ボランティア紹介(誘導)	学級担任のリード	誘導ボランティア紹介(誘導ボランティアは、担任と連携した動きを行う)	出発準備
	【学級別観覧】			
	1組	・授業の進行(ボランティアを活用した授業展開)	・オリエンテーション、A、Bの解説は文化の杜が行う。	【民具体験学習】 ・体験(ふれる) ・聴講(知る・考える) ・観覧(調べる)
	2組		・観覧順序に合わせた誘導(誘導ボランティアは、タイムキーパー)	・聴講(知る・考える) ・観覧(調べる)
	3組		・展示物解説はボランティアが行う(教師の進行に合わせてガイド、質問への回答)	・体験(ふれる) ・聴講(知る・考える) ・観覧(調べる)
	選択する民具体験 □1)運搬に関する道具(魚など) □2)運搬に関する道具(薪など) □3)運搬に関する道具(水) □4)洗濯に関する道具 □5)着衣に関する道具(畑仕事)	・ワークシートの有無(学習内容に合わせたワークシートの準備)・博物館学習ノート参照 有・無	・ワークシートの有無(学習内容に合わせたワークシートの準備)・博物館学習ノート参照 有・無	※教師やガイドに従ってすみやかに
	ボランティアの配置			
	A画像解説 B民具体験 C民具体験 D展示物解説 ☆誘導ボランティア	文化の杜対応 (名) (名) (名)		
	まとめ：感想・お礼の挨拶(全体)	・司会進行(学校対応)		・整列 ・あいさつ

社会科 ～博物館を利用した学習～

市立 小学校 学年 児童名
2015/ () :00～ :00
教師名・MM - 名・保護者名

Aオリエンテーション:実習室にて
B民具体験:実習室にて
C民具体験:屋外(民家周辺)にて
D展示物解説:民俗部門展示室にて

1 単元名

2 単元目標

3 本時の指導目標

4 目標行動(本時のねらい)

5 博物館学習のポイント

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

2015/ / () :00 ~ :00 市立 小学校 学年 クラス 名

1組担任： 2組担任： 3組担任：

《準示名》

《な5い》

《ポイント》

★確認事項

- ①アークシート
- ②持ち物
- ③名札の準備
- ④来館方法
- ⑤支援が必要な児童
- ⑥その他

1クラス約 =	名
C:1グループ約 =	名
D:1グループ約 =	名
ポランテア	名

本日の来館団体名	年	年	年	教 師	ヘルパー	保護者
時間/人数	名	名	名	名	名	名
9時						
9:30	50	55				
10時						
11時						
1組	A オ 面リ 像エ 解ニ 説テ （実 習シ ヨ					
2組	移動					
3組						

展示ポランテア...各1~2名

1組	2組	3組
オリエンテーション A:画像解説	文化の社()	B:民具解説 文化の社()
C:民具体験サポーター...各1~3名 ※各クラス グループに分かれ、 分で交		
1) 運搬に関する道具 = ハーク、ガンシナ、ティール		
2) 運搬に関する道具 = オーター、かつぎ棒		
3) 運搬に関する道具 = ターグ、かつぎ棒		
4) 洗濯に関する道具 = 洗濯板、ターレー (たらい)		
5) 着衣に関する道具 = クハガサ、クハンスー、アダンハサバ		
D:展示物解説...各1~2名 ※各クラス グループに分かれ、 分で交		
(畑の道具・田の道具・海の道具)		
民家台所周辺道具		

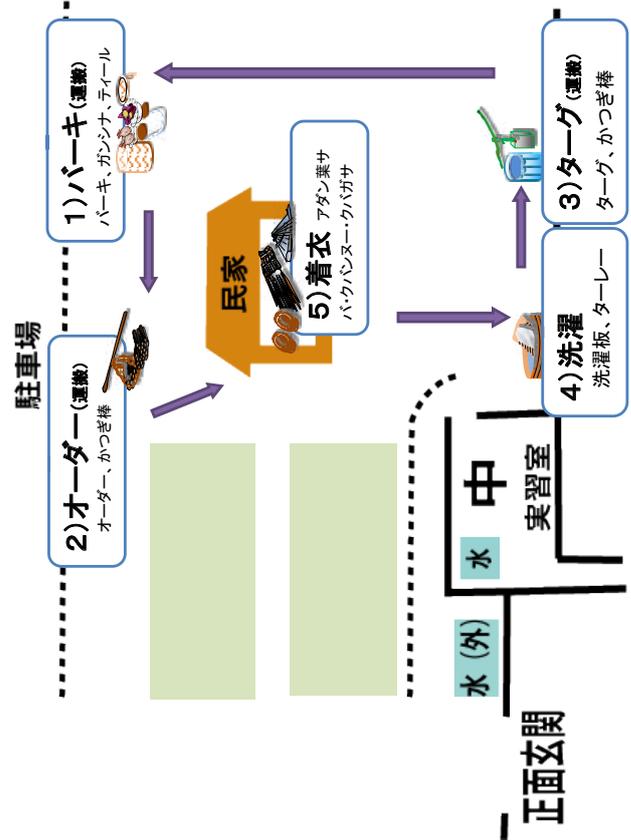
[C: 民具体験配置図]

民具体験5種類選択

各コーナー 分間+移動分

(計 分)

1グループ約 人
5グループの□-□-□ヨ
1→2→5→4→3
児童1人に付き(5)つの体験



- ☆移動の合図〔電子ホイッスル〕
- ・スタート・・・ホイッスル1回
 - ・2分前・・・ホイッスル2回
 - ・終了(移動)・・・ホイッスル3回

◆民具体験=Aグループ 1)→2)→5)→4)→3) Bグループ 2)→5)→4)→3)→1) Cグループ 5)→4)→8)→1)→2) Dグループ 4)→3)→1)→2)→5) Eグループ 3)→1)→2)→5)→4) (1グループ約 人)
◆展示解説=2グループ (1グループ約 人)

プログラム例

■ 1クラスの組み合わせ例

9時				10時				11時				
9:30		50		5	10	30	40			15	20	30
1組	オリエンテーション A画像解説 (実習室)	B 民具 解説 (実習室)	移動	D 展示物 解説 ()・台所	質問タイム トイレ (移動・水 休憩)			C 民具体験 1・2・5・4・3	移動		まとめ・お礼 (実習室)	

9時				10時				11時						
9:30		50		5	10	25	30	45	55			25	30	40
1組	オリエンテーション A画像解説 (実習室)	B 民具 解説 (実習室)	移動	D 展示物 解説 ()・台所	移動	〇〇タイム	移動	トイレ (移動・水 休憩)		C 民具体験 1・2・5・4・3	移動		まとめ・お礼 (実習室)	

■ 2クラスの組み合わせ例

9時				10時				11時						
9:30		50	55			25		40		55		15	20	30
1組	オリエンテーション A画像解説 (実習室)	移動		C 民具体験 1・5・3	移動	トイレ (移動・水 休憩)		D 展示物 解説 ()・台所	質問タイム	移動	B 民具 解説 (実習室)	移動	まとめ・お礼 (実習室)	
2組		移動	D 展示物 解説 ()・台所	質問タイム	移動	B 民具 解説 (実習室)	移動	トイレ (移動・水 休憩)		C 民具体験 1・5・3	移動		まとめ・お礼 (実習室)	

9時				10時				11時						
9:30		50	55			35	45			5		20	25	35
1組	オリエンテーション A画像解説 (実習室)	移動		C 民具体験 1・2・5・4・3	移動	トイレ (移動・水 休憩)		D 展示物 解説 ()・台所	移動	B 民具 解説 (実習室)	移動		まとめ・お礼 (実習室)	
2組		移動	D 展示物 解説 ()・台所	トイレ (中) 休憩	移動	B 民具 解説 (実習室)	移動		C 民具体験 1・2・5・4・3	移動			まとめ・お礼 (実習室)	

■ 3クラスの組み合わせ例

9時		10時										11時														
9:30		50		55		20		30		45		50		5		20		25		35						
1組	A 画像解説 (実習室)	移動	C 民具体験 1・5・3				移動・水 (中) トイレ		B 民具解説 (実習室)		移動		〇〇タイム		移動		D 展示物 解説 ()・台所		移動		まとめ・お礼 (実習室)					
			55		10		15		25		30		55		5		20		25		35					
			移動		D 展示物 解説 ()・台所		移動		〇〇タイム		移動		C 民具体験 1・5・3				移動・水 (玄関) トイレ		移動		B 民具解説 (実習室)		移動		まとめ・お礼 (実習室)	
2組	A 画像解説 (実習室)	移動	B 民具解説 (実習室)				移動		D 展示物 解説 ()・台所		移動		〇〇タイム		移動・水 (中) トイレ		C 民具体験 1・5・3		移動		B 民具解説 (実習室)		移動		まとめ・お礼 (実習室)	
			55		10		30		35		45		55		20		25		35							
			移動		D 展示物 解説 ()・台所		移動		〇〇タイム		移動		C 民具体験 1・5・3				移動・水 (玄関) トイレ		移動		B 民具解説 (実習室)		移動		まとめ・お礼 (実習室)	
3組	A 画像解説 (実習室)	移動	D 展示物 解説 ()・台所				移動		〇〇タイム		移動・水 (中) トイレ		C 民具体験 1・5・3		移動		B 民具解説 (実習室)		移動		D 展示物 解説 ()・台所		移動		まとめ・お礼 (実習室)	
			55		10		30		35		45		55		20		25		35							
			移動		B 民具解説 (実習室)		移動		D 展示物 解説 ()・台所		移動		〇〇タイム		移動		C 民具体験 1・5・3				移動		まとめ・お礼 (実習室)			

9時		10時										11時					12時まで									
9:30		50		55		30		45		5		25		30		45		50								
1組	A 画像解説 (実習室)	移動	C 民具体験 1・5・4・3				移動・水 (玄関) トイレ		D 展示物 解説 ()・台所		移動		〇〇タイム		移動		B 民具解説 (実習室)		移動		まとめ・お礼 (実習室)					
			55		15		30		35		10		25		45		50									
			移動		D 展示物 解説 ()・台所		移動		B 民具解説 (実習室)		移動		C 民具体験 1・5・4・3				移動・水 (玄関) トイレ		移動		〇〇タイム		移動		まとめ・お礼 (実習室)	
2組	A 画像解説 (実習室)	移動	B 民具解説 (実習室)				移動		D 展示物 解説 ()・台所		移動		〇〇タイム		移動・水 (中) トイレ		C 民具体験 1・5・4・3		移動		B 民具解説 (実習室)		移動		まとめ・お礼 (実習室)	
			55		10		15		30		35		55		10		45		50							
			移動		B 民具解説 (実習室)		移動		D 展示物 解説 ()・台所		移動		〇〇タイム		移動		C 民具体験 1・5・4・3				移動		まとめ・お礼 (実習室)			
3組	A 画像解説 (実習室)	移動	D 展示物 解説 ()・台所				移動		〇〇タイム		移動・水 (中) トイレ		C 民具体験 1・5・4・3		移動		B 民具解説 (実習室)		移動		D 展示物 解説 ()・台所		移動		まとめ・お礼 (実習室)	
			55		10		15		30		35		55		10		45		50							
			移動		B 民具解説 (実習室)		移動		D 展示物 解説 ()・台所		移動		〇〇タイム		移動		C 民具体験 1・5・4・3				移動		まとめ・お礼 (実習室)			

■ 4クラスの組み合わせ例

9時		10時										11時											
9:30		50		55		15		25		40		45		5		20		25		35			
1組	A 画像解説 (実習室)	移動	C 民具体験 1⇔4 3⇔5				移動・水 (中) トイレ		B 民具解説 (実習室)		移動		〇〇タイム トイレ		移動		D 展示物 解説 ()・台所		移動		まとめ・お礼 (実習室)		
			55		10		20		40		45		5		20		25		35				
			移動		D 展示物 解説 ()・台所		移動		C 民具体験 1⇔4 3⇔5		移動		B 民具解説 (実習室)		移動		〇〇タイム トイレ				移動		まとめ・お礼 (実習室)
2組	A 画像解説 (実習室)	移動	D 展示物 解説 ()・台所				移動・水 (玄関) トイレ		C 民具体験 1⇔4 3⇔5		移動		B 民具解説 (実習室)		移動		〇〇タイム トイレ		移動		まとめ・お礼 (実習室)		
			55		10		15		30		40		5		20		25		35				
			移動		D 展示物 解説 ()・台所		移動		C 民具体験 1⇔4 3⇔5				移動		B 民具解説 (実習室)		移動		〇〇タイム トイレ				移動
3組	A 画像解説 (実習室)	移動	〇〇タイム トイレ				移動		D 展示物 解説 ()・台所		移動・水 (玄関) トイレ		C 民具体験 1⇔4 3⇔5		移動		B 民具解説 (実習室)		移動		まとめ・お礼 (実習室)		
			55		10		15		30		35		50		20		25		35				
			移動		B 民具解説 (実習室)		移動		D 展示物 解説 ()・台所		移動		C 民具体験 1⇔4 3⇔5				移動		〇〇タイム トイレ				移動
4組	A 画像解説 (実習室)	移動	B 民具解説 (実習室)				移動		〇〇タイム トイレ		移動		D 展示物 解説 ()・台所		移動・水 (玄関) トイレ		C 民具体験 1⇔4 3⇔5		移動		まとめ・お礼 (実習室)		
			55		10		15		30		35		50		20		25		35				
			移動		B 民具解説 (実習室)		移動		〇〇タイム トイレ		移動		D 展示物 解説 ()・台所				移動		C 民具体験 1⇔4 3⇔5				移動

平成 26 年度 県内学校団体受入一覧

[学習プログラム対応校]

	学校名	月	日	曜日	観覧時間	学年	クラス	生徒数	保護者数	ボランティア数	
1	小祿南小学校	9月	15日	火	9:30-11:35	小3	4	119	13	20	
2	玉城小学校		25日	金	9:30-12:00	小3	2	58	1	12	
3	兼城小学校	10月	20日	火	9:30-12:00	小3	4	110	10	14	
4	具志頭小学校		22日	木	10:00-11:25	小3	2	52	0	14	
5	城南小学校		27日	火	9:30-11:20	小3	3	74	3	12	
6	西原南小学校		28日	水	9:30-12:00	小3	2	62	4	18	
7	豊崎小学校	11月	17日	火	9:30-11:35	小3	4	122	9	15	
8	天妃小学校		26日	木	9:30-12:00	小3	3	73	8	15	
9	光洋小学校	12月	1日	火	9:30-12:00	小3	2	72	0	9	
10	天久小学校		2日	水	9:30-11:35	小3	4	136	9	14	
11	座安小学校		3日	木	9:30-11:35	小3	2	56	3	14	
12	石嶺小学校		8日	火	9:30-11:45	小3	4	126	8	15	
13	古蔵小学校A	2015年 1月	7日	木	9:30-11:35	小3	2	68	2	12	
14	古蔵小学校B		8日	金	9:30-11:35	小3	2	68	6	12	
15	松島小学校		14日	木	9:30-11:35	小3	4	120	7	15	
16	宮城小学校		15日	金	9:30-11:35	小3	4	129	7	12	
17	安謝小学校		21日	木	9:30-11:35	小3	3	105	8	12	
18	さつき小学校		22日	金	9:30-12:00	小3	3	84	4	12	
19	識名小学校		26日	火	9:30-11:35	小3	4	114	19	12	
20	銘苺小学校A		27日	水	9:30-11:35	小3	2	60	12	14	
21	銘苺小学校B		28日	木	9:30-11:35	小3	2	60	5	12	
22	上間小学校		29日	金	9:30-11:35	小3	3	98	9	10	
23	那覇小学校		2月	2日	火	9:30-11:35	小3	3	83	9	12
24	城東小学校			3日	水	9:30-12:00	小3	3	103	15	13
25	開南小学校			4日	木	9:30-11:35	小3	2	49	4	10
26	壺屋小学校			5日	金	9:30-11:30	小3	1	33	5	9
27	城岳小学校	9日		火	9:30-12:00	小3	3	96	15	15	
28	真嘉比小学校	17日		水	9:30-11:35	小3	3	94	9	12	
29	金城小学校	25日		木	9:30-11:35	小3	4	130	9	16	
30	大道小学校	3月	1日	火	9:30-11:35	小3	2	54	4	16	

[解説補助対応校等]

	学校・団体名等	月	日	曜日	時間	種類	対象	人数
1	沖縄国際大学	5月	13日	(火)	9:30-11:30	展示室解説(考古)	学生	30名
2	那覇教育事務所	7月	29日	(水)	13:30-16:45	教職10年経験者研修	教員	9名
3	教職10年経験者研修	7月	29日~30日	(木)	9:00-16:30	学校連携(教育普及)	教員	3名
4	千葉県立国府台高等学校	11月	5日	(木)	9:30-10:30	展示室解説(美工)	生徒	8名
5	千葉県立国府台高等学校	11月	5日	(木)	11:00-12:00	展示室解説(美工)	生徒	6名
6	千葉県立国府台高等学校	11月	5日	(木)	11:00-12:00	展示室解説(生物)	生徒	6名
7	島尻地区小中校長会研修	12月	11日	(金)	13:00-15:30	学校連携(教育普及)	学校長	44名
8	久米島校長会視察研修	平成28年 1月	20日	(水)	9:00-16:45	学校連携(教育普及)	学校長	8名
9	沖縄県立那覇国際高等学校 PTA研修	2月	21日	(日)	9:00-12:30	バックヤードツアー	PTA	43名
10	新潟市立高志中等教育学校	2月	25日	(木)	14:00-16:00	展示室解説(美工)	生徒	4名

平成27年度 博物館「出前授業等」実施要項

1 趣 旨

博物館のもつ資源（もの、情報）を出前授業等を通じて学校教育の場で有効に活用する。

2 内 容

- (1) 学校での授業や教員の研修会などに学芸員を講師として派遣する。
- (2) 授業では、ティーム・ティーチングの手法により、学芸員は教員と共同し、博物館資料を活用するなどして児童・生徒の学習を支援する。

3 対 象

県内公立学校及び私立学校（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）
※クラス単位もしくは学年単位

4 実施時間

1～2時間程度（調整可）

5 実施場所

当該校

6 申し込み方法

※別紙参照

7 その他

各学校から依頼の「出前授業等」に係る学芸員の派遣旅費（交通費）は、博物館で負担する。

出前授業等の申し込み方法と連絡先

○申し込み方法

希望日の2ヶ月前までに、
教育普及担当者へ電話で申し込む **TEL 098-851-5401**



電話、メール等で期日や申し込み内容の調整



希望日の1ヶ月前までに、
出前授業依頼書または講師派遣依頼書を提出
(Fax、E-mailも可)

○連絡先

沖縄県立博物館・美術館
〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号
TEL 098-851-5401 FAX 098-941-3650
E-mail kinjohse@pref.okinawa.lg.jp
教育普及担当：金城久枝

※事業等の関係からご希望の日時に添えない場合があります。あらかじめご了承ください。

学 芸 員 紹 介

所属	担当分野		氏 名
博 物 館 班	自 然 史	生 物	山 崎 仁 也
		地 学	仲 里 健
		人 類	藤 田 祐 樹
		人 類	山 崎 真 治
	美 術 ・ 工 芸	絵 画 ・ 漆 器 ・ 陶 器	園 原 謙 外 間 一 先
		書 跡 ・ 彫 刻 ・ 染 織	與 那 嶺 一 子
	歴 史	古 琉 球 ・ 近 世	崎 原 恭 子
		近 現 代	石 垣 忍
	考 古		片 桐 千 亜 紀
	民 俗		大 湾 ゆ かり
	※ 教 育 普 及		金 城 久 枝

○ 沖縄県の自然、歴史、文化をはじめ、上記内容について、学芸員が博物館のもつ資源（もの、情報）を活用し、児童・生徒の学習を支援します。

※ 校内研修等で博物館活用について、レクチャーします。

出前授業依頼書

沖縄県立博物館・美術館長 殿

学校名

校長

印

次の授業のため、講師の派遣をお願いします。

授業の種類	出前授業（校内・校外）
希望する講師	
日時	平成 年 月 日（曜日） 時 分 ～ 時 分（校時）
場所	
学年	第 学年
児童・生徒数	名
教科名・領域名	
単元名	
学習目標 (ねらい)	(1) (2) (3)
担当者	学校住所 〒 Tel Fax 担当教員名 [] 連絡先（携帯電話等） []
その他	☆ご質問等があればお書き下さい。

講師派遣依頼書

沖縄県立博物館・美術館長 殿

学校名

校長

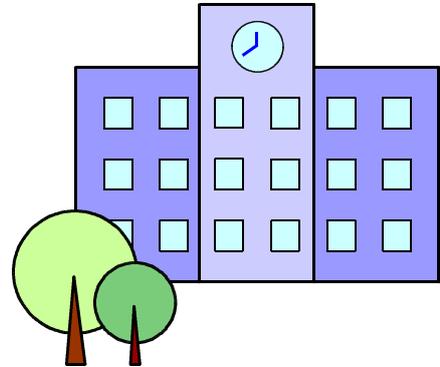
印

次のとおり、講師の派遣をお願いします。

行事名	
依頼内容	
希望する講師	
日時	平成 年 月 日 (曜日) 時 分 ~ 時 分 (校時)
場 所	
対象者	
人 数	名
担当者	学校住所 〒 Tel Fax 担当教員名 [] 連絡先 (携帯電話等) []
その他	☆ご質問等があればお書き下さい。

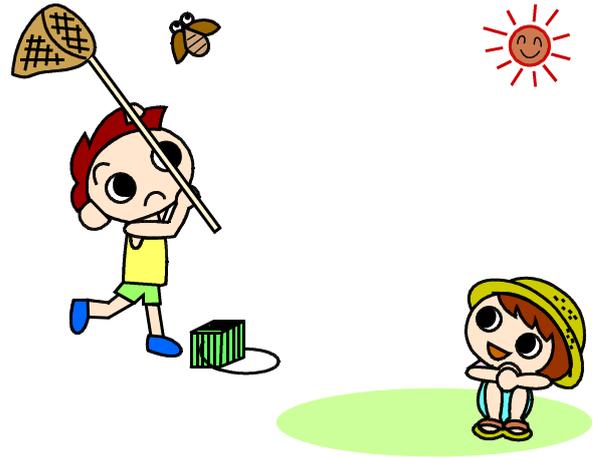
平成27年度「出前授業等」実施校

- (1) 4月21日(火)・22日(水)
竹富町立鳩間小中学校 小中学年 6名
生物：山崎仁也
- (2) 9月15日(火)
沖縄県立球陽高等学校 2学年 160名
美術工芸：外間一先
- (3) 7月14日(火)
沖縄県立コザ高等学校 1学年, 3学年 40名
歴史：石垣忍
- (4) 9月16日(水)
沖縄県立コザ高等学校定時制過程4学年 13名
地学：仲里健
- (5) 10月7日(水)
伊是名村立伊是名中学校 1～3学年 56名
生物：山崎仁也
- (6) 10月9日(金)
伊是名村立伊是名中学校 1～3学年 56名
歴史：石垣忍 地学：仲里健
- (7) 10月9日(金)
伊是名村立伊是名中学校 1～3学年 56名
地学：仲里健
- (8) 11月24日(火)
沖縄県立向陽高等学校 1学年 235名
人類：山崎真治
- (9) 平成28年2月17日(水)
竹富町立船浦中学校 1～3学年 27名
歴史：石垣忍
- (10) 3月2日(水)
伊是名村立伊是名小学校 3～6学年 53名
人類：藤田祐樹
- (11) 3月3日(木)
伊是名村立伊是名中学校 1～3学年 58名
人類：藤田祐樹
- (12) 3月3日(木)
伊是名村立伊是名中学校 1学年 18名
人類：藤田祐樹





鳩間小中学校授業の様子



コザ高等学校 授業の様子



コザ高等学校（定） 授業の様子



伊是名中学校 授業の様子





伊是名中学校 授業の様子



向陽高等学校 授業の様子

船浦中学校 授業の様子



伊是名小学校 授業の様子

伊是名中学校 授業の様子

Ⅲ 体験学習教室

1 博物館体験学習教室実施要項

(1) 趣旨・目的

沖縄の歴史や文化および自然と結びついた体験的な活動をすることによって、郷土の文化や伝統に関心を持たせ、先人の知恵などを学ぶ。

(2) 内容

博物館の各分野(自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗)の展示内容と関連した体験的な活動を通して、県民が有意義に楽しく学ぶことが出来るよう企画する。

回	期日	題	講師名	内容	募集人員
1	H27年 ①5月23日(土) [13:00~16:30] ②5月24日(日) [10:00~13:00] ③5月31日(日) [10:00~12:00]	筒描き紅型 に挑戦Ⅲ!	城間栄市氏 與那嶺一子学芸員	3日間の日程で、筒描きによる紅型作品を制作。1日目に図柄のデザインと筒描き、2日目に色差し・地染め・色止めをおこなった。3日目は、糊落とし・乾燥後作品を持ち帰ってもらった。	15名
2	H27年 ①6月6日(土) [13:15~16:30] ②6月7日(日) [13:30~16:30] ③6月13日(日) [10:00~12:00]	筒描きを楽 しむ!	安里和雄氏 大橋伸正氏 琉球びんがた事業 協同組合・・・組 合員 與那嶺一子学芸員	大人向けの講座として開催。3日間の日程で、筒描きによる紅型作品を制作。1日目に図柄のデザインと筒描き、2日目に色差し・地染め・色止めをおこなった。3日目は、糊落とし・乾燥後作品を持ち帰ってもらった。	18名
3	H27年 ①7月26日(日) [13:30~16:00] ②8月22日(土) [9:30~12:00]	昆虫標本作 り!	山崎仁也学芸員	1回目に昆虫採集の方法、昆虫標本のつくりかた、ライトトラップ作製を実施した。2回目に標本箱作成と昆虫の分類とラベルづくりを行った。 ※3回連続講座の予定であったが、7/25は、台風のため中止した。	20名
4	H28年 2月7日(日) [10:00~12:00]	見えない空気 のフシギ!	金城靖信氏 仲里健学芸員	企画展関連催事で、子ども向けに実施。大気圧のはなしから始まり、雲のでき方や低気圧、高気圧について学び、空気の流れを利用した空気砲、ブーメラン作製を行った。	20名

(3) 実施日と場所

企画展や特別展、行事、博物館の展示等に関連したテーマに合わせて年間4回程度の実施。午前9時~12時までの3時間を基本とし、内容によって終了時間の調整(昼食時間を設ける等)を行った。場所は、基本として実習室。

(4) 受講方法

- ※1ヶ月前までに広報し、2週間前までに募集をかける。応募者多数の場合は抽選する。
(公平を期すため、館長もしくは副館長による抽選)
- ※抽選の場合、当選者には、事前に当選の通知連絡を行う。

(5) 体験学習に係る役割

i 前日まで

①	事業起案及び講師依頼	博物館(教育普及担当)
②	マスコミ各社への取材依頼	指定管理者
③	受講生受け付け	指定管理者
④	講師事前打ち合わせ	博物館(教育普及担当)、指定管理者
⑤	説明資料作成	博物館(教育普及担当)、指定管理者
⑥	材料・道具等の諸準備	博物館(教育普及担当)、指定管理者、講師
⑦	ボランティア事前学習・準備作業調整	博物館(教育普及担当)、指定管理者

ii 当日運営

①	受け付け及び材料費の徴収	指定管理者
②	開講式 司会	指定管理者
③	講師紹介	博物館(教育普及担当)
④	講座の進行	博物館(教育普及担当)、指定管理者
⑤	材料等の準備及び配布	博物館(教育普及担当)、指定管理者、ボランティア
⑥	記念撮影	指定管理者
⑦	報償費支払い事務	指定管理者

☆筒描き紅型に挑戦Ⅲ！



筒描きする様子



色差しの様子



糊落としの様子

☆筒描きを楽しむ！



筒描きする様子



色差し・地染め・色止めの様子



☆昆虫標本づくり



展翅、展足、標本作製



昆虫の分類とラベルの作成



昆虫の分類とラベルの作成



昆虫を標本箱へ移動



☆見えない空気のフシギ



見えない空気のフシギ実験の様子



空気の流れ①ブーメラン作製



空気の流れ①ブーメラン作製



空気の流れ②空気砲の作製



おきなわりんつづくふくつかん びじゅつかん
 沖縄県立博物館・美術館 平成27年度 博物館体験学習教室

筒描き紅型にチャレンジ!

紅型ができるまでの工程やものづくりの楽しさを体験します。
 講師に紅型作家として活躍中の城間栄市氏をお迎えし「筒描き」という技法を使い、麻布を紅型で染めます。
 染めた作品は、お持ち帰りいただけます。

2回連続講座

1日目	5/23(土)	13:15～16:30 筒描き
2日目	5/24(日)	10:00～13:00 色差し
受取り	5/31(日)	11:00～12:00 糊落とし

講師：城間 栄市氏 (紅型作家)



参加費 1,000円/1名
 対象 小学校4年生～高校3年生まで 15名
 会場 当館 博物館実習室

お申し込みは…
 申込期間：4/28(火)～5/10(日)
 申込方法：事前申込制【TEL・来館】
 ＊応募者多数の場合は、抽選。
 ＊参加していただける方のみ5/15(金)までにハガキでご連絡します。

＊持ち物や開催場所など詳細は、後日ハガキで通知します。
 ＊2回連続で参加できる方が対象となります。
 ＊会場の都合上、申込者以外の参加はできません。
 ＊保護者同伴は問いません。但し、集合場所への送迎は保護者の責任の下、行ってください。



2枚の画像は、博物館にある昔のうちい(沖縄のふるしき)です。君なら、どんなデザインにする?

「つつがき」とは・・・
 ホップクリームを絞る袋によく似た、「筒」と呼ばれる筒袋の先から糊を押し出し、手で描きます。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1 TEL 098-941-8200
 開催時間：9時～18時(金・土は20時まで)、4/29(水)、5/4(月)～6(水)/休館：毎週月曜日(月曜日が祝日の時は、翌平日)、5/7(木)

沖縄県立博物館・美術館 平成27年度 体験学習教室

筒描きを楽しむ

参加費：1800円
 対象：一般
 定員：18名
 ＊応募者多数の場合は抽選
 会場：博物館実習室

1日目
 6/6(土)
 13:15～16:30
 筒描き

2日目
 6/7(日)
 13:30～16:30
 色差し

受取り
 6/13(土)
 11:00～12:00
 糊落とし

紅型の技法には、型染めと筒描きがあり、染める布の大きさや用途によってその技法を使い分けています。今回は展覧会に関連し、「筒描き」の技法で50×45cmの麻布を染めます。「筒描き」を体験するとともに、紅型の持つ奥深い世界を味わってみませんか。

④ 受付方法
 申込期間：5/12(火)～5/24(日)
 申込方法：事前申込制【TEL・来館】
 ＊応募者多数の場合は、抽選。
 ＊参加していただける方のみ5/30(土)までにハガキでご連絡します。

＊詳細については、後日ハガキで通知します。
 ＊2回連続で参加できる方が対象となります。
 ＊会場の都合上、申込者以外の参加はできません。

協力：琉球びんがた事業協同組合
 講師：安里和雄 (伝統工芸士)
 大橋伸正
 その他組合員



昔のうちい(県産物)には、植物や生き物など様々なデザインが丸山あります。

さぁ!どのようなデザインにしようか考えてみよう!

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1 TEL 098-941-8200
 開催時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日・年末12/29～31休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

昆虫標本づくり

連続講座

1回目 7/25(土) 9:30-12:00 昆虫採集 (新都心公園・沖縄の杜) スライドラップ作成

2回目 7/26(日) 9:30-12:00 標本づくり・乾燥

3回目 8/22(土) 9:30-12:00 標本箱づくり・保存・完成!

参加費 500円
 対象 小学校3年生～高校生
 定員 20人
 会場 博物館実習室
 参加方法 事前申込
 受付期間 6/16(火)～28(日)
 申込方法 【TEL/FAX/来館】

講師：山崎仁也(生物担当学芸員)

生きている昆虫は観察するのが難しい。身体が細かくなりやろ形なども、標本をつくることでじっくりと調べることができます。また、いろいろな種類の昆虫標本を並べて比較すると、それぞれの虫の特徴やほかの動物との違いなどがよく分かります。きっと見なれた身近な虫たちにも思わぬ発見があるはず!! ぜひ、みなさんも昆虫標本作りに挑戦してみてください。

みえない空気の新しき

沖縄県立博物館・美術館 平成27年度 博物館体験学習教室

博物館企画展 関連催事
 「大気と気象—見えない空気の「力と技」—」
 2016/1/26(水)～3/6(日)

2月7日(日) 10:00～12:00

講師：金城靖信氏 (沖縄県立総合教育センター研究主事)

参加費 200円
 対象 小学校3年生～高校生
 定員 20人
 会場 博物館実習室
 参加方法 事前申込
 受付期間 1/13(水)～24(日)
 申込方法 【TEL/FAX/来館】

先生 金城靖信氏 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200/FAX.098-941-2392 開催時間 9時～18時(金・土は20時まで) 休館日 毎週月曜日

先生 金城靖信氏 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200/FAX.098-941-2392 開催時間 9時～18時(金・土は20時まで) 休館日 毎週月曜日

平成27年度 第1回講座

博物館体験学習教室

『筒描き紅型に挑戦Ⅲ！』



期日 平成27年5月23日（土） 13:00～16:30
時間 5月24日（日） 10:00～13:00
5月31日（日） 10:00～12:00

場所 沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室

日程

5月23日（土）	受け付け 13:00 ～ 13:15 開講式 13:15 ～ 13:30 講座(実習) 13:30 ～ 16:15 《下絵描き・筒描き》 後片付け・諸連絡 16:15 ～ 16:30
5月24日（日）	受け付け 09:45 ～ 10:00 講座(実習) 10:00 ～ 12:30 《色差し・地染め・色止め》 後片付け 12:30 ～ 12:45 閉講式 12:45 ～ 13:00
5月31日（日）	《糊落とし・乾燥》 10:00 ～ 12:00 ～ 各自持ち帰り～

1 目 的

博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育まれてきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する。

2 日 時

平成 27 年 5 月 23 日(土) 13:00～16:30

5 月 24 日(日) 10:00～13:00

3 対象者

小学校4年生～高校生

4 募集人員

(15)名

5 場 所

博物館実習室

6 日 程

5 月 23 日 (土)	用具等搬入、全体打合せ(講師、ボランティア)	11:00	～	
	1日(土)受付	13:00	～	13:15
	開講式 <実習室>	13:15	～	13:30
	始めの言葉……司会(文化の杜:亘保)			
	講師紹介……教育普及担当(金城)			
	講 座 <実習室>			
	《 紅型とは 》 講師による解説	13:30	～	13:45
	《 下絵描き 》	13:45	～	15:00
	《 筒描き 》	15:15	～	16:15
	後片づけ・連絡等(5/31(日))の糊落とし		～	16:30
5 月 24 日 (日)	2日(日) 講師、ボランティア集合時間	9:00		
	受付	9:45	～	10:00
	《 色差し・地染め・色止め 》	10:00	～	12:30
	後片づけ		～	12:45
	閉 講 式	12:45	～	13:00
	始めの言葉……司会(文化の杜:亘保)			
	講師によるまとめ …… 講評			
	記念撮影			
	終わりの言葉……司会			
5 月 31 日 (日)	1週間後 5/31(日)			
	水洗い・乾燥～ 各自持ち帰り			
	*当日 10:00 頃、桶の水に作品を漬けておく、(11:00 ～12:00)までの時間に、受講者各自が作品を受け取りに来る。受講者の対応は文化の杜が行う。			

7 講師

城間 栄市 (紅型作家)

8 役割分担

(1)当日までの役割分担

- | | |
|---------------------|------------------|
| ①事業起案及び講師依頼 | 與那嶺・金城 |
| ②マスコミ各社への取材依頼 | 文化の杜 ③受講生受け付け |
| 文化の杜 ④講師打ち合わせ | 與那嶺・金城・比嘉・亘保・大瀨 |
| 與那嶺・金城・亘保 ⑥報償費支払い事務 | 文化の杜 ⑦材料・用具等の諸準備 |
| 文化の杜 博物館ボランティア | ⑧ ボランティア募集 |

(2)当日の役割分担

- | | |
|--------------------|----------------|
| ①受け付け及び材料費の徴収 | 亘保、大瀨 |
| ②開講式・閉講式司会進行及び講師紹介 | |
| 司会 | 亘保 |
| 講師紹介 | 金城 |
| ③講座の進行 | 亘保 |
| ④材料等の準備及び配布 | 博物館ボランティア(約5人) |
| ⑤記念撮影 | 文化の杜 |

9 準備するもの(材料・用具等)

◎必要な材料・用具

○講師準備

- ・不織布 (予備を含め 10 枚)、型紙見本 3 種類× 5 テーブル=15 枚
- ・麻布 20 枚(たて20cm×よこ30cm)
- ・染織材料 ・ミョウバン ・のり(多めに準備する)

○館側が準備するもの

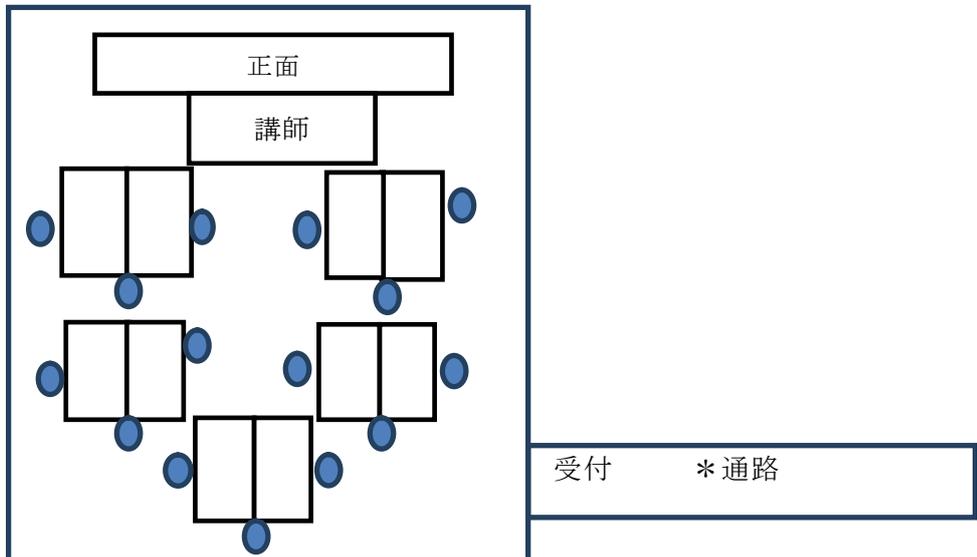
- ・作業版(新聞紙で包み準備する)
- ・不織布 7 枚 (前回の再利用)
- ・くまとり用の筆(赤→2本×5テーブル、青→2本×5テーブル)
- ・新聞紙、画鋏(文化の杜)
- ・紙コップ 8色×5テーブル+講師分=約80個(文化の杜)
- ・マジック(太用)、模造紙(文化の杜)

○受講生への連絡(準備するもの)

- ・作業ができる服装
- ・材料費 1名(1,000)円

10 体験会場

沖縄県立博物館 実習室



平成 27年度 博物館体験学習教室

「筒描き紅型に挑戦Ⅲ！」

日 時:平成 27 年 5 月 23 日(土) 13:00～16:30

5 月 24 日(日) 10:00～13:00

場 所:沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室

6 日 程

5 月 23 日 (土)	受付	13:00	～	13:15
	開講式 <実習室>	13:15	～	13:30
	始めの言葉……司会 (文化の杜:亘保)			
	講師紹介……教育普及担当 (金城)			
	講 座 <実習室>			
	≪ 紅型とは ≫ 講師による解説	13:30	～	13:45
	≪ 下絵描き ≫	13:45	～	15:00
	≪ 筒描き ≫	15:15	～	16:15
	後片づけ・連絡等(5/31(日))の糊落とし		～	16:30
5 月 24 日 (日)	受付	9:45	～	10:00
	≪ 色差し・地染め・色止め ≫	10:00	～	12:30
	後片づけ		～	12:45
	閉 講 式	12:45	～	13:00
	始めの言葉……司会(文化の杜:亘保)			
	講師によるまとめ …… 講評			
	記念撮影			
	終わりの言葉……司会			
5 月 31 日 (日)	1週間後5/31(日) 水洗い・乾燥～ 各自持ち帰り			
	* 11:00 ～12:00 までの時間に、受講者各自が作品を受け取りに来る。			

〈講師紹介〉

しろま えいいち
城間 栄市 (紅型作家)

× 毛

つつが びんがた 筒描き紅型に挑戦!



2015/5/23(土) 13:15~16:30 (筒描き)

24(日) 10:00~13:00 (色差し)

31(日) 11:00~12:00 (糊落し・受取り)

場所：博物館実習室



しろま

教えてくれる先生：城間



えいいち

びんがた さっか

栄市先生 (紅型作家)

那覇市立城西小学校卒

首里中学校卒

2000年 第52回沖展 入選

2001年 第53回沖展 入選

2002年 第54回沖展 奨励賞受賞

2003年より2年間インドネシア、ジョグジャカルタにてバティックを学ぶ

2007年 第59回沖展 奨励賞受賞

2008年 第60回沖展 入選

2009年 第61回沖展 奨励賞受賞

西部工芸展 入選

2010年 第62回沖展 最高賞「沖展賞受賞」

2011年 第63回沖展 奨励賞受賞

日本工芸会染色展 入選

日本工芸会本展 入選

西部工芸展 入選

2012年 第64回沖展 準会員賞受賞

あとで、おうちの人と
よんでね。

びんがた 紅型について

紅型は、沖縄を代表する^{こうげいひん}工芸品です。黄、赤などのあざやかな色や海と空を思わせる^{あゐ}藍の色など^{たさい}多彩で美しく、私達の^{きょうど}郷土に、このような世界に^{ほこ}誇れる工芸が、^う受け継がれていることは素晴らしいことです。

〈紅型のはじまり〉

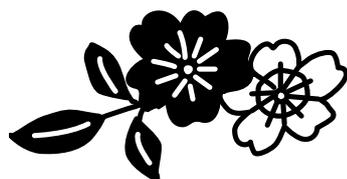
今から250年ほど前には、今と同じ^{ほうほう}方法で紅型が染められていたようですが、その^{ぎほう}技法がどこの国から伝わり、いつ頃から作られてきたのか、よく分かっていません。

〈^{おうちょう}王朝時代の紅型〉

紅型で染められた^{きもの}着物は、王様やその家族、その他、身分の高い人たちが身につけていました。一般の人達はお祭りの^{げいのう}芸能で着たり、少し^{ゆうふく}裕福な人達がお祝いの時に着たりしていました。また、中国や^{おうべい}欧米の国々へ^{おく}贈り物として差し上げたりしています。

〈紅型の染め方〉

型紙を使う「^{かたぞめ}型染」と糊袋を使う「^{のりぶくろ}筒描」があります。どちらも、^{のり}糊で色を染めない所を作り、^{のり}糊の無いところを染めます。



紅型の染め方 (筒描) つつがき



〔一日目にやること〕

- ① 下絵を描きます。
- ② 下絵をベニヤ板に置いて、その上に布を張ります。
- ③ 下絵の線に合わせて、糊袋のりぶくろに入れた糊のりで、布に模様もようを描きます。



☆糊で模様を描くポイント！

- ★ 糊袋のりぶくろを少しななめにたおし、布に押しつけながら描きます。
- ★ すばやく、一気に糊のりを引きます。
- ★ 糊のりがとぎれないようにします。



〔二日目にやること〕

- ④ 糊のりが乾いたら、色かわ（顔料がんりょう）をすりこみます。
 - ★ 顔料がんりょうは、岩石がんせきです。水にとけません。さあ、どうやって染めるのでしょうか？ よく先生を見てください！
- ⑤ 染めた色がかわいたら、色止めいろどをします（ミョウバンをぬる）。
 - ★ そのまま洗あらうと色が取れてしまいます。

〔三日目にやること〕

- ⑥ かわいたら、水につけて、糊のりを洗い落として完成かんせいです。
 - ★ 洗あらう前に2時間ほど、水につけておきます。



◆ 君ならどんなデザインにするかな??

- みほん -



しょうちくばい
松竹梅



ぼたん

MEMO

平成27年度 第2回講座

博物館体験学習教室

『筒描きを楽しむ！』



期日 平成27年6月 6日(土) 13:15~16:30
時間 6月 7日(日) 13:30~16:30
6月 13日(土) 10:00~12:00

場所 沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室

日程

6月6日(土)	受け付け 開講式 講座(実習) 《下絵描き・筒描き》 後片付け・諸連絡	13:00 ~ 13:15 13:15 ~ 13:30 13:30 ~ 16:15 16:15 ~ 16:30
6月7日(日)	受け付け 講座(実習) 《色差し・地染め・色止め》 後片付け 閉講式	13:15 ~ 13:30 13:30 ~ 16:00 16:00 ~ 16:15 16:15 ~ 16:30
6月13日(土)	《糊落とし・乾燥》 ～各自持ち帰り～	10:00 ~ 12:00

1 目 的

博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育まれてきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する。

2 日 時

平成 27 年6月6日(土) 13:15～16:30

6月7日(日) 13:30～16:30

3 対象者

一般

4 募集人員

(18)名

5 場 所

博物館実習室

6 日 程

6月6日 (土)	講師入り時間、用具等搬入、最終打合せ	12:00	～	
	6日(土)受付	13:00	～	13:15
	開講式 <実習室> 始めの言葉 …… 司会 (文化の杜:大瀧)	13:15	～	13:30
	講師紹介 …… 與那嶺一子(美術工芸担当学芸員)			
	講 座 <実習室>			
	<< 紅型とは >> 講師による解説	13:30	～	13:45
<< 下絵描き >>	13:45	～	15:00	
<< 筒描き >>	15:15	～	16:15	
	後片づけ・連絡等(6/13(土))の糊落とし		～	16:30
6月7日 (日)	7日(日) 講師入り時間	13:00		
	受付	13:15	～	13:30
	<< 色差し・地染め・色止め >>	13:30	～	16:00
6月7日 (日)	後片づけ		～	16:15
6月7日 (日)	閉講式	16:15	～	16:30
	始めの言葉 …… 司会 (文化の杜:大瀧)			
	講師によるまとめ …… 講評			
	記念撮影			
	終わりの言葉 …… 司会			
6月13日 (土)	1週間後 6/13(土) 水洗い・乾燥～ 各自持ち帰り *当日 10:30 から桶の水(ぬるま湯)に作品を漬け始める。(10:30 ～12:00)までの時間に、受講者各自が作品を受け取りに来る。受講者の対応は文化の杜が行う。			

7 講師

安里和雄(伝統工芸士)、大橋伸正、その他同組員

8 役割分担

(1)当日までの役割分担

- | | |
|---------------|-----------------|
| ①事業起案及び講師依頼 | 與那嶺・金城 |
| ②マスコミ各社への取材依頼 | 文化の杜 |
| ③受講生受け付け | 文化の杜 |
| ④講師打ち合わせ | 與那嶺・金城・比嘉・大濱・亶保 |
| ⑤説明資料作成 | 與那嶺・金城・大濱 |
| ⑥報償費支払い事務 | 與那嶺 |
| ⑦材料・用具等の諸準備 | 文化の杜 |
| ⑧写真記録 | 大濱・比嘉 |

(2)当日の役割分担

- | | |
|--------------------|----------|
| ①受け付け及び材料費の徴収 | 大濱・比嘉・渡部 |
| ②開講式・閉講式司会進行及び講師紹介 | |
| 司会 | 大濱 |
| 講師紹介 | 與那嶺 |
| ③講座の進行 | 大濱 |
| ④材料等の準備及び配布 | 大濱、比嘉 |
| ⑤記念撮影 | 文化の杜(亶保) |

9 準備するもの(材料・用具等)

◎必要な材料・用具

○講師準備

- ・不織布 20 枚(たて50cm×よこ55cm)、下絵模様 3 点
- ・麻布 20 枚(たて45cm×よこ50cm) ・ドライヤー
- ・染織材料、道具、のり(多めに準備する) ・筒用のセロファン紙1人×3枚=60枚

○館側が準備するもの

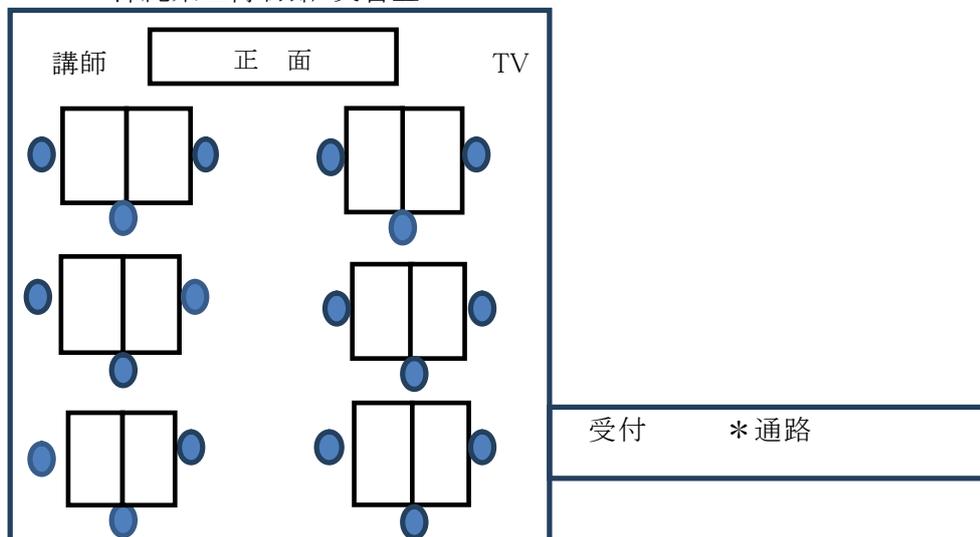
- ・作業版(新聞紙で包み準備する)
- ・焼きミョウバン(2袋)・セロテープ(6台)・クリップ(20本)
- ・新聞紙、画鋏(文化の杜) ・ドライヤー
- ・マジック(太用)、鉛筆(各1本) ・模造紙(たて45cm×よこ50cm)20枚

○受講生が準備するもの

- ・作業ができる服装
- ・材料費 1名(1,800)円

10 体験会場

沖縄県立博物館 実習室



平成 27年度 博物館体験学習教室

「筒描きを楽しむ！」

日 時

平成 27 年6月6日(土) 13:15～16:30

6月7日(日) 13:30～16:30

講 師

安里和雄(伝統工芸士)、大橋伸正、その他同組員

場 所

博物館実習室

日 程

6月6日 (土)	6日(土)受付	13:00	～	13:15
	開講式 <実習室>	13:15	～	13:30
	始めの言葉 …… 司会 (文化の杜:大濱)			
	講師紹介 …… 與那嶺一子(美術工芸担当学芸員)			
	講 座 <実習室>			
	《 紅型とは 》 講師による解説	13:30	～	13:45
	《 下絵描き 》	13:45	～	15:00
	《 筒描き 》	15:15	～	16:15
	後片づけ・連絡等(6/13(土))の糊落とし		～	16:30
6月7日 (日)	7日(日)受付	13:15	～	13:30
	《 色差し・地染め・色止め 》	13:30	～	16:00
	後片づけ		～	16:15
	閉 講 式	16:15	～	16:30
	始めの言葉 …… 司会(文化の杜:大濱)			
	講師によるまとめ …… 講評			
	記念撮影			
	終わりの言葉 …… 司会			
6月13日 (土)	1週間後 6/13(土) 水洗い・乾燥～ 各自持ち帰り 当日 10:3 から桶の水(ぬるま湯)に作品を漬けておく。 * 10:30 ～12:00 までの時間に、受講者各自が作品を受け取りに来る。			

メモ

デザインのイメージ

紅型のうちくいは、ある模様を旋回させて構成します。そのパターンがいくつかあります。自分の表現したい模様を次のように旋回させて、模様を構成してみましよう。模様は花でも鳥でも何でも構いません。

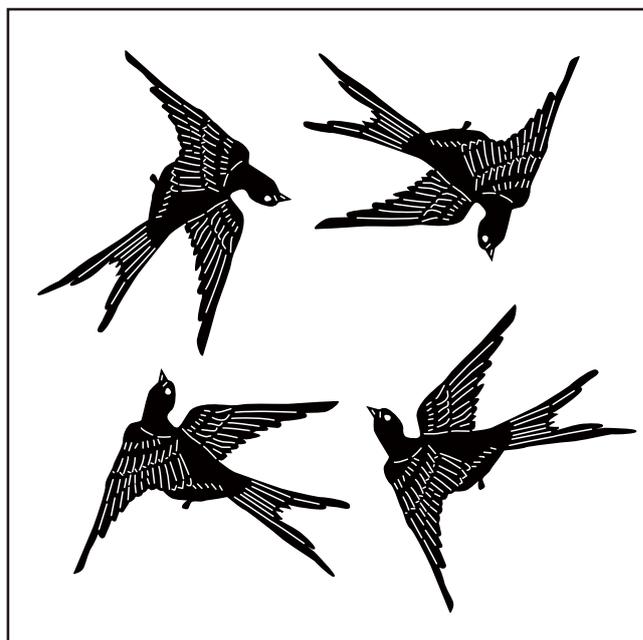
小さい布なので、細かな表現は難しいので、そこは注意！



模様一旋回



模様二回繰り返し旋回



模様四回繰り返し旋回

びんがた 紅型について

紅型は、沖縄を代表する^{こうげいひん}工芸品です。黄、赤などのあざやかな色や海と空を思わせる^{あゐ}藍の色など^{たさい}多彩で美しく、私達の^{きょうど}郷土に、このような世界に^{ほこ}誇れる工芸が、^う受け^つ継がれていることは素晴らしいことです。

〈紅型のはじまり〉

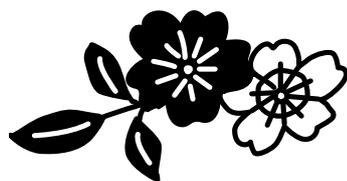
今から250年ほど前には、今と同じ^{ほうほう}方法で紅型が染められていたようですが、その^{ぎほう}技法がどこの国から伝わり、いつ頃から作られてきたのか、よく分かっていません。

〈^{おうちよう}王朝時代の紅型〉

紅型で染められた^{きもの}着物は、王様やその家族、その他、身分の高い人たちが身につけていました。一般の人達はお祭りの^{げいのう}芸能で着たり、少し^{ゆうふく}裕福な人達がお祝いの時に着たりしていました。また、中国や^{おうべい}欧米の国々へ^{おく}贈り物として差し上げたりしています。

〈紅型の染め方〉

型紙を使う「^{かたぞめ}型染」と^{のりぶくろ}糊袋を使う「^{つつがき}筒描」があります。どちらも、^{のり}糊で色を染めない所を作り、^{のり}糊の無いところを染めます。



紅型の染め方 (筒描) つつがき



〔一日目にやること〕

- ① 下絵を描きます。
- ② 下絵をベニヤ板に置いて、その上に布を張ります。
- ③ 下絵の線に合わせて、糊袋のりぶくろに入れた糊のりで、布に模様もようを描きます。



☆糊で模様を描くポイント！

- ★ 糊袋のりぶくろを少しななめにたおし、布に押しつけながら描きます。
- ★ すばやく、一気に糊のりを引きます。
- ★ 糊のりがとぎれないようにします。



〔二日目にやること〕

- ④ 糊のりが乾いたら、色かわ（顔料がんりょう）をすりこみます。
 - ★ 顔料がんりょうは、岩石がんせきです。水にとけません。さあ、どうやって染めるのでしょうか？ よく先生を見てください！
- ⑤ 染めた色いろどがかわいたら、色止めいろどをします（ミョウバンをぬる）。
 - ★ そのまま洗あらうと色いろどが取れてしまいます。

〔三日目にやること〕

- ⑥ かわいたら、水につけて、糊のりを洗い落として完成かんせいです。
 - ★ 洗あらう前に2時間ほど、水につけておきます。



平成27年度 第3回講座

博物館体験学習教室

『昆虫標本づくり！』



期日 平成27年7月25日（土） 9:30～12:00 台風12号のため中止
時間 7月26日（日） 13:30～16:00
8月22日（土） 9:30～12:00

場所 沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室

日程

7月26日（日）	受け付け	13:00	～	13:15
	開講式	13:15	～	13:30
	講座(実習)	13:30	～	15:50
	《昆虫標本作製・ライトラップ作製》			
	後片付け・諸連絡	15:50	～	16:00

8月22日（土）	受け付け	09:15	～	09:30
	講座(実習)	09:30	～	11:30
	《標本箱作り・昆虫の分類とラベル作成》			
	後片付け	11:30	～	11:45
	閉講式	11:45	～	12:00

1 目 的

博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育まれてきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する。

2 日 時

平成 27 年 7 月 25 日(土) 9:30～12:00 台風 12 号のため中止
7 月 26 日(日) 13:30～16:00
8 月 22 日(土) 9:30～12:00

3 対象者

小学校3年生～高校生

4 募集人員

20名

5 場 所

博物館実習室

6 日 程

	用具等搬入、全体打合せ(講師、ボランティア)	13:00	～
7月26日 (日)	1回目(日)受付	13:15	～ 13:30
	開講式 <実習室>	13:30	～ 13:40 (10)
	始めの言葉……司会 (文化の杜:渡部)		
	講師紹介 ……教育普及担当 (金城)		
	日程確認		
	講 座 <実習室>		
	《 昆虫について、昆虫採集の方法 》 講師による解説	13:40	～ 14:00 (20)
	《 昆虫標本のつくりかた 》 講師による解説	14:00	～ 14:20 (20)
	《 展翅、展足・標本作製 》 実習	14:20	～ 15:10 (50)
	《 ライトトラップ作製 》	15:10	～ 15:40 (30)
後片づけ	15:40	～ 15:50 (10)	
まとめ、次回の連絡	15:50	～ 16:00 (10)	
8月22日 (土)	2回目(土) 講師、ボランティア集合時間	9:00	
	受付	9:15	～ 9:30
	《 標本箱のつくりかた 》 講師による説明・実習	9:30	～ 10:30 (60)
	《 昆虫の分類とラベルのつくりかた 》 講師による説明・実習	10:30	～ 11:00 (30)
	《 ラベルの作成、昆虫を標本箱へ移動 》 実習	11:00	～ 11:45 (45)
	閉講式	11:45	～ 12:00 (15)
	始めの言葉……司会(文化の杜:渡部)		
	講師によるまとめ …… 講評		
	記念撮影		
	終わりの言葉…司会		

7 講師
山崎 仁也 (生物分野担当学芸員)

8 役割分担

(1)当日までの役割分担

- | | |
|---------------|----------------|
| ①事業起案 | 金城 |
| ②マスコミ各社への取材依頼 | 文化の杜 |
| ③受講生受け付け | 文化の杜 |
| ④打ち合わせ | 山崎・金城・渡部・大濱・比嘉 |
| ⑤説明資料作成 | 山崎・金城・渡部・大濱 |
| ⑥材料・用具等の諸準備 | 山崎・渡部 |
| ⑦ボランティア募集 | 比嘉 |

(2)当日の役割分担

- | | |
|--------------------|----------------|
| ①受け付け及び材料費の徴収 | 渡部・大濱・比嘉 |
| ②開講式・閉講式司会進行及び講師紹介 | |
| 司会 | 渡部 |
| 講師紹介 | 金城 |
| ③講座の進行 | 渡部 |
| ④材料等の準備及び配布 | 博物館ボランティア(約5人) |
| ⑤記念撮影 | 文化の杜 |

9 準備するもの(材料・用具等)

◎必要な材料・用具

○講師準備

- ・虫取り網 (20 本) ・発砲スチロール
- ・ユニパック(1 人=10 枚) ・酢酸エチル
- ・プラカップ 20 個

○館側が準備するもの

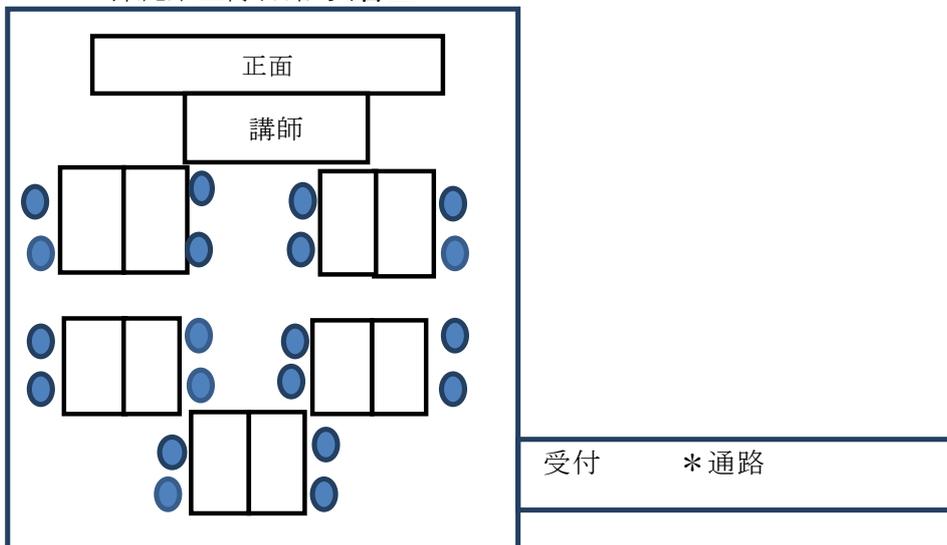
- ・三角紙 (中 200 枚 (1 人→10 枚)、特大 100 枚 (1 人→5 枚))
- ・展翅テープ(3種類5箱) ・昆虫針(1・3・5番:1 人→各 10 本) ・平均台
- ・買い物袋(20 枚)カッター ・はさみ ・定規 ・鉛筆 ・セロテープ ・ハレパネ
- ・カッター台 ・穴開けパンチ ・まち針(1人=100本)
- ・ハンガー20 本・透明下敷き(A4 サイズ 20 枚)・A3 クリアファイル 20 枚・S 字フック 1 人→4 個
- ・ピンセット・防虫剤 1 箱 2 個・標本ラベル(A3を 6 等分)・ボールペン(細字用)
- ・透明プラスチック板(A3 ハードケース)

○受講生への連絡(準備するもの)

- ・作業ができる服装 ・空き箱
- ・材料費 1名(500)円

10 体験会場

沖縄県立博物館 実習室



平成 27年度 博物館体験学習教室

「 昆虫標本づくり 」

- 1 目 的
博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育まれてきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する。
- 2 日 時
平成 27 年 7 月 25 日(土) 9:30～12:00 台風 12 号のため中止
7 月 26 日(日) 13:30～16:00
8 月 22 日(土) 9:30～12:00
- 3 対象者
小学校3年生～高校生
- 4 募集人員
20名
- 5 場 所
博物館実習室
- 6 日 程

7月 26 日 (日)	1回目(日)受付 開講式 <実習室> 始めの言葉……司会 (文化の杜:渡部) 講師紹介 ……教育普及担当 (金城) 日程確認	13:15 ~ 13:30	13:30 ~ 13:40 (10)
	《 昆虫について、昆虫採集の方法 》 講師による解説・実習	13:40 ~ 14:00 (20)	
	《 昆虫標本のつくりかた 》 講師による解説・実習	14:00 ~ 14:20 (20)	
	《 展翅、展足・標本作製 》 実 習	14:20 ~ 15:10 (50)	
	《 ライトトラップ作製 》 実 習	15:10 ~ 15:40 (30)	
	後片づけ まとめ、次回の連絡	15:40 ~ 15:50 (10) 15:50 ~ 16:00 (10)	
8月 22 日 (土)	2回目(土) 講師、ボランティア集合時間 受付	9:00 9:15 ~ 9:30	
	《 標本箱のつくりかた 》 講師による解説・実習	9:30 ~ 10:30 (60)	
	《 昆虫の分類とラベルのつくりかた 》 講師による解説・実習	10:30 ~ 11:00 (30)	
	《 ラベルの作成、昆虫を標本箱へ移動 》 実 習	11:00 ~ 11:45 (45)	
	閉 講 式 始めの言葉……司会 (文化の杜:渡部) 講師によるまとめ …… 講評 記念撮影 終わりの言葉…司会	11:45 ~ 12:00 (15)	

〈講師紹介〉

やまざき じんや
山崎 仁也 (生物分野担当学芸員)

メモ

博物館体験学習教室

昆虫標本づくり資料

1日目 平成27年7月25日(土) 9:30~12:00

2日目 7月26日(日) 9:30~12:00

3日目 8月22日(土) 9:30~12:00



南方新社
『昆虫の図鑑』
p220~228 抜粋

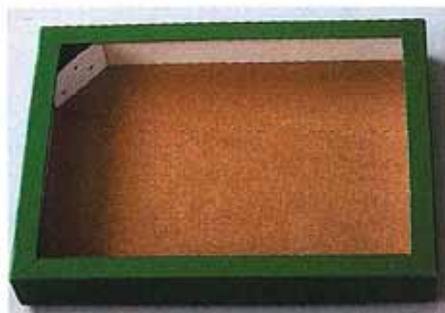
⑨標本の保存や並べ方

標本にラベルを付けたら、次は標本箱に入れます。この標本箱しだいで、長く保存できたり、すぐにカビが生えたり、虫(カツオブシムシなど)に食べられたりと、保存状態が違ってきます。

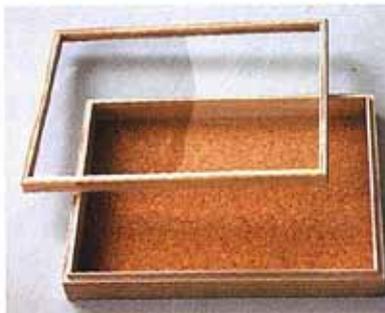
標本箱には木製のガラス箱と紙箱の2種類があります。木製のガラス箱は機密性もよく長期の保存に適しています。開け閉めに気をつければ、ほとんどカビが生えることはありません。しかし、紙箱はどうしてもすき間ができるために、外から湿気や虫が入りやすくなります。

標本箱の中に入れるときは、天気のよい乾燥した日にしましょう。湿度が高いときは、エアコンなどで部屋の湿度を下げてから入れるようにしましょう。そのとき、中に衣類用のナフタリンを入れておくとカビや虫除けになります。これらは箱の中で転がらないようにしっかり止めておきます。(パラジクロールベンゼンは揮発性が高くて長持ちしないし、標本箱の中の白いペフ板が変質して曲がることがあるので、できるだけナフタリンを使う方がよい)

標本箱は横長に使い、標本は種類や採集地、季節などのテーマごとに並べます。一般に、チョウ、ガなどは縦に並べます。できあがった標本箱は、温度変化のない涼しい所で保管しましょう。そのとき、ガラス面に光が当たらないようにすると、標本の色もほとんど変化せず長持ちします。(光が長く当たると色があせてくる)



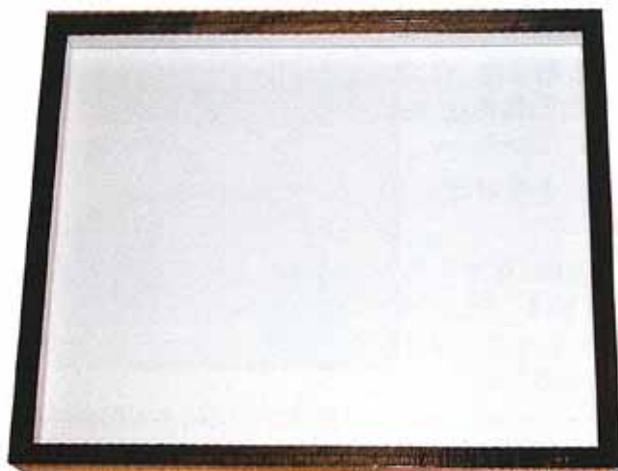
紙製の標本箱



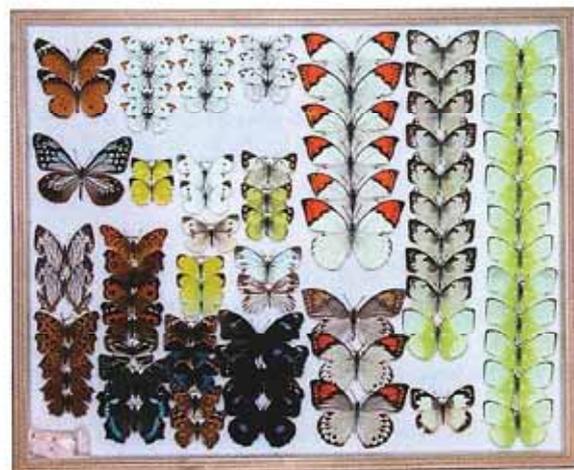
木製(キリ)の標本箱



木製の標本箱



ドイツ箱(510×420×60mm)



標本の並べ方(ドイツ箱)

※夏休みの宿題用など、長期保存を目的としないのなら、空き箱や木箱に厚めのセロハンやビニール、アクリル板などを張った自作の標本箱で充分です。

昆虫はとても種類が多いので、名前を確認しようと思ったら標本にするのがベストです。また、飼っていた虫も死んだら標本にして残しておく、後でいろいろなことを調べることができます。美しいから、おもしろい形をしているから集めてみよう、という場合でも、標本作りは必要です。せっかく採集してきたものですから、きちんと標本にして活用しましょう。

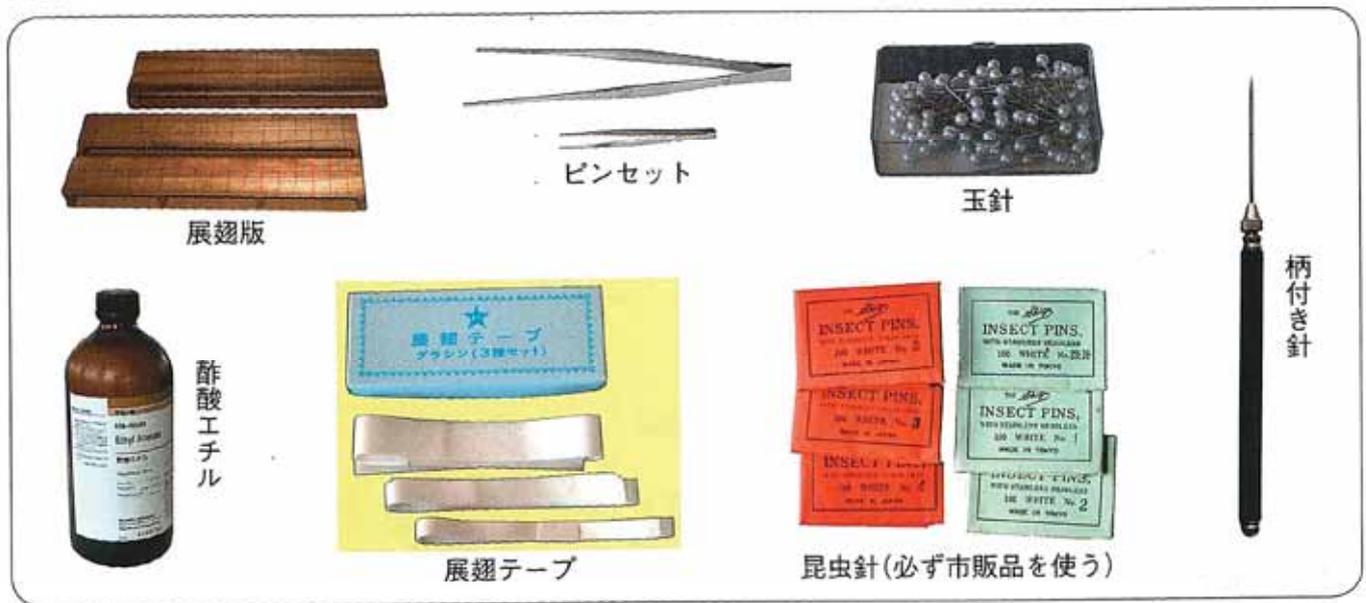
(1)標本作りに必要な用具

標本を作るためには、最低いくつかの用具が必要です。自分で作れるものもあれば、市販品を買わなければならないものもあります。

- ①展翅板(てんしばん)：チョウ、ガ、トンボ、ハチ、アブ、バッタなどの羽を広げるためのものです。
- ②展足板：甲虫やバッタなどの足、触角をそろえるためのもの。トンボやハチ、アブなどの標本作りにも使います。市販品もありますが、厚さ5cm程度の発泡スチロールでもいいです。
- ③昆虫針：長さ4cm程度の針。頭が玉状になった有頭針とそれがない無頭針があります。昆虫の大きさによって0号(細い)から5号(太い)まであり、種類によって使い分けます。(必ず買わなければならないもので、縫い針や虫ピンは後でサビなどがでて、せっかくの標本がだめになってしまいます)

例：カブトムシ、アゲハなど(5号) カナブン、トンボ、タテハチョウなど(4号)
ゴミムシ、シジミチョウなど(3号) 前記以外の体の小さい昆虫(2~0号)

- ④玉針：展翅や展足をするとき固定するために使います。頭に玉がついたものがよく、たくさんあった方がいいです。
- ⑤展翅テープ：種類に合わせて3種類くらいの幅があると便利です。



- ⑥ピンセット：先のとがったものがよい。
- ⑦柄付き針：展翅板を使って昆虫の羽などを整えるのに必要です。昆虫針を割りばしに縛り付けて作ることもできます。
- ⑧酢酸エチル：野外で採集した虫を殺すための薬です。(大人の人に薬局で買ってもらいましょう)
- ⑨その他
 - ・タトウ紙(四角紙)
 - ・ポリフォーム
 - ・トンボなどの標本作りには、しっぽが折れないようにするためにエノコログサな



ドイネ科の茎の芯を入れます。秋のうちにたくさん採って乾燥させておくといいでしょ。
 ・できあがった標本に採集データラベルを付けるため、平均台があると便利です(202頁参照)。

(2)標本の作り方

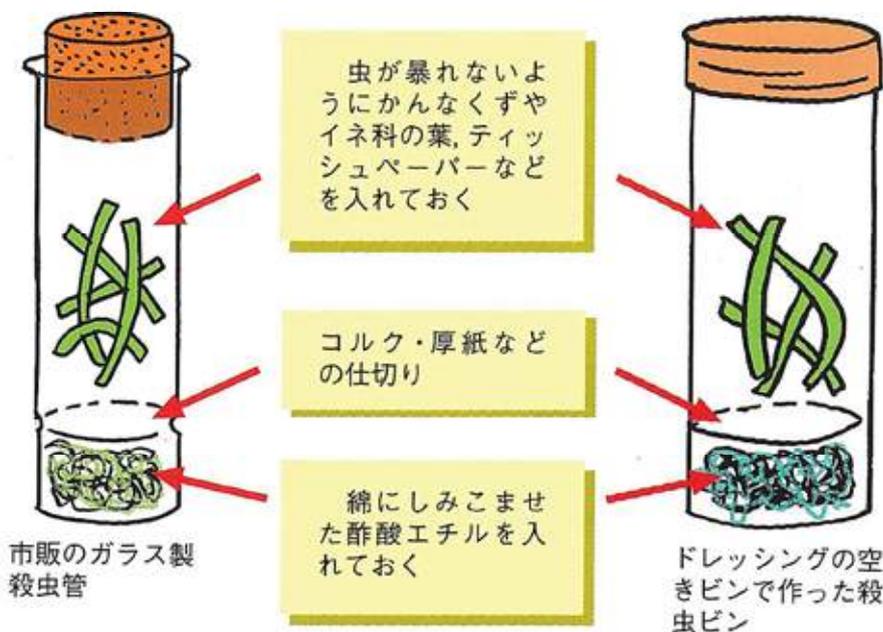
採集してきた昆虫は、殺した後、形を整えてできるだけ早く乾燥させるか、アルコールに浸けて保存する方法(幼虫など)があります。ここでは乾燥させる方法を紹介します。死んだ虫は大きさによって標本の作り方を変えます。

昆虫を生かしたまま持ち帰りたい時は、1頭ずつに分けて持ち帰るといいです。小さなものはフィルムのケースや密閉容器を利用します。直射日光などが当たって中が蒸れたりしないよう気を付ければ、とくに換気用の穴を開ける必要はありません。市販の飼育ケースなどに一度にたくさん入れると中で暴れたり、虫によっては食べられたりすることがあります。どうしてもいっしょに入れるときは、中に草や木の枝などを入れて、虫同士が触れあわないようにする工夫が必要です。

飼っていた昆虫が死んだのを標本にする時は、死後すぐに標本にします。そのままにしておくと足や頭がとれたり、腐ってにおいがしたりします。

①殺虫管を使う

採集した昆虫を標本にする時は、図のような殺虫管(ビン)に入れて持ち帰ります。甲虫、カメムシ、ガなどは酢酸エチルを入れた殺虫ビンの中で完全に殺しておきます。薬品がないときは、密閉容器などに入れて冷凍させてもいいです。標本にする時は外に出した後、常温になるまでふたを開けないでそのままにしておきます。標本にする前に水やお湯で洗うとカビが生えにくくなります。

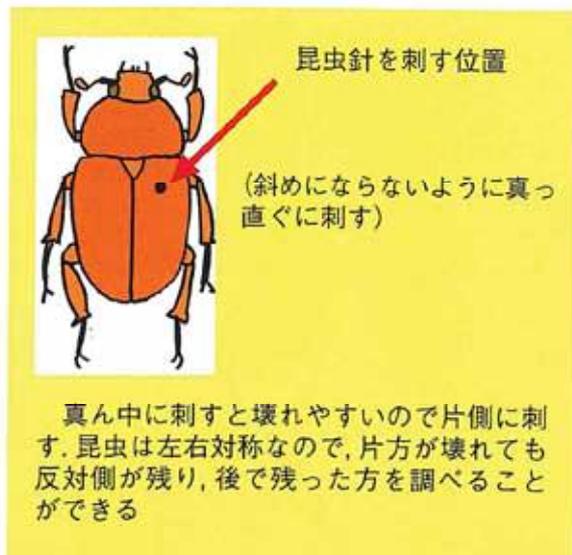


②甲虫類(1cm以上のもの)、セミ

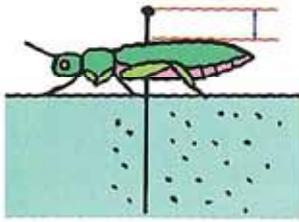
だいたい1cmより大きなものは、図のように右上翅に昆虫針を刺します。

セミも特に羽を広げなくても標本が作れます。甲虫と同じように背中のところ針を刺して、展足板の上で足を整えて乾燥させます。

体の大きいものは乾燥後くるくる回ることがあるので、そのときは裏からボンドなどで目立たないように固定します。

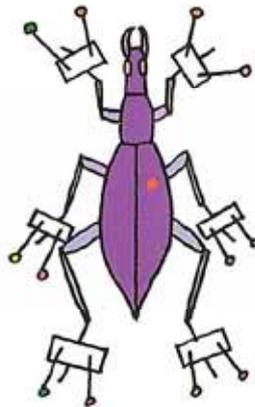


展足図(断面図)



・発泡スチロールに真っ直ぐに、おなかがつくまで刺す。虫の背面に出ている長さをそろえると(1cm前後)、標本箱に入れたときにきれに見える

展足図(上面図)



足や触角を小さく切った紙をまち針で止めて形を整える(足は、あまり広げすぎないようにする)



足を縮めた形

小さな甲虫

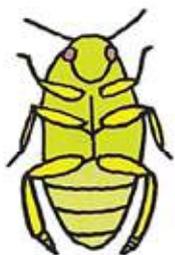
1cm以下の甲虫は、真ん中に四角に切った綿を置いたタトウ紙(四角紙)に包んで乾燥させます。しばらくはピンセットなどで足などを整えます。

十分乾燥したら、台紙やプラスチック板に水糊や木工用ボンドなどを使って貼り付けます(後で必要になったときに水につけるとはがれる糊がいい)。足はきれいに揃えたほうがよいですが、小さすぎて揃えられないものはそのままでもかまいません。紙を使う場合は、名刺の紙などを切って使ってもいいです。

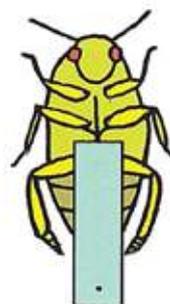
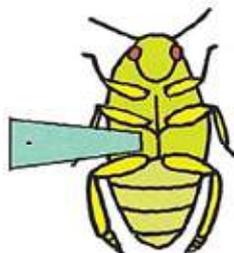
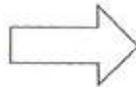
脱脂綿



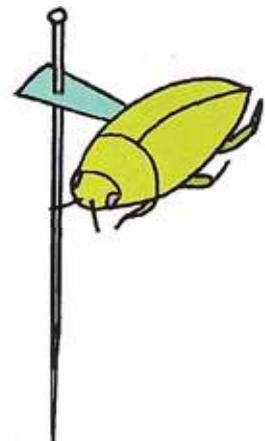
タトウ紙(四角紙)



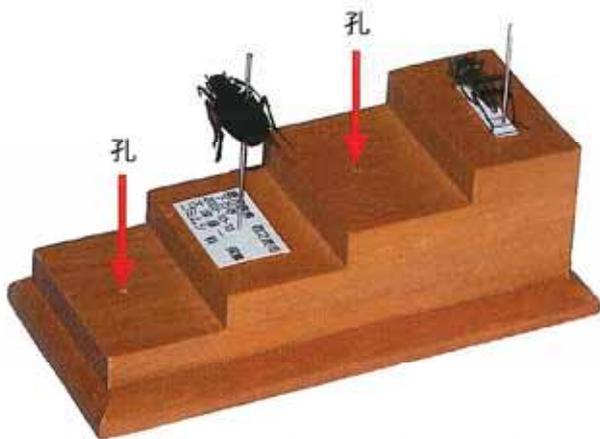
虫をあおむけにおく



図のように台紙やプラスチック板を付ける



針を刺した台紙に付けた甲虫



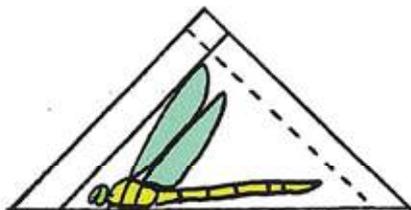
平均台に標本をおいて高さをそろえる

※乾燥した甲虫は、あらかじめ針を刺した台紙などに糊を塗ってから付けるとやりやすい

※台紙の高さを揃えるために平均台を使う。市販のものもあるが、発泡スチロール板などを切って(1段6mm)、ベニヤ板などに貼り付けてもよい

③トンボ類

トンボは死ぬと体色に変化しやすいので早く処理します。でも肉食のため腐りやすいので、採集したら三角紙に入れて生かしたままにしておき、フンを出させます。死んだら腐らないうちに、できるだけ早く標本を作ります。そのとき腹部が曲がったり折れたりしないように、エノコログサなどイネ科の草の茎を乾かしたものを差し込みます。種類に合わせて、いろいろな太さのものを準備しておくといいです(イトトンボにはチヂミザサなどの細いものを準備しておくといよい)。ビニールのほうきやテグスなどを切っても使えます。

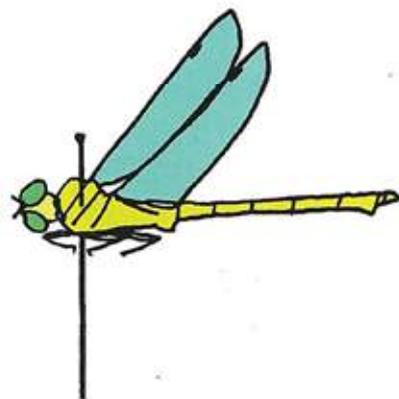


三角紙に入れて飢え死にさせる



※芯は外から当てて長さを測り、切ってから入れる

- ・体が柔らかいうちに、裏返して頭を押し下げて胸から入れる
- ・尾端の手前で止める
- ・尾端の形で種類を調べるため傷めないようにする



横刺しにした標本

横刺しの標本

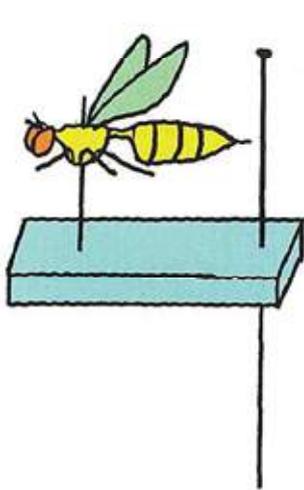
トンボは胸や腹の横の模様で同定することが多いため、標本はチョウのように羽を広げてもよいが、羽をたたんだまま横刺しにすることが多い。この方が場所をとらない上に種名も調べやすい。このとき、針がトンボの体に入れた草の芯を通るようにすると、安定する。

④ハチやアブ

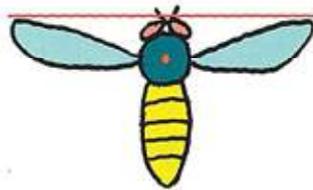
ハエやハチの仲間は、羽が小さく広げにくいので、そのままの状態ですべて針を刺して乾燥することが多いです。羽を広げるときは展翅板を使います。

ハチは刺す種もいるので、捕虫網で採集したとき、手で直接つかんではいけません。まず殺虫管のふたを

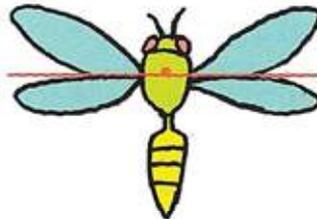
はずして捕虫網の中に入れ、ハチをピンの中に追い込みます。うまく入ったら、一度、網の上からふたをします。動かなくなったら網から取り出し、再度ふたを閉め直します。



微針に刺したもの



羽を頭の位置にそろえる
(アブの仲間、羽2枚)



チョウの標本と同じように
する(ハチの仲間、羽4枚)

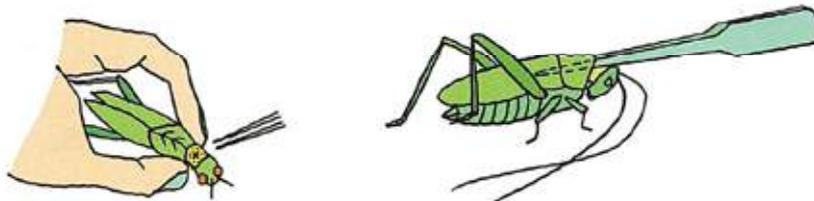
大型種は甲虫と同じように針を刺し、展翅板を使って作るが、小さなものは図のように微針(17mm)を使う。小さく切ったポリフォームやコルク片などに微針で虫を刺し、それに昆虫針を刺す。このとき羽はそのままでよい。

展翅板を使って羽を広げた標本を作るときは、図のように羽の位置に気をつける

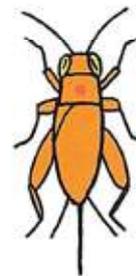
⑤バッタの仲間

バッタやキリギリスの仲間は腹部が大きくて死ぬと変色しやすいので、早く標本を作る必要があります。採集した虫はできるだけ生かしたまま持ち帰るか、殺虫管で殺しても長く入れておかないで早く出すようにします。とくに体が緑色をしているものは、長く入れておくと黄色く変色します。

※1cm以下は小甲虫と同じように台紙等に貼る
※1~3cmは、そのまま背中から針を刺して乾かす



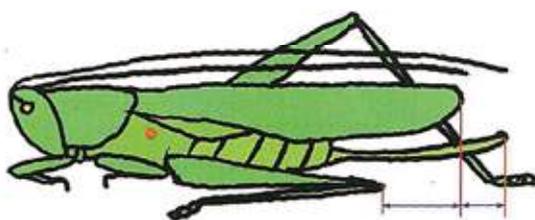
三角紙などの紙を使って「鉛包み」にして持ち帰る



バッタ科やコオロギなど、体が平べったいものは、背中から針を刺す

キリギリスやショウリョウバッタなど、おなかの大きいものは内臓を取り除く

※頭と前胸との間にある柔らかい部分をピンセットで突いて穴を開け、中の内臓を引き出して取り除く。取り除いたあとはおなかがへこむので、綿を丸めたものを詰める。あとは、頭と前胸を付けておくと体液でくっつく。



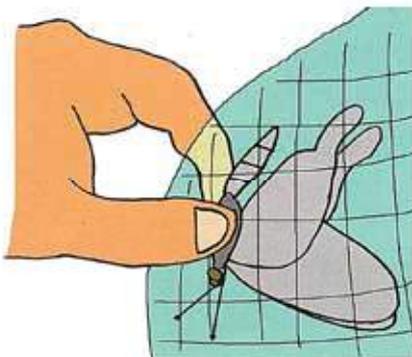
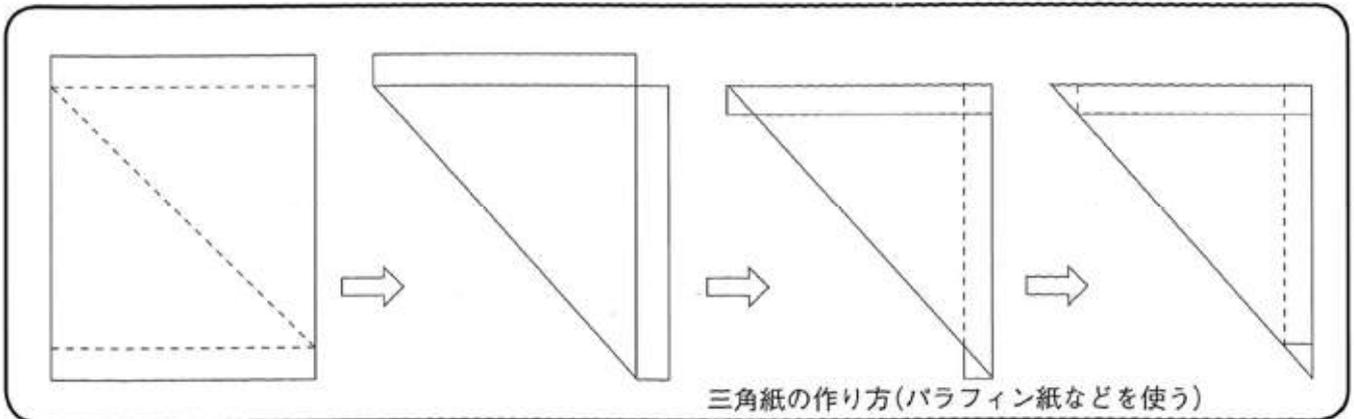
キリギリスのように体が縦に薄いものは、針を胸の横から刺した方がよい

※長い触角は体と平行に後方へ流す

※足の形に注意(片方は曲げ、片方は伸ばす)

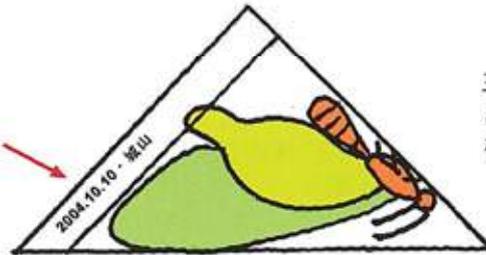
⑥チョウ・ガ

チョウや大型のガは、採集したら、捕虫網の上から羽をたたんだ状態で胸を指で押さえて圧死(気絶)させます。動かなくなったら羽に触れないように胸を持って三角紙に入れ、三角ケースに入れて持ち帰ります。標本作りには、羽を広げて固定する展翅板を使います。

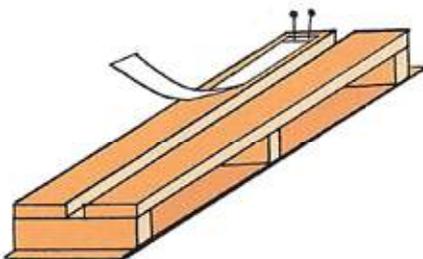


網の上から胸を指で押す

データを
書いておく



三角紙に入れる
ときは羽を触ら
ないようにする



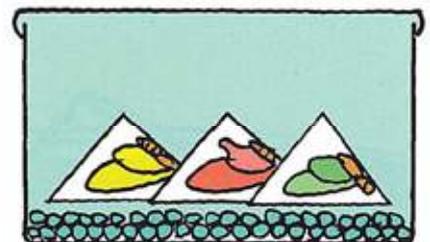
展翅板と展翅テープ

三角紙の使い方と保存の仕方

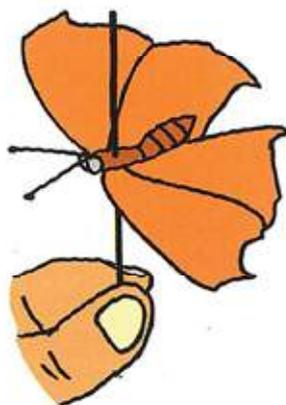
- ①触角を羽の間に隠すように包むと触角が折れない
- ②データを鉛筆で書いておく(鉛筆だとぬれても消えない)
- ③すぐに展翅ができないときは密閉容器(タッパーなど)に入れて冷凍庫に入れる(1ヵ月くらいはもつ)
- ④冷凍庫から出したときは常温に戻るまで、ふたは開けない(すぐに開けると結露する)

乾燥して固くなったものを標本にするとき

- ①密閉できる容器の底に、水で湿らせた脱脂綿や熱帯魚用の小石を敷き詰める
- ②三角紙のまま、その上に並べる
- ③2~3日くらい冷蔵庫に入れ、羽や触角がある程度動くようになったら出す(胸に熱湯を注射してもよい)。カビに注意
- ④羽を動かす筋肉を横から針で突いてこわす
- ⑤羽の付け根に、薄めた木工用ボンドをしみこませて展翅をする



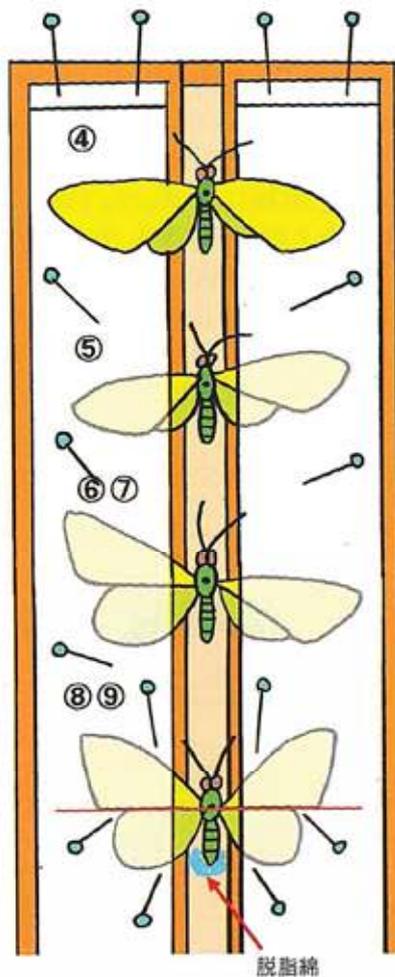
展翅の仕方



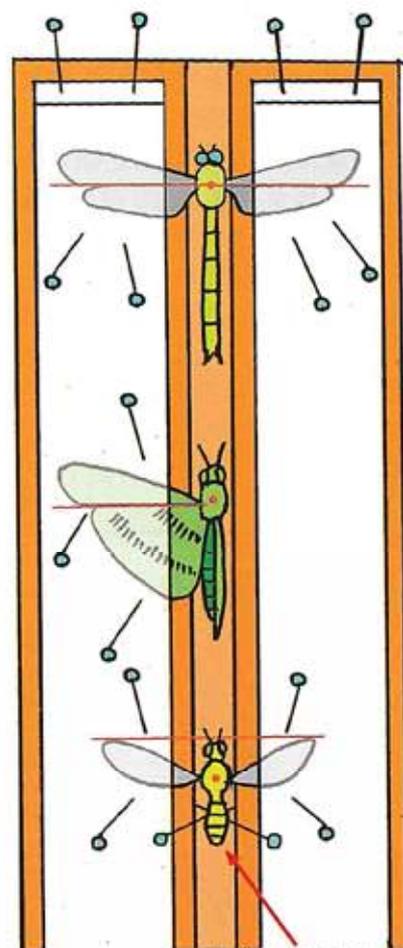
①, ②針の刺し方



③, ④展翅板への置き方



チョウやガの展翅の仕方



長い針を斜めにクロスさせて体を支えてもよい

他の昆虫の展翅の仕方

- ①針を真っ直ぐに背中中央に刺す
 - ②針の半分より深くなるまで刺す
 - ③虫を刺した針を展翅板の溝の真ん中に真っ直ぐ刺す
 - ④羽を展翅板の高さにそろえるために、背中をピンセットで押し下げる。腹が下がるので脱脂綿などを敷いて支える(上がりすぎにも注意する)
 - ⑤羽を展翅テープで押さえる
 - ⑥テープのすき間から、まち針などで羽の脈を引っかけて動かし、羽の位置を決める
 - ⑦前羽の下の方が体に対して直角になるようにする
 - ⑧後羽は、前羽との重なりが前羽の半分より長くなるようにとめる
 - ⑨触角もテープやまち針で固定する(細いテープを横に渡してもよい)
- ※羽に針を刺さないように気をつける

※展翅板は作ってもよいが、市販のものが無難。メーカーによって高さが違うので、大、中、小と同じメーカーのものをそろえた方がよい

※展翅板のサイズは1～6号まである

例：1号→アゲハチョウ, 3号→タテハチョウ, 5～6号→シジミチョウ

※チョウやガは展翅板からはずすと、わずかに羽が下がることがあるので、最初から外側が上げてある傾斜型展翅板を使うときれいに仕上がる ※展翅テープは、羽の先が出ないくらいの広い紙を使う方がよい。パラフィン紙など半透明な紙を利用すると透けて見えるのでよい

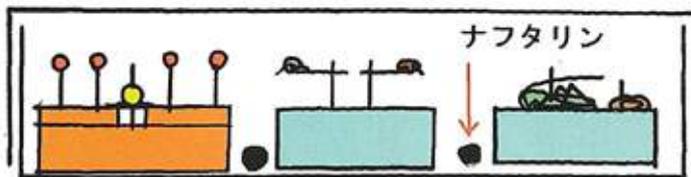
⑦乾燥の仕方

展翅板や展足板を使ってきれいに形を整えても、乾燥がしっかりできていなければ、標本箱の中に入れてからカビが生えたり、羽や足が下がってしまうことがあります。しっかり乾燥させましょう。

乾燥の期間は気温や湿度にもよりますが、夏の晴天が続いている頃なら2週間くらいを目安にするといでしょう。腹部や大きな足などを針で軽くはじいてみて、固くなっていたら大丈夫です。

乾燥は、展翅板や展足板がゆっくり入る紙箱等に入れてふたをします。このとき密封してしまうと、乾燥せずカビが生えます。逆にすき間が多いと乾燥にはいいのですが、ゴキブリなどが食べてしまうことがあります。アリやゴキブリがいないようであれば、ふたをしないう方が乾燥しやすいです。

急いで乾燥させる必要のあるときは、加熱処理機(乾燥機など)を使うと半日から1日程度で乾燥させることができます。その場合はテープを使って羽をしっかり押さえておかないと、反ったりすることがあります。トンボやセミなどは加熱すると羽がキラキラ光ったり、体色の変化がひどくなるので要注意。トンボは三角紙に入れたまま紙の空箱に入れて冷蔵庫に入れ低温乾燥させると、体色変化をある程度抑えることができます。



紙箱に入れて乾燥

※箱の中にはナフタリン
などを入れておく

⑧標本ラベルの作り方と付け方

乾燥後は標本箱に入れますが、その前に標本1匹ずつにラベルを付けなければなりません。標本ラベルは画用紙程度の厚さの紙(ケント紙を使うとよい)で、1枚の大きさは縦1cm、横2cm程度、ワープロなどがあれば、小さく印刷してそれを切るときれいです。

ラベルには、①採集地、②採集年月日、③採集者名の3つは必ず入れましょう。これらが無いものは標本としての価値がなく、後で調べるときにも困ります。

その他に、科名や種名などを書いたものを付けてもかまいません。1枚の紙に入らないときは上下2段に分けて付けます。



ラベルの付け方



ラベルの書き方の例

ラベルのサイズは目安です。
標本の大きさに合わせて変えてもよい

平成27年度 第4回講座

博物館体験学習教室

『見えない空気のフシギ!』



期日 平成28年2月7日（日）
時間 10:00～12:00

場所 沖縄県立博物館・美術館 子どもアトリエ・県民アトリエ

日程

2月7日(日)	受け付け	09:45	～	10:00
	開講式	10:00	～	10:05
	講座(実習)	10:05	～	11:45
	《ブーメラン作製・空気砲作製》			
	後片付け	11:45	～	11:50
	閉講式	11:50	～	12:00

平成 27 年度 博物館体験学習教室 「見えない空気の新ギ」実施計画

1 目 的

博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育まれてきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する。

2 日 時

平成 28 年 2 月 7 日(日) 10:00～12:00

3 対象者

小学校3年生～高校生

4 募集人員

20名

5 場 所

県民アトリエ・子どもアトリエ

6 日 程

2月7日 (日)	受 付	9:45 ~ 10:00 (15)
	開講式<県民アトリエ、子どもアトリエ> 始めの言葉 司会 (文化の杜:渡部) 講師紹介及び日程確認 教育普及担当 (金城)	10:00 ~ 10:05 (5)
	講 座 <実習室> 《大気圧について》	講師による解説&実験 10:05 ~ 10:35 (30)
	《 浮力の話し 》	講師による解説&実験 10:35 ~ 10:55 (20)
	《 空気の流れ 》	講師による解説&実験 10:55 ~ 11:15 (15)
	実習① ~ ブーメラン作製 ~	11:15 ~ 11:25 (15)
	実習② ~ 空気砲作製 ~	11:25 ~ 11:45 (20)
	後片づけ	11:45 ~ 11:50 (5)
	閉 講 式 始めの言葉.....司会(文化の杜:渡部) 講師によるまとめ 講評 記念撮影 終わりの言葉...司会	11:50 ~ 12:00 (10)

7 講師

金城 靖信（沖縄県立総合教育センター研究主事）

8 役割分担

(1)当日までの役割分担

- | | |
|----------------|-----------------|
| ①事業起案(実施要項等作成) | 金城 |
| ②マスコミ各社への取材依頼 | 文化の杜 |
| ③受講生受け付け | 文化の杜(タイムス、新報など) |
| ④打ち合わせ | 講師・仲里・金城・渡部・亘保 |
| ⑤配布用説明資料作成 | 講師・・・A4 サイズ 1 枚 |
| ⑥説明資料等印刷等 | 文化の杜 |
| ⑦材料・用具等の諸準備 | 講師、文化の杜 |

(2)当日の役割分担

- | | |
|--------------------|-------|
| ①受け付け及び材料費の徴収 | 渡部・亘保 |
| ②開講式・閉講式司会進行及び講師紹介 | |
| 司会 | 渡部 |
| 講師紹介 | 金城 |
| ③講座の進行 | 渡部 |
| ④材料等の準備及び配布 | 文化の杜 |
| ⑤記念撮影 | 文化の杜 |

9 準備するもの(材料・用具等)

◎必要な材料・用具

○講師準備

- ・実験使用道具
- ・製作物材料（ブーメラン、空気砲）

○館側が準備するもの

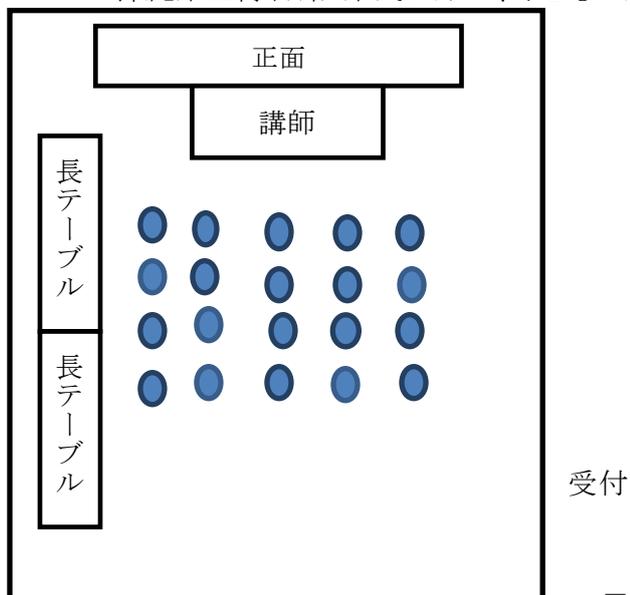
- ・PC、延長コード4～5本、クロス（黒）・・・仲里
- ・TV・・・実習室から移動 渡部、亘保
- ・ハサミ20本、ガムテープ白5つ、ホチキス、セロテープ・・・渡部、亘保
- ・長テーブル2台、実験用台1台

○受講生への連絡(準備するもの)

- ・作業ができる服装
- ・材料費 1名(200)円
- ・筆記用具

10 体験会場

沖縄県立博物館 県民アトリエ、子どもアトリエ



平成 27 年度 博物館 体験学習教室

「見えない空気のフシギ」

1 目 的

博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育まれてきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する。

2 日 時

平成 28 年 2 月 7 日(日) 10:00～12:00

3 対象者

小学校3年生～高校生

4 募集人員

20名

5 場 所

県民アトリエ・子どもアトリエ

6 日 程

2月7日 (日)	受 付	9:45 ～ 10:00 (15)
	開講式<県民アトリエ、子どもアトリエ> はじめの言葉 …… 司会 (文化の杜:渡部) 講師紹介及び日程確認 …… 教育普及担当 (金城)	10:00 ～ 10:05 (5)
	講 座 <実習室> 《 大気圧について 》	講師による解説&実験 10:05 ～ 10:35 (30)
	《 浮力の話し 》	講師による解説&実験 10:35 ～ 10:55 (20)
	《 空気の流れ 》	講師による解説&実験 10:55 ～ 11:15 (15)
	実習① ～ ブーメラン作製 ～	11:15 ～ 11:25 (15)
	実習② ～ 空気砲作製 ～	11:25 ～ 11:45 (20)
	後片づけ	11:45 ～ 11:50 (5)
	閉 講 式 はじめの言葉…司会(文化の杜:渡部) 講師によるまとめ …… 講評 記念撮影 終わりの言葉…司会	11:50 ～ 12:00 (10)

〈講師紹介〉

金城 靖信（沖縄県立総合教育センター研究主事）

メモ

1. 空気の重さ

- 1 cm
 (1) ←この大きさに()の重さがかかっている。

みんなのまわりにある空気のことを()という。

- (2) 掃除機でボーリングのボールを持ち上げるにはつつとフタと()を使う。

どうして持ち上がったのか考えてみよう！

- (3) 水の中で浮かぶ力を()という。

※ペットボトルの中で浮きたい流んだいしているものを()という。

どうして流んだのか考えてみよう！

- 低気圧だと()ができる。高気圧だと()がきえる。

2. 空気の流れ

こうさく
工作① →

こうさく
工作② →

メモ(今日わかったことを書こう！)

IV 博物館文化講座

1 博物館文化講座実施要項

(1) 趣旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、広い視点から分かりやすく楽しく、有意義な学習ができるよう、文化講座を開催する。これを開催することにより、沖縄の自然・歴史・文化に対する県民の意識の向上を図ることを目的とする。

(2) 内容

当博物館の展示内容と関連する自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野についての講演、展示品の解説、実技指導、現地研修などを通して、県民各層が分かりやすく有意義に学習できるよう企画されている。

(3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、土曜日 午後2時～4時までの2時間

場 所：特に指定がない場合は、当館講堂（3F）

(3) 受講方法

当日先着200名（事前申込み不要）

回数	期日	演題	講師名	定員	参加者
455	4月18日	「ゲノムから探る琉球人の多様性とその成り立ち」	佐藤丈寛	200	144
456	5月16日	「布に踊る人の手ー中国貴州省・苗族の布づくりー」	鳥丸知子	200	140
457	6月20日	「やんばるの沖縄戦」シンポジウム	林博史 田里一寿 川満彰 安座間充	200	160
458	7月11日	「発掘！沖縄の先史集落」シンポジウム	玉榮飛道 與那嶺俊 長濱健起	200	160
459	8月15日	「動物園のよもやま話」	吉岡由恵・島袋洋次	200	103
460	9月19日	「琉球王国時代の地方役人」	里井洋一	200	114
461	10月17日	「葬送儀礼の移りかわり」	崎原恒新	200	167
462	11月21日	「死者とつながる琉球弧の哭きうた（葬送歌）の世界」	酒井正子 国場民俗伝統芸能保存会	200	190
463	12月19日	「琉球の鐘と北部九州の鋳物師集団」	新郷英弘	200	92
464	1月16日	「やんばるの戦跡巡り」バスツアー	安座間充・田里一寿	25	25 (65応募)
465	2月13日	「台風と自然災害～台風を知ることと身を守ること～」	伊藤耕介	200	77
466	3月5日	「消えた琉球競馬ー幻の名馬「ヒコーキ」を追ってー」	梅崎晴光・安里進	200	143

2 文化講座の実施状況

第455回 文化講座「ゲノムから探る琉球人の多様性とその成り立ち」

日時 2015年4月18日（土） 14:00～16:00 参加者144名

講師 佐藤 丈寛（琉球大学大学院医学研究科・日本学術振興会特別研究員）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

はじめに、ゲノムについて解説がされた。ゲノムとは、生物の設計図で一人ひとりがもっている遺伝情報全体のことである。ゲノムには、人類の進化・移動・混血の歴史が刻まれている。ゲノムから近縁関係を推定することもできる。近年 DNA 解析技術の飛躍的な進歩に伴い、人類学の分野でもゲノム情報が盛んに活用されるようになってきた。講座では、ゲノム情報を用いた人類学研究の事例紹介とゲノム解析の結果から見えてきた琉球人の多様性とその成り立ちについて解説がされた。講師の研究から琉球列島出土の更新世人は、現在の琉球人の主要な祖先ではないと推定されるとのことであった。ゲノム情報から、医療の変革はもちろんだが、琉球人がどこから来たのかなど、様々な事が明かされる日も近い。



会場いっぱいの参観者



講演を行う佐藤氏



データ解説に聞き入る参観者

第456回 文化講座「布に踊る人の手ー中国貴州省・苗族の布づくりー」

日時 2015年5月16日（土） 14:00～16:00 参加者140名

講師 鳥丸 知子（染織研究家）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

中国少数民族ミャオ族の緻密で魅力あふれる手仕事について、講師が 30 年に渡る現地調査で収集した染織品を交えて解説がされた。苗族の女性達は、13 歳ぐらいから 3 年ほどかけ布を織りはじめる。伝統の民族衣装には民族の誕生や継承にまつわる伝説や先祖からのメッセージが込められている。また、負帯や帽子は民族の存続や幼子を包んで育てる際のお守りとしての役割も果たす。模様の三角はクロスステッチなどで、チョウを表現している。染めに使う藍草は、2 種類あり、ミャオ族の藍染めは赤に近い泥藍をつくる。染色作業は、たたくー一天日干しの繰り返して行われる。布づくりには、染織から刺繍などの一連の作業があり根気と集中力、そして創造力を要することが解説された。染織の原点である人と布との関係について、参観者は、魅了された様子であった。

現在は、機械での製作物が出回っており手作業で作られた作品は減少している。講座終了後は、貴重な作品を直に手にとって見ることができ、多くの参観者が作品に見入っていた。



会場いっぱいの参観者



現地の解説をする講師



作品に触れながらの疑応答

第457回 文化講座「やんばるの沖縄戦」シンポジウム

日時 2015年6月20日（日） 14:00～17:00 参加者160名

講師 林 博史（関東学院大学教授） 安座間 充（金武町教育委員会）
川満 彰（名護市教育委員会） 田里 一寿（宜野座村教育委員会）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

戦後 70 年記念事業として、「やんばるの沖縄戦」について講座が開催された。はじめに、林氏による基調講演が行われ、日米双方の史料をつき合わせる中で見えてきた「やんばるの沖縄戦」について解説がされた。宇土部隊、護郷隊に関する事、戦争中からやんばるに米軍基地建設計画があったことなど史料を基に説明がされた。調査報告では、田里氏より、沖縄戦時の宜野座村の状況や過去の遺骨収集、下袋原共同墓地の調査をとおした戦跡の取り扱いと、遺骨収集との連携について報告が行われた。川満氏からは、沖縄戦で鉄血勤皇隊より半年も早く召集された少年たちで組織された「護郷隊」について、解説がされた。少年らが沖縄戦でどのようなことを行ったのか、これまで、目を向けられてこなかったやんばるの沖縄戦について、参観者は聞き入っていた。後半のシンポジウムでは、活発な討論が行われた。



資料をもとに丁寧に解説する講師



多くの参観者



シンポジウムの様子

第458回文化講座「発掘！ 沖縄の先史集落」シンポジウム

日時 2015年7月11日（土） 14:00～17:00 参加者160名

講師 與那嶺 俊（今帰仁村教育委員会） 玉榮 飛道（伊江村教育委員会）※台風のため不参加
長濱 健起（宜野湾市教育委員会） 山崎 真治（当館：人類担当学芸員）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

講座前半は、近年調査されたナガラ原第三貝塚（伊江村）、古宇利原 B 遺跡（今帰仁）、喜友名東原ヌバタキ遺跡（宜野湾）から発見された先史時代の集落遺跡の発掘事例について與那嶺氏、長濱氏より報告がされた。山崎学芸員からは、インドネシア、台湾との比較研究などが報告された。後半は、シンポジウムが行われ、考古学的手法にもとづいて復元された集落遺跡の具体像や先史人の暮らし、先史時代集落研究の課題等について議論がされた。県内では 35 カ所を超える先史時代の集落遺跡の発掘調査が行われ、200 基を超える竪穴住居が検出されている。しかし、当時の集落の具体像についてはまだ未解明の点が多く残されている。今後の発掘から調査研究をどう進めるか、試行錯誤を重ねていきたいとの若手研究者の今後の報告が待たれる。



報告する與那嶺氏



報告する長濱氏



シンポジウムの様子

第459回文化講座「動物園のよもやま話」

日時 2015年8月15日（土） 14:00～16:00 参加者103名
講師 吉岡 由恵、島袋 洋次（公益財団法人沖縄こどもの国）
場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

動物園ってどんな所？なかなか知ることができない動物園で働く飼育員の仕事や動物の生態について、詳しい解説がされた。沖縄こどもの国には、オオコウモリのような沖縄の野生動物、与那国馬やシマウマ（島豚）などの在来家畜、タヌキやシカなどの日本の動物、そしてゾウやキリンなど、世界の動物と、多くの動物が飼育されている。日本には約130種の陸棲哺乳類が生息しているが、こどもの国では、20種類の哺乳類を飼育しており、その内固有種が15種類とのこと。現在こどもの国では、3頭のゾウが飼育されていて、1頭はこどもの国で誕生した。全国でも11例目という紹介に参観者は驚いていた。出産から子育てまでの様子が、映像を交え紹介された。親ゾウが生まれた子ゾウを踏みつぶしたりしないよう、ヤギやウシなどの小動物に慣れさせるなど様々な工夫が紹介された。全国で11例しかないゾウの出産、子育ての難しさと飼育側の熱意が伝わった。



動物園について解説する吉岡氏



ゾウの紹介をする島袋氏



会場からの質疑応答の様子

第460回文化講座「琉球王国時代の地方役人」

日時 2015年9月19日（土） 14:00～16:00 参加者114名
講師 里井 洋一（琉球大学教授）
場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

琉球王国時代の地方官吏のことを地方役人（じかたやくにん）という。地方役人（じかたやくにん）とは、地頭代、夫地頭、さばくり（首里大屋子、大掟、南風掟、西掟）、掟、文子をいう。地方役人の身分は百姓（系図をもてない）であったが、上級役人になると、役職に応じて土地が与えられ、王府への上納分以外は自分の取り分となった。また、夫地頭になると村の百姓を年2回使役できるなど種々の特権があたえられた。地方役人は、百姓身分であったが、筆算稽古にはげみ、間切行政に従事した。講座では、羽地御殿での筆算稽古の最中急死した父に代わって、摂政羽地朝美に見いだされた羽地間切古我知村の少年（プスメー）が、羽地御殿に奉公し、役地を給付される掟に任官し、黄冠を与えられ夫地頭・地頭代になるまでを、御殿奉公や間切の様々な出来事を交え解説がされた。



多くの参観者



解説をする里井氏



地方役人について解説

第461回文化講座「葬送儀礼の移りかわり」

日時 2015年10月17日(月) 14:00～16:00 参加者167名

講師 崎原 恒新

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

沖縄は地理的にみると広域に分布しており、沖縄島、宮古・八重山島など地域によって慣習にも大きな違いがある。講座では、講師が長期にわたって実施している聞き取り調査をもとに、葬送儀礼の移りかわりについて解説がされた。沖縄では、1960年代頃を境に、葬式の在り方が大きく変わってきた。死には必ず前触れがあったと考えたことや、葬式の準備、副葬品、墓への出入りなど、葬送が地域によって異なっていたことなどが紹介された。墓の種類については、破風墓、亀甲墓など外見上の種類につて、また、国頭地域には村墓が多いことや門中墓など利用形態の違いについてを写真を用いながら解説がされた。葬送のありかたは戦後から大きく変化してきているが、地域に残された慣習を次世代に継承していくためにも、清明祭（シーミー）などに、子どもを参加させる事に意義がある。多くの参観者が頷いていた。



熱心に聞き入る参観者説



貴重な資料を解説



写真資料の解説

第462回文化講座「死者とつながる琉球弧の哭きうた（葬送歌）の世界」

「国場の念仏エイサー（上演）」

日時 2015年11月21日(土) 14:00～17:00 参加者190名

講師 酒井 正子（元川村学園女子大学教授） 国場民俗伝統芸能保存会

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

9月から開催の特別展に関連し講座が開催された。講座前半は、酒井氏の調査による映像資料から、実例をとおして、「哭きうた」について解説がされた。琉球弧（奄美諸島から八重山諸島）では、地域の風土に根ざした、死者の葬り方や祀り方に独特の文化が築かれてきた。かつて、奄美・徳之島、沖縄永良部島、与那国島では、死者に対して声をあげて泣き、別れを告げる「哭きうた」が不可欠のこととしてあった。死者に対してクヤ（悔やみ）、ウモイ（思い）を声かけすることが、供養になった。また、哀惜の気持ちを哭うことで、残された家族も寂しさを紛らわせることができた。講座後半は、国場民俗伝統芸能保存会による「国場の念仏エイサー 花ぐらん」が上演された。曲の歌詞に死者が葬られていく内容が詠まれている。エイサーは、袋中上人が伝えた念仏踊りの形を伝えており、貴重な伝統芸能として継承されている。参加者は、琉球弧の葬送を興味深く参観していた。



酒井氏による講演の様子



国場民俗伝統芸能の紹介



屋外民家にて国場の念仏エイサー上演



第463回文化講座「琉球の鐘と北部九州の鋳物師集団」

日時 2015年12月19日（土） 14:00～16:00 参加者92名

講師 新郷 英弘（芦屋釜の里学芸員）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂、常設展示室

琉球の鐘と言えば、旧首里城正殿鐘が有名である。一般には「万国津梁の鐘」と呼ばれており、刻まれた銘文から琉球王国時代の栄華を知ることができる。講座では、琉球の鐘が製作された経緯、鐘の原材料、どこで誰によって琉球鐘が製作されたかなどが解説された。琉球では、尚泰久王時代に仏教興隆政策が推し進められ、短期間に多くの寺が創建され、それにもなつて大量の梵鐘が造られた。わずか4年間で23点の鐘が製作された。近年の調査研究から、鋳造琉球鐘製作に壱岐金蔵寺鐘を製作した鋳物師が関わったことが判明した。金蔵寺鐘（1412年、大工丹国吉）と琉球鐘は、竜頭、撞座が酷似しており、金蔵寺鐘の出自を紐解くことが肝要とのこと。また、鋳物師集団の移動背景には、南海物産の獲得を目指した周防（現山口県）守護大名大内氏の対琉球政策があったと考えられている。北部九州小倉鋳物師が1456年から1458年まで滞在し鐘を製作、以後は、琉球の鋳物師が技術を引き継ぎ、残された竜頭等の原型を活用しながら琉球鐘を製作することも可能であったとの説も表明された。また、滅多に見ることができない梵鐘鋳込みの様子や鋳型も紹介された。



参観者の様子



講演する新郷氏



実物鋳型を展示



常設展示室での解説

第464回文化講座「終戦70年記念やんばる戦跡巡り」

日時 2016年1月16日（土） 14:00～16:00 参加者25名（応募者65名）

講師 安座間 充（金武町教育委員会）

田里 一寿（宜野座村教育委員会）

場所 金武町、宜野座村

終戦70年の節目にあたり、やんばるの沖縄戦について金武町、宜野座村を巡るバスツアーを開催した。金武町の戦跡については、安座間氏より解説がされた。屋嘉捕虜収容所跡地は、沖縄最大の捕虜収容所で、1万人余りの捕虜が収容されていた。参加者は、記念碑に記載されている内容に見入っていた。500年近い歴史をもつ木造建築の金武観音寺は、奇跡的に戦禍を免れた。全長1kmの金武鍾乳洞は、ティラヌガマと呼ばれ、沖縄戦時は中南部からの避難民が隠れていた場所であった。旧億首橋は、米軍上陸前に護郷隊に破壊された橋の残骸が残る戦争遺跡である。宜野座村の戦跡については、田里氏より解説がされた。漢那宮見学では、戦前の漢那宮が地域において、どのような存在であったかが解説された。宜野座村博物館では、やんばるの沖縄戦の紙芝居による読み聞かせが行われ、次世代への継承の取組みが紹介された。共同墓地跡では、聞き取り調査から得られた内容等の説明がされた。やんばるの沖縄戦について、多面から考え知ることができた講座であった。



屋嘉捕虜収容所跡の解説



紙芝居に聞き入る参加者



共同墓地跡の解説



宜野座村博物館前

第465回文化講座「台風と自然災害～台風を知ることと身を守ること～」

日時 2016年2月13日（土） 14:00～16:00 参加者77名

講師 伊藤 耕介（琉球大学理学部准教授）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

講座のはじめに参観者に台風と自然災害に関するクイズを行い、その後講話がスタートした。前半は、台風を知ることとして、台風の定義、なぜ凶暴な渦が出来るのか、台風のできる地域、台風の動きについて図を提示しながら解説がされた。台風が強くなっていくプロセス説明に来館者は聞き入っており、関心の高さがうかがえた。台風の進路予報については、気象庁の予報は、世界最高精度とのこと。一方、強度予報は難しく、現在研究が進められている。後半は、台風から身を守ることとして、強風災害、大雨災害、高波・高潮災害、竜巻災害について近年の災害事例が紹介された。地球温暖化にともない地球全体における台風の数は減少するが、未曾有の強さの台風が生じる可能性は高い。最後にクイズの答え合わせが行われた。何時起こるか分からない自然災害への備えを十分に考える有意義な講座であった。講座終了後に仲里学芸員による企画展展示解説会も行われた。



台風のメカニズムを解説する伊藤氏



自然災害についての解説



企画展会場にて展示解説会

第466回文化講座「消えた琉球競馬－幻の名馬「ヒコーキ」を追って－」

日時 2016年3月5日（土） 14:00～17:00 参加者143名

講師 梅崎 晴光（スポーツニッポン新聞社東京本社・専門委員）

安里 進（沖縄県立博物館・美術館 館長）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

はじめに、安里館長より琉球競馬に関連する内容として「琉球の美意識」について講話が行われた。琉球では、石垣を造る際にも意図的に曲線や歪みを取り入れていた。これは、人の視覚感覚を論理的に考え計算したうえでの表現とされる。美術工芸作品にもそれが見られ、琉球競馬にも琉球の美意識に通底するところがあると指摘があった。梅崎氏による講演では、これまで、殆ど知られていない琉球競馬についての詳細が、絵図史料等を交え丁寧に解説された。琉球王国時代に始まった競馬は、明治に入り帰農した屋取士族たちによって各地に伝えられた。確認されている沖縄各地の馬場跡は、約 200 カ所近くある。琉球競馬は、2頭による併走で足並みの美しさや正確なリズムを競う。側対歩と呼ばれる走法で、右前脚と右後脚、左前脚と左後脚をほぼ同時に繰り出す。しかし、大正時代の軍馬生産から、小型の在来馬は激減し優美さを競った伝統文化としての琉球競馬は、昭和初期には消滅してしまった。琉球競馬の歴史と王国文化における人々の美意識に対する眼差しを体系的に知ることができた。



安里館長による講話



普天間飛行場にある馬場跡地



側対歩の解説



史料の解説

(金城久枝)

沖縄県立博物館・美術館 第456回 博物館文化講座

ゲノムから探る 琉球人の多様性とその成り立ち

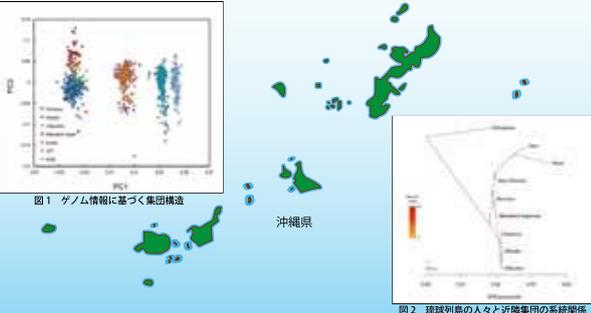


図1 ゲノム情報に基づく集団構造
図2 琉球列島の人口と近隣集団の系統関係

4/18 2015年 (土) 入場無料
14時～16時(開場13時半)
当日先着 200名(予約不要)
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場内は冷風が強くあたる場所があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

キーワード: ゲノム、人類学、琉球列島、集団、移動、分岐年代、単一塩基多型 (SNP)

講師: **佐藤 文寛氏** (琉球大学大学院医学研究科・日本学術振興会特別研究員)
北海道大学大学院理学博士課程修了後、琉球大学経済学系経済学総合研究推進機構ポスドク研究員、琉球大学医学部助教等を経て2013年から現職。ゲノム情報を基にした移動の歴史を復元する研究に取り組んでいる。

主催: 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
開催時間: 9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館 第458回 博物館文化講座

布に踊る人の手

- 中国貴州省・苗族の布づくり -




写真1「藍染布はヒダを取って袷に巻き、プリーツスカートを作る」
写真2「正装を身巻め、祭りに繰り出した娘たち」

5/16 2015年 (土) 入場無料
14時～16時(開場13時半)
当日先着 200名(予約不要)
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場内は冷風が強くあたる場所があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

キーワード: 中国、貴州省、苗族、布作り、藍染技術、染織技術、現地調査

講師: **鳥丸 知子氏** (染織研究家)

中国紡織大学(現・東華大学)にて中国紡織技術史専攻。2004年工学博士取得。民間に現存する染織技術の現地調査を世界各地で行うとともに、国内外において織物製作の指導に従事。現在、九州産業福祉大学非常勤講師、名古屋大学工学部非常勤講師、福岡地区染織師協会・染織講座講師、中国貴州省・苗族の染織技術に関する著書に「布に踊る人の手」(One Needle, One Thread)。

主催: 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
開催時間: 9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館 第457回 博物館文化講座

戦後70年シンポジウム「やんばるの沖縄戦」

6/20 2015年 (土) 入場無料
14時～17時(開場13時半)
当日先着 200名(予約不要)
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場内は冷風が強くあたる場所があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

本シンポジウムでは戦後70周年記念事業として「やんばるの沖縄戦」をテーマに取り上げます。日本近代史で沖縄戦についても多数の著書がある林博史をはじめ、やんばるの地域史編集などで牽引的役割を果たす講師2名にご登壇いただきます。後半では、参加者アンケートを基に講師全員で討議します。

II. 調査報告
「戦跡の文化財調査と遺骨収集 - 下袋原共同墓地 -」
講師: **田里 一寿氏** (宜野座村立博物館)
原教育庁文化財、県立歴史文化財センター非常勤職員を経て、平成14年より現職。宜野座村の文化財保護や博物館業務などを担当。沖縄戦時の宜野座村の状況や過去の遺骨収集を踏まえ、下袋原共同墓地の調査を通して感じた、戦跡の取り扱いと遺骨収集との連携について報告する。

「やんばるの少年兵「護郷隊」」
講師: **川満 彰氏** (名護市教育委員会)
琉球大学大学院 沖縄・東アジア地域研究専攻 修了。主な執筆論文「やんばるへやっつてきた護郷隊たち」「やんばるの少年兵「護郷隊」-陸軍中野学校と沖縄戦-」
沖縄戦で戦血動員隊より半年も早く召集された少年たちがいる。彼らを総称名「護郷隊」という。彼らを召集したのは陸軍中野学校出身の村上治夫である。沖縄戦に潜伏した陸軍中野学校出身者は総数42名。彼らは沖縄戦でどのようなことを行ったのか、やんばるから見てみる。

III. 討論
パネリスト: **林氏、田里氏、川満氏**
司会: **安座間 亮氏** (国頭地区文化財行政連絡協議会事務局)

戦後70周年記念事業「やんばるの戦争遺跡」
期間: 6/16(火)～28(日) 場所: 当館エントランスホール

主催: 沖縄県立博物館・美術館 共催: 国頭地区文化財行政連絡協議会 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
開催時間: 9時～18時(金・土は20時まで)、6/23(火・休息日)、休館日: 毎週月曜日(月曜日が祝日の時は翌平日)、6/29(月)～7/7(日)【節日のため休館】

沖縄県立博物館・美術館 第458回 博物館文化講座

シンポジウム「発掘！沖縄の先史集落」

7/11 2015年 (土) 入場無料
14時～17時(開場13時半)
当日先着 200名(予約不要)
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場内は冷風が強くあたる場所があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

これまで、沖縄県内では35カ所を越える先史時代の集落遺跡の発掘調査が行われ、200基を越える竪穴式住居が検出されています。しかし、当時の集落の具体像についてはまだ未解明の点が多く残されています。今回のシンポジウムでは、気鋭の若手研究者3名に、近年調査されたナガラ原第三貝塚(伊江村)、古宇利原B遺跡(今帰村)、喜友名東原ヌバタキ遺跡(宜野湾市)から発見された先史時代の集落遺跡の発掘事例について報告いただき、考古学的手法にもとづいて復元される当時の集落の様相や、今後の先史時代集落研究の課題等について議論します。本シンポジウムを通して、当時の集落遺跡の具体像や先史人のくらしについても、考えてみたいと思います。

I. 調査報告 14:05～15:50
「伊江島ナガラ原第三貝塚の先史集落 - 縄文後期(伊波・荻堂式期)の生活址 -」
講師: **玉榮 飛道氏** (伊江村教育委員会)
沖縄国際大学総合文化学部、沖縄県立博物館、那覇市教育委員会嘱託職員を経て、平成24年より現職。伊江村の文化財保護、資料館業務等に携わります。

「古宇利原B遺跡の先史集落」
講師: **與那嶺 俊氏** (今帰村村教育委員会)
沖縄国際大学文学部 復讐の総合文化センター 准。今帰村村教育委員会嘱託職員、株式会社イーシーエーを経て、平成25年より現職。今帰村の文化財保護や今帰村B遺跡の調査、整備に取り組む。

「喜友名東原ヌバタキ遺跡の発掘調査記録」
講師: **長濱 健起氏** (宜野湾市教育委員会)
沖縄国際大学総合文化学部、沖縄県立歴史文化財センター、(財)かながわ考古学財団、那覇市教育委員会嘱託職員として発掘調査に従事。平成25年より現職。宜野湾市の文化財保護や発掘調査、資料館業務に取り組む。

「沖縄の先史集落を考える」
講師: **山崎 真治** (当館人類担当学芸員)

II. 討論 16:00～17:00
玉榮氏、與那嶺氏、長濱氏、山崎

主催: 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
開催時間: 9時～18時(金・土は20時まで) 休館日: 毎週月曜日(月曜日が祝日の時は翌平日)、6/29(月)～7/7(日)【節日のため休館】

沖縄県立博物館・美術館 第459回 博物館文化講座

動物園のよもやま話

小学生から大人まで、たれでも参加できるよ!

8/15 (土) 2015年 入場無料
14時～16時(開場13時半)
当日先着 200名(予約不要)
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場内は冷風が強くある場合があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

講師：島袋 洋次 氏 (ゾウ担当飼育員)
福岡エココミュニケーションアート(動物飼育)専門学校を卒業後、沖縄こどもの国に就職。沖縄こどもの国に就職。インドゾウ(2006年12月)が来園してからずっとゾウ担当飼育員として勤務している。

講師：吉岡 由恵 氏 (教育普及員)
琉球大学理学部海洋自然科学科を卒業後、沖縄こどもの国に就職。8年間沖縄の野生動物コーナー飼育員をつとめた後、現在は教育普及員として勤務している。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館 第460回 博物館文化講座

琉球王国時代の地方役人

9/19 (土) 2015年 入場無料
14時～16時(開場13時半)
当日先着 200名(予約不要)
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場内は冷風が強くある場合があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

キーワード：筆算稽古、御殿・殿内、地頭代、夫地頭、さばくり、錠、位衆、番所・村屋

講師：里井 洋一 氏 (琉球大学教育学部社会科講座教授)
那覇・奥尻・八重山(西表)で中学校社会科教員として11年勤務した後、琉球大学で社会科教育・歴史教育を担当して26年になります。その間、名護市史、竹富町史、沖縄県史、北中城村史等の地域史研究にも関わることも、資料の取材・カリキュラム化をはかり、竹富町の小学校社会科部活動本中学校社会科歴史教科書の内容にも携わりました。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館 第461回 博物館文化講座

葬送儀礼の移りかわり

10/17 (土) 2015年 入場無料
14時～16時(開場13時半)
当日先着 200名(予約不要)
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場内は冷風が強くある場合があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

キーワード：葬送儀礼、葬式の準備、葬儀、墓への出入り、お供えと葬式の移りかわり、墓作り、位田による改葬、あの世との世、墓の葬送の準備、スツガメ、墓の内部

講師：崎原 恒新 氏
1943年生まれ、与那国町長島出身。元沖縄文化財保護審議会会長、沖縄県史編纂員などを務める。著書に「沖縄・奄美の歳時習俗」明文書房(共著)1975、「沖縄・奄美の祝辞」明文書房(共著)1977、「沖縄の年中行事」沖縄出版1989、「八重山ジャンボ」と小島興行 ボーディング1999、「琉球死後の世界」むぎ社2005等。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館 第462回 博物館文化講座

死者とつながる = 泣きうた(葬送歌)の世界

11/21 (土) 2015年 入場無料
14時～17時(開場13時半)
当日先着 200名(予約不要)
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂、民家前

※会場内は冷風が強くある場合があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

キーワード：琉球歌、おのゝい、泣きうた(葬送歌)、カデニヤヒ、カデニヤヒ(泣きうた)、泣きうた、泣きうた(葬送歌)

講師：酒井 正子 氏 (川村学園女子大学名誉教授)
琉球大学文化科学研究科にて奄美シマタリ研究会主催、沖縄国際大学南島文化研究所特別研究員、東京大学教養学部(文化人類学)卒業。博士(民俗学、国文学研究)1983年より、東京国際大学琉球センター特別研究員として、奄美沖縄の調査に専念。生命に於ける文化に魅せられ、徳之島を中心に奄美諸島で独自のフィールドワークをおこなひ、歌謡の発展を明らかにする。90年代より沖縄(八重山)に出入り、葬送歌の語り起こしに力を注ぎ、シマウタや民俗音楽のオーガニゼーション、理論的整理にも携わっている。
[主な著書] 1993「日本民謡大観(沖縄・奄美)」電楽録編(共著、日本放送出版協会)、1996「奄美歌謡のデパート―あそびつつたつた―」(第一巻、第14回琉球研究奨励賞)、1999年「奄美歌謡の伝承と発展」(沖縄県史)第2巻、2005「奄美・沖縄・奄美の文化(小学校) 奄美・沖縄文化の伝承と発展」

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館 第463回 博物館文化講座

琉球の鐘と 北部九州の鋳物師集団

いもじ



琉球王国時代、尚泰久王の治世に大量に造られた梵鐘の一群があります。1456年から僅か4年間で、その数20数点。これほど多くの鐘が短期間に造られるのは、世界的にも極めて珍しい例といえます。それら琉球鐘の代表といえるのがいわゆる「万国津梁」の鐘であり、そこに刻まれた銘文から琉球王国の栄華と琉球人の誇りを今に知ることができます。では、それら一連の鐘を造ったのは誰でしょうか。近年の研究から、北部九州の鋳物師集団との関わりが見えてきました。今回は、鐘の鋳造りや迫力ある鋳込みの映像などを交えながら、琉球鐘の製作に関わった鋳物師集団について考えてみたいと思います。

12/19 2015年 (土) **入場無料**
14時～16時(開場13時半)
当日先着 200名(予約不要)
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂
※会場内は冷風が強くあたる場所があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

キーワード：琉球の鐘、万国津梁鐘、尚泰久王、仏教興隆、鋳造、北部九州の鋳物師、小倉鋳物師、芦屋鋳物師

講師：新郷 英弘氏 (芦屋釜の里学芸員)

1976年、佐賀県佐賀市生まれ。博士(国際文化)。専門は考古学で、鋳造技術の研究。平成13より芦屋釜の里学芸員(伊藤町教育委員会所属)として勤務。平成16年、西南学院大学大学院博士後期課程修了。九州産業大学講師(非常勤)。主な著書に「生産地にみる芦屋釜とその製作技術」(『茶の湯の文化』芦屋釜の里の会、2007年)、『2009年 芦屋釜を知る』(『茶の湯』11月号、河津書店、2014年)、原典会編『茶の湯の美』(泉屋書店、2014年)等。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL 098-941-8200
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館 第464回 博物館文化講座

沖縄県立博物館・美術館 終戦70年記念事業
国際地区文化財行政連絡協議会 25周年記念

バスツアー
やんばるの戦跡巡り

1/16 2016年 (土) 12時～17時
金武町・宜野座村の各所 **当館集合解散**

終戦70年の節目にあたり、金武町と宜野座村を巡るバスツアーを開催します。2名の講師をお招きし、やんばるではどのような戦況が展開されたのか、お話しできます。



定員：25人(小3～大人) 小学生は保護者同伴
参加費：一般(高校生以上) 850円/人
小3～中学生 50円/人 バス代、高速代、保険代

参加条件：健康で体力に自信がある方
※足場が悪い場所もコースに含まれます。

講師：安座間 充氏 (金武町教育委員会)
田里 一寿氏 (宜野座村立博物館)

【ツアー日程】(予定) 
11:45～11:55 当館大型バス駐車場にて集合
→12:00～12:40 当館出発～金武町到着
→12:40～14:30 講師による解説
①日本軍糧庫補収所 ②金武親自寺鐘乳洞 ③アーチ橋
→14:30～14:45 金武町出発～宜野座村到着
→14:45～16:10 講師による解説
④波那宮 ⑤宜野座村立博物館 ⑥古知屋第一共同墓地
→16:10～16:50 宜野座村出発～当館到着、解散

主催：沖縄県立博物館・美術館 共催：国際地区文化財行政連絡協議会 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日) TEL 098-941-8200

沖縄県立博物館・美術館 第466回 博物館文化講座

博物館企画展 関連催事 「大気と気象 - 見えぬ空気の「力と技」-」 [2016/1/26 (火)～3/6 (日)]

台風と自然災害
～台風を知ることと身を守ること～




国際宇宙ステーションから撮影されたハリケーン・イザベル 2015年8月23日 台風15号の衛星画像

2/13 2016年 (土) **入場無料**
14時～16時(開場13時半)
当日先着 200名(予約不要)
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂
※会場内は冷風が強くあたる場所があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

キーワード：台風、自然災害、海と大気、天気予報、地球温暖化

講師：伊藤 耕介氏 (琉球大学理学部 助教)

2011年京都大学にて博士号を取得。2011-13年 国立台湾大学、海洋研究開発機構においてポストドクトラル研究員として勤務。2014年 現職。気象庁気象研究所予報研究部首席研究員、日本気象学会 台風研究連絡会 代表を務める。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL 098-941-8200
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館 第466回 博物館文化講座

消えた琉球競馬
- 幻の名馬「ヒコーキ」を追って -



3/5 2016年 (土) **入場無料**
14時～16時(開場13時15分) ※通常の時間と異なります。

当日先着 200名(予約不要)
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂
※会場内は冷風が強くあたる場所があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

お知らせ
13:30～
「幻の琉球競馬」(約27分)を上映いたします。

講師：梅崎 晴光氏 (スポーツニッポン新聞社東京本社・専門委員)

1962年、東京・海防寺生まれ。86年、早大卒。スポニチ入社。00年から「R中央競馬担当記者」デスクを経て、2012年から専門委員。本業の傍ら、沖縄の馬にまつわる歴史、文化の調査を続けてきた。著書「消えた琉球競馬 幻の名馬ヒコーキを追って」(12年、ポーターインク発行)で沖縄タイムス出版文化賞正賞、JRA賞馬事文化賞を受賞。

キーワード：シマヌーブ(馬鹿馬)、シマウイー(馬鹿)、宮古馬、御手杓、真直馬、黒上、鹿取、那覇山鹿鹿鹿鹿鹿、アブシラ、鹿鹿鹿鹿鹿、ヨドリ馬鹿鹿

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL 098-941-8200
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

V 博物館学芸員講座

1 博物館学芸員講座実施要項

(1) 趣旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、学芸員が広い視点から分かりやすく講義・展示解説し、楽しく有意義な学習を通して、県民の意識の向上を図ることを目的とする。

(2) 内容

当博物館の自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野の担当学芸員が行う講義・展示解説、実技指導などを通して、県民各層が楽しく、より深く沖縄について学べるよう企画されている。

(3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、土曜日 午後2時～4時までの2時間（講座により変更あり）

場 所：博物館講座室を基本とする

(4) 受講方法

当日の来館参加という形をとり、基本的に予約はしない。

回数	期日	演題	講師名	定員	参加者
1	4月11日	「東南アジアの人類史と遺跡 ーベトナム・蘭嶼・インドネシアをめぐるー」	山崎真治	80	85
2	5月 9日	「うちくい」の話しPart2 ー「うちくい」は何を包んできたのだろうかー	與那嶺一子	80	84
3	6月 6日	「琉球王国時代の梵鐘ヒストリー」 ～館収蔵の梵鐘を中心に～	崎原恭子	80	70
4	7月18日	「ハトは、なぜ首を振って歩くのか？」	藤田裕樹	80	43
5	8月 1日	「博物館探検！！」	金城久枝	15	14
6	9月 5日	「大哺乳類展に見る哺乳類のかたちと進化」	山崎仁也	80	43
7	10月3日	「洗骨儀礼について考える」	大湾ゆかり	80	129
8	11月7日	「中学校・高校の先生のための展示解説会」	石垣忍	80	28
9	12月5日	「今年は海へ行きます！仲里学芸員と行くジオツアー」	仲里健	15	17
10	1月 9日	「沖縄から発信する「平和文化」創造のチカラ」 ー沖縄・カンボジアの博物館づくり協力事業を通してー	園原謙	80	56
11	2月 6日	「考古担当学芸員の海外探訪記」 ～インドネシア・イギリス・イタリア～	片桐千亜紀	80	56
12	3月12日	「柳宗悦と『琉球の富』そして昭和10年代の沖縄 ～日本民藝館80周年記念展に向けて～	外間一先	80	78

2 学芸員講座の実施状況

第1回 学芸員講座「東南アジアの人類史と遺跡ーベトナム・蘭嶼・インドネシアをめぐるー」

日時 2015年4月11日（土） 14:00～16:00 参加者85名

講師 山崎 真治（人類）

場所 博物館講座室、常設展示室

当講座では、沖縄の旧石器時代研究と関わりの深いベトナムのホアビン文化や、インドネシアのフローレス原人の遺跡をはじめ、約 5000 年前に南下を開始し、オセアニア各地に広がったオーストロネシア語族の拡散経路と目される台湾・蘭嶼、フローレス島の人類史と遺跡について、解説が行われた。フローレス島の人類史として、東南アジア海域には、東西で動物相を分けるウォーレス線という境界があり、そこを境にジャワ原人とフローレス原人に違いが現れているとのこと。文化、遺跡について、ホアビン文化では、貝塚が多いこと、蘭嶼のタオ族については伝統的集落の形成紹介と岩場の墓地について解説がされた。フローレス島村落では、集落形成や南方系の民具といわれる円箕について、沖縄の文化との類似点と違いなどが紹介された。講座後半の常設展示部門解説では、考古分野の解説、民俗展示部門では道具や集落形成を示しながら南方と沖縄の関わりなどが解説された。



解説をする山崎学芸員



常設展示室での解説に熱心に聞き入る参観者



第2回 学芸員講座「『うちくい』の話しーPart2『うちくい』は何を包んできたのだろうかー」

日時 2015年5月9日（土） 14:00～16:00 参加者84名

講師 與那嶺 一子（美工）

場所 博物館講座室 企画展示室

「うちくい」とは沖縄の風呂敷のことをいう。うちくいの役割として、敷く・掛ける・包む・被るがあり、特別なものや日常のものと2通りがある。また、地域によって呼び方に違いがあることも紹介された。世界各地の利用法として、ヨーロッパでは包むではなく袋状にして使用、中南米では、運搬用に包み、アジアでは、経典を包むなど日本と似た活用であることが紹介された。また、琉球王国時代から近代にかけて描かれた27件の絵画資料の調査から、いろいろな運搬方法について紹介がされ参観者はとても興味深く聞き入っていた。講座後半は、企画展示室にて絵画・史料、うちくいを観ながら講師の解説が行われ、参観者は展示されているうちくいに見入っていた。一枚の布であるうちくいの魅力、人と人、こことここを結ぶが伝わる講座であった。



会場いっぱいの参観者



資料解説をする與那嶺学芸員



うちくい展解説の様子

第3回 学芸員講座 「琉球王国時代の梵鐘ヒストリー～館収蔵の梵鐘を中心に～」

日時 2015年6月6日（土） 14:00～16:00 参加者 70名

講師 崎原 恭子（歴史）

場所 博物館講座室

梵鐘とは、仏教寺院で時を知らせるために打つ大型の鐘である。当講座では、館収蔵の梵鐘を中心に琉球王国時代の梵鐘について解説がされた。梵鐘は、琉球王国時代に仏教伝来とあわせ製作されたと考えられている。種類として、韓国鐘と和鐘の2種あるが、現存している鐘は全て和鐘である。記録上では、琉球王国時代には39口の梵鐘が存在したことが記されている。特に、尚泰久王の時代に最多の23口が製作された。背景として、政情不安による仏教への帰依、対日交易の円滑推進などがある。39口の梵鐘のうち、現存しているのは17口で、そのうち13口が当館に収蔵されている。講座後半は、旧首里城正殿鐘（万国津梁の鐘）をはじめ常設展示室に展示されている館収蔵の梵鐘の解説に参観者は興味深く聞き入っていた。



会場いっぱいの参観者



旧首里城正殿鐘について解説する崎原学芸員



解説に興味津々

第4回 学芸員講座 「ハトは、なぜ首を振って歩くのか？」

日時 2015年7月18日（土） 14:00～16:00 参加者 43名

講師 藤田 祐樹（人類）

場所 博物館講座室

「ハトは、なぜ首を振って歩くのか？」その疑問に科学的な根拠をまじえ、わかりやすく解説が行われた。講座では、ハトをはじめとするさまざまな鳥を観察した研究成果について、図解を提示しながら解説がされた。講座を聞きながら、普段何気なく見ているハトやスズメの歩行について、なるほどと思った参観者は多かったのではないかと。ハトの首振りの理由として、目の位置、歩き方、採食行動が関係している。鳥の歩行研究が何の役に立つのか。実は、恐竜の歩行モデルとして活用されたりする。藤田学芸員が研究を始めた理由が、つねに二足歩行をする動物は鳥とヒトだけ、まず二足歩行する最大のグループである鳥（1万種）について調べてみたくなったとのこと。ユーモアがあふれる講座に著書を読みたいと思った。



会場の様子



丁寧に解説する藤田学芸員



解説に聞き入る参観者

第5回 学芸員講座「博物館探検！！」

日時 2015年8月1日（土） 9:00～12:00 参加者14名

講師 金城 久枝（教育普及）

場所 博物館実習室、博物館バックヤード

沖縄県立博物館・美術館は、かなり大きな建物だけど、どんな仕組みになっているの。博物館にはいろんなモノがたくさんあるけど、どれくらいモノがあるの。働いている人は、どんな仕事をしているの。など、子どもたちの疑問、博物館のはて？どうなっているの？を解説しながら博物館を探検する形式で講座が行われた。あまり知られていない博物館の構成や学芸員の仕事内容に、子どもたちは興味深く聞き入っていた。館外の探検、展示室の探検では、なるほど、つながりがあったんだと思ったようだ。バックヤード探検では、興味がつきることなく、あの部屋この部屋探検でここで見れない本モノを見れて満足顔であった。講座後半は、まとめとして、マメ新聞作成をおこない、各自、工夫を凝らし博物館のヒミツと裏側紹介をまとめることができた。



外の探検からスタート！



一体これは何？興味を引く液寝室



マメ新聞の作成

第6回 学芸員講座「大哺乳類展に見る哺乳類のかたちと進化」

日時 2015年9月5日（土） 14:00～16:00 参加者45名

講師 山崎 仁也（生物）

場所 博物館講座室

7月から開催の「大哺乳類展」に関連し、「大哺乳類展に見る哺乳類のかたちと進化」と題して、講座が行われた。講座は、大哺乳類展の約150点の標本から何が見えるかを解説しながら進められた。チーターやレッサーパンダなどを例に脚や爪のかたちには、生活にあった独特の進化形態が見られることや、消化器の進化が繁栄を左右する例としてキリンの反芻胃の説明などがされた。骨のかたちについては、ハクジラ類の歯の進化形態や、シカ科のツノ、ウシ科のツノなど解説がされた。また、琉球列島に生息する約20種の哺乳類の中には、世界的にみて珍しい進化を遂げているものもある。進化の過程で哺乳類がどのように変化したのか、哺乳類のもつ不思議と魅力について知る事ができた講座であった。



大哺乳類展について解説



生物多様性について解説する講師



標本に見入る参観者

第7回 学芸員講座「洗骨儀礼について考える」

日時 2015年10月3日（土） 14:00～16:00 参加者129名

講師 大湾 ゆかり（民俗）

場所 博物館講堂、特別展会場

当講座は、平成 27 年度特別展「琉球弧の葬墓制」関連催事として開催された。講座では、かつて沖縄では風葬、奄美では風葬からのちに土葬によって死者を送ったあと、さらに洗骨をしてもう一度死者を送るという、琉球弧特有の葬法について講話がされた。現在では聞くことがほとんどない洗骨について、地域による呼称や洗骨の時期、場所、携わる人々について解説がされた。歴史の変遷の中で、火葬が普及し琉球弧特有の葬法は、忘れ去られようとしている。講話で、祖先から受け継がれた葬法や墓の形が変わっていく現代において、再度地域や家々で守られてきたことを見直すきっかけになればという大湾学芸員の解説に、参観者は深く頷いていた。後半は、特別展の解説が行われた。



会場いっぱいの参観者



解説する大湾学芸員



特別展の解説に聞き入る参観者

第8回 学芸員講座

「中学校・高校の先生のための展示解説会～博物館で授業や解説をしてみたい先生のために～」

日時 2015年11月7日（土） 14:00～16:00 参加者28名

講師 石垣 忍（歴史）

場所 博物館講座室、常設展示室

当講座は、先生のための展示解説会として、学校の授業で博物館を利用するには、どのような方法があるのかを中心に講座が進められた。講座前半は、博物館施設の仕組みや、博物館が提供している活用方法などの紹介がされた。また、博物館には、多くの資料があるが、授業で博物館の資料を利用したい場合にどのようにすればよいかなども説明がされた。講座後半は、総合展示部門で古我知原遺跡から戦後の沖縄までを、授業で来館した先生が解説をする事を想定し、丁寧にわかりやすくポイント解説が行われた。参加した方々は、メモを取るなど熱心に聞き入っていた。講座には、これから教師を目指す人や、社会人になって、沖縄の歴史を改めて知りたいと考えた方も参加しており、有意義な講座となった。博物館で授業や展示物の解説をしてみたい先生が増えたのではないだろうか。



博物館概要の説明



古我知原貝塚にて解説する石垣学芸員



近世についてのポイントを解説

第9回 学芸員講座「今年は海へ行きます！仲里学芸員といくジオツアー」

日時 2015年12月5日（土） 14:00～16:00 参加者17名

講師 仲里 健（地学）

場所 宜野座村

沖縄島の地層は、北部、中南部で違いがある。講座では、始めに地質年表から地層の形成過程について説明がされた。今回ジオツアーで訪れた宜野座村海岸では、嘉陽層と琉球石灰岩が見られ、それぞれの形成過程について仲里学芸員から詳しい解説がされた。嘉陽層の褶曲・断層から、激しい地殻変動が起こった証拠であるとの解説に、参加者はかなり釘付けに聞き入っていた。嘉陽層の対岸で、琉球石灰岩が見られ、キノコ岩のノッチ（くびれ部分）から現在と過去の海水面の位置がわかるなど解説がされた。同一の海岸でありながら地層の形成が異なり、地球の成り立ちを垣間見た気がした。次に、琉球石灰岩特有のカルスト地形が作り出す鍾乳洞が宜野座村にもあることも紹介された。また、砂の形成も、西海岸と東海岸では異なる。普段気にしない海岸地形を新たな角度で見ることができた。



褶曲について解説する仲里学芸員



解説に聞き入る参加者



約4千万年前に形成された嘉陽層

第10回 学芸員講座「沖縄から発信する「平和文化」創造のチカラー沖縄・カンボジアの博物館づくり協力事業を通してー」

日時 2016年1月9日（土） 14:00～16:00 参加者56名

講師 園原 謙（博物館班班長）

場所 博物館講座室

講座はじめに、JICA 草の根技術協力プロジェクト事業の経緯が説明され、次にカンボジアの歴史的な背景など基礎情報の解説がされた。事業では、沖縄県平和祈念資料館が2009年から2011年、沖縄県立博物館・美術館が2012年から2014年に活動支援を行った。研修内容として、資料保存、調査研究、展示、教育普及の各分野で様々な研修が展開された。事業では、ポル・ポト政権時代に多くの人々が虐殺されるという負の歴史があったカンボジアで、二度と同じ悲劇が繰り返されないよう、沖縄のもっている平和発信の力をトゥール・スレン虐殺博物館で活用できるような取組が紹介された。6年間の活動成果としてカンボジアから派遣された27名の人材育成に繋がったこと、沖縄側の学芸員がカンボジアの歴史、自然、文化の知見を得ることができたことが紹介された。



JICAプロジェクトについて



解説を行う園原学芸員



カンボジア博物館づくりの解説

第11回 学芸員講座「考古担当学芸員の海外探訪記～インドネシア・イギリス・イタリア～」

日時 2016年2月6日(土) 14:00～16:00 参加者56名

講師 片桐 千亜紀 (考古)

場所 博物館講座室

講座では、調査中である研究内容について、3部構成で講話が行われた。第1部では、インドネシア堀込墓、洞穴墓、崖墓が紹介された。インドネシアでは、様々な葬制があるが、再葬や合葬など琉球の葬制との類似点も見られ、琉球弧と東南アジアの葬制に関連性があるのかなど、今後の調査研究で明らかにしていきたいと解説がされた。第2部では、ケンブリッジ大学所蔵の琉球古写真調査について紹介がされた。イギリス人ギルマールが1882年～1884年に撮影した首里城近辺、女性、ジューパー、ハジチなど記録した内容が解説された。貴重な写真に参観者は、興味深げであった。第3部は、片桐学芸員がライフワークとしている、海底文化遺産の保存と公開について、先進地であるイタリアバイア海底遺跡について説明がされた。調査中である研究内容について、続きが気になった人は多かったのではないかと見られる。研究成果が待たれる。



会場いっぱいの参観者



解説する片桐学芸員



海底文化遺産の解説に聞き入る参観者

第12回 学芸員講座「柳宗悦と『琉球の富』そして昭和10年代の沖縄～日本民藝館80周年記念展に向けて～」

日時 2016年3月12日(土) 14:00～16:00 参加者78名

講師 外間 一先 (美工)

場所 博物館講座室、常設展示室

講座では、日本民藝館と柳宗悦について解説がされた。日本民藝館は、1936年に柳宗悦により開設され、今年80周年を迎える。陶磁器、染織品、木漆工品など、日本をはじめ諸外国の工芸品が蒐集されており、現在1万7千点のコレクションが収蔵されている。民芸という言葉は、民衆の「民」と工芸の「芸」を結びつけた柳の造語である。民芸運動の創始者である柳は、芸術家がつくる作品ではなく、それまで顧みられることのなかった職人・民衆の作る「民芸」に着目し、日常使う道具の中に美を追求した。著書『琉球の富』では、沖縄の工芸に着目し、その美しさを紹介し、保護を声高に主張している。講座では、「琉球の風物」「琉球の工芸」の2本のDVDも上映され、参観者は改めて琉球文化の素晴らしさを感じたようだ。9月の展示会が待ち遠しい。



会場の様子



柳宗悦について解説する外間学芸員



常設展示室での解説

(金城久枝)

東南アジアの人類史と遺跡

— ベトナム・蘭嶼・インドネシアをめぐる —



沖繩の南方に広がる東南アジアは、中国とインドという二つの文化世界の境界にあって、古くから人と文化が行き交うクロスロードとなってきました。今回の講座では、沖繩の旧石器時代研究と関わり深いベトナムのホアビン文化や、インドネシアのフロレス原人の遺跡をはじめ、約5000年前に南下を開始し、オセアニア各地に広がるオーストロネシアン（オーストロネシア語族）の拡散経路と目される台湾・蘭嶼（らんしよ）、そしてフロレス島の人類史と遺跡について、わかりやすく紹介します。

また、これまで、沖繩の人や文化については、しばしば南方世界との関わりが指摘されてきましたが、本講座を通して、どのような類似点や違いがあるのかについても、考えてみたいと思います。

◆15:30-16:00 博物館常設展示室にて解説会を予定しています。講座へご参加のお客様には、当日会場にて入場券（一般330円/団体料金）を販売いたしますのでご利用ください。
なお、70歳以上のお客様は、発券窓口にて無料券を発行しておりますのでご利用ください。年間バスポート・友の会会員の皆様は、会員登録のご提示でご参加いただけますので、お忘れのないようご注意ください。

●開館時間 午前9時～午後6時（金・土は午後8時まで） ●休館日 月曜日（月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館） ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催 沖縄県立博物館・美術館

「うちくい」の話 Part2

— 「うちくい」は何を包んできたのだろうか —



「うちくい」とは沖繩のふるしきのことです。ウチユキ（沖繩島）、ウチャゲサジ（奄美）、フチュフス（宮古島）、ウツバイ（石垣島）、ウトウヒ（与那国島）とも呼ばれます。あきらかな目的のある豪華な布や、日々の暮らしのなかで使われた布など、種類も使い方も様々です。

王国時代から近代にかけて描かれた絵画には、うちくいの「包む」「覆う」「被る」様子がみられます。そこから、何を包んで、運んできたのかを解いてみました。すると、「うちくい」が単なる包みではなく、人と人、心と心をつなぐ姿がみえてきました。

◆15:30-16:00 博物館企画展示室にて解説会を予定。講座は無料ですが、展示解説会には、入場券が必要です。講座へご参加のお客様には、当日会場にて入場券（一般480円/団体料金）を販売いたしますので、ご利用ください。

●開館時間 午前9時～午後6時（金・土は午後8時まで） ●休館日 月曜日（月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館） ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催 沖縄県立博物館・美術館

琉球王国時代の梵鐘ヒストリー

館収蔵の梵鐘を中心に



当館には琉球王国時代に製作された13口の梵鐘が収蔵されています。なかには、「万国津梁」などの銘文が刻まれ首里城正殿の前に掛けられた「旧首里城正殿鐘（万国津梁の鐘）」や第二尚氏の菩提寺である円覚寺にあった「旧円覚寺殿前鐘・殿中鐘・様鐘」、1853～54年にかけて来琉したアメリカのペリー提督が持ち帰った「旧大安祥寺鐘（徳園寺の鐘）」などがあります。これらは製作された琉球王国時代から沖繩戦などの琉球・沖繩史を語る資料として、当館常設展示室において展示しています。

本講座では、当館に収蔵されている梵鐘を中心に、琉球王国時代に製作された梵鐘を通してみる琉球・沖繩史を各梵鐘にまつエピソードもまじえてお話します。

◆座学後、博物館常設展示室にて解説会を予定。展示解説会には、入場券が必要です。講座へご参加のお客様には、当日会場にて入場券（一般330円/団体料金）を販売いたします。また、70歳以上のお客様は、発券窓口にて無料券を発行いたしますので、ご利用ください。年間バスポート・友の会会員の皆様は、会員登録のご提示でご参加いただけますので、お忘れのないようご注意ください。

●開館時間 午前9時～午後6時（金・土は午後8時まで） ●休館日 月曜日（月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館） ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催 沖縄県立博物館・美術館

ハトはなぜ首を振って歩くのか？

ハトはなぜ首を振って歩くのか。この素朴な問いに科学者が挑むと、意外なほど複雑な秘密が隠されていた。視覚、体のつくり、動作生成の神経制御、動きのバランス、そして採食行動。ヒトとハトは何が違うのか。カモはなぜ首を振らないのか。解明するたびに次々とあふ疑問の連鎖に、科学者はいかに挑み、解明してきたか。おおよそ一世紀もの長きにわたる首振り研究の歴史とその最新成果を、世界を代表する首振り研究者が衝撃映像満載でお届けする。世界一詳しいハトの首振り講座。21世紀科学における、首振り研究の到達点がここにある。雑学ではない、これは科学だ！



【使い方】
1. 画像を全て切りはなします
2. 左上の番号順に並び、左端を示子ギスで止めます
3. 勢よくハラハラとめくりまします

すると！ハトの首の動きが見えてきます

●キーワード：ハト、首振り、視覚、歩行のメカニズム、採食行動、鳥類ハト化計画

●開館時間 午前9時～午後6時（金・土は午後8時まで） ●休館日 月曜日（月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館） ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催 沖縄県立博物館・美術館

博物館探検

はて？ 裏側？ たん けん これは何に？

博物館探検！！って・・・はて？ きみも博物館マニアになろう！

沖縄県立博物館・美術館って、大きな建物だよな。一体どんな仕組みになっているのかな。博物館にはいろんなモノがたくさんあるけど、どれくらいあるんだろう。外にも何かあるのかな。働いている人は、どんなお仕事をしているんだろう。博物館のはて？ どうなっているの？を“博物館探検”で謎解きします！もちろん、裏側も探検するよ！前半は、博物館探検！！後半は、報告書（ママ新聞かポスター）を作成します。はて？が気になったあなた、博物館探検隊に参加してみない！

○キーワード：探検、謎解き、モノ、学芸員、裏側、はて？

※会場の都合上、申込者以外の参加はできません。お子様のみの参加とさせていただきます。但し、集合場所への送迎は保護者の責任のもと、行ってください。
※応募者多数の場合は、抽選となります。
※参加していただいた方のみ7/26(日)までにEメールでご連絡します。

●開館時間：午前9時～午後6時（金・土は午後8時まで） ●休館日：月曜日（月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館） ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館

大哺乳類展に見る哺乳類のかたちと進化

ツノはどこ？ 爪に注目！

博物館学芸員講座

9/5 2015年(土) 14時～16時 (開場13時半) **入場無料**

現在開催されている「大哺乳類展」。本物の迫力にみな大満足ようだ。沖縄にこれほどの大型哺乳類が集まることはそうそうないだろう。このチャンスにじっくり見てほしいところだ。かくいう私も、大型の哺乳類を間近でじっくり見る機会はほとんど無い。今回のこのチャンスに毛皮の色やかたち、骨の多様性についてじっくり観察したい。そして、私なりに気づいたことやその哺乳類のもっている知られざる一面などをひもといてみたいと思う。たとえばチーターの爪とレッサーパンダの爪は、はえているところがちがう。また、サイのツノは爪と同じようなもので皮膚が変化したものだそう。え？と思うような知らないことが展示の中にたくさんかくれている。私は哺乳類の専門家ではないが、専門家ではないからこそ見える素朴な疑問などを足がかりに、私なりに哺乳類のもつしごと魅力に迫ってみたい。

○キーワード：大哺乳類 かたち 進化 適応放散

●開館時間：午前9時～午後6時（金・土は午後8時まで） ●休館日：月曜日（月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日休館） ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館

洗骨儀礼について考える

平成27年度 沖縄県立博物館・美術館 特別展 「琉球弧の葬儀—風とサンゴのあいだ—」 会期：2015年9月25日（金）～11月23日（月・祝）

「琉球風俗図」国立国会図書館ウエブサイトより

○キーワード：洗骨、シルヒラシ、ジョアキキ、風葬、土葬、改葬

平成27年度博物館特別展「琉球弧の葬儀—風とサンゴのあいだ—」の準備にあたり、さまざまな事例に出会う機会がありました。昨年は、とくに龍という野辺送りに使用された道具をきっかけに、昭和30年代前半まで行われていた、地域で死者を送る儀礼の重要性について考えさせられました。そこで、今回の学芸員講座では、沖縄では風葬、奄美ではおに土葬によって死者を送ったあとと、さらに洗骨をしてもう一度死者を送ると、琉球弧特有の葬法について考えてみたいと思います。そして、その中で「洗骨」という大きな節目になる儀礼についても、すこし触れたいと思います。

◆15:30-16:30 博物館特別企画展示室にて解説会を予定。講座は無料ですが、展示解説会には、入場券が必要です。講座へご参加のお客様には、当日会場にて入場券（一般640円 団体料金）を販売いたしますので、ご利用ください。

博物館学芸員講座

10/3 2015年(土) 14時～16時 (開場13時半) **入場無料**

沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室

大湾ゆかり（民俗担当学芸員） 80名（事前申込不要、当日先着）

●開館時間：午前9時～午後6時（金・土は午後8時まで） ●休館日：月曜日（月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日休館） ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館

中学校・高校の先生のための 展示解説会

～博物館で授業や解説をしてみたい先生のために～

銘文に残されたメッセージとは？ 琉球王国時代の沖縄って？ 今も残る面影…統治下時代

博物館学芸員講座

11/7 2015年(土) 14時～16時 (開場13時半) **入場無料**

この講座は学校の先生をおもな対象にしていますが、もちろん学校の先生以外の方でも、どなたでもご参加できます。

県内の先生方を対象に、総合展示室（沖縄の通史展示）の見どころ解説や、中学生に展示内容を説明する時のポイントを解説します。これまで、博物館に足を運んだことのない先生や、沖縄の歴史はちょっと苦手という先生、これから沖縄の歴史を授業に取り入れようという先生、そして校外学習のときに少しでも生徒に説明をしたい、より効果的に学ばせたいといった考えをお持ちの先生方（臨任の先生やこれから教師を目指す方も是非）へためになる講座です。もちろん、一般のお客様もご参加いただけます。そして、講座後半は、常設展示室で解説を行います。

○キーワード：先生自ら博物館展示の解説、沖縄の歴史の教材研究、博物館見学の事前学習、博物館授業

今日の講座では、座学以外に博物館等施設へ入ります。その際、入場料が必要となります。講座ご参加のお客様には、会場にて団体割引価格の入場券（一般330円）を販売いたしますのでご利用ください。なお、年廻りパスポートをお持ちのお客様や70歳以上のお客様は無料です。

沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室

石垣 忍（歴史担当学芸員） 80名（事前申込不要、当日先着）

●開館時間：午前9時～午後6時（金・土は午後8時まで） ●休館日：月曜日（月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日休館） ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館

今年、**海**へ行きます!

仲里学芸員と行く ジオツアー

〇キーワード：嘉陽層・地殻変動・琉球石灰岩

海岸には、島の成り立ちを知るヒントが沢山あるんです!

博物館学芸員講座

2015年
12/5(土)
10時~12時(現地集合・解散)
宜野座村宜野座漁港周辺
仲里 健(地学担当学芸員)
定員:15名(小3~大人)
*但し、小中学生は保護者同伴

ジオツアーとは、地球科学(地質学や地質学)の専門家による解説を聞きながら、自然景観の仕組みや成り立ちを読み解くツアーです。
今回は、宜野座村の海岸で見られる嘉陽層を中心に、かつてどのような現象が起こったのかを読み解きます。

当日スケジュール

9:45	宜野座村宜野座漁港集合
10:00	漁港付近を歩きながら解説
11:00	休憩
11:10	次のポイントへ徒歩で移動
11:25	海岸を歩きながら解説
11:45	宜野座漁港へ徒歩で移動
11:55	まとめ・アンケート
12:00	終了

※現地集合・解散となります。 ※小雨決行
※参加者には、後日詳細をハガキでお伝えします。

参加条件

- ①小学校3年生以上の健康で体力に自信のある方
- ②沖縄の地形の特徴を体感したい方

参加費:50円(1人/保険代)

申込方法:事前申込制(電話・来館)
応募者多数の場合、抽選後11/30(月)までに当選者のみハガキで通知。

応募締め切り:11月26日(木)

●開館時間:午前9時~午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

沖縄から発信する
「平和文化」創造のチカラ
—沖縄・カンボジアの博物館づくり協力事業を通して—

〇キーワード：カンボジア、ボト・ポト政権、住民虐殺、トゥール・スレン虐殺博物館、カンボジア国立博物館、世界記憶遺産、平和文化の創造

博物館学芸員講座

2016年
1/9(土)
14時~16時 **入場無料**
(開場13時半)
沖縄県立博物館・美術館
博物館講座室
園原 謙(博物館班 班長)
80名(事前申込不要、当日先着)

世界遺産アンコールワット
トゥールスレン虐殺博物館の展示会風景
豊見城中学校への出前授業

沖縄県立の2ヶ所の博物館(県平和祈念資料館、県立博物館・美術館)では、2009-2011(資料館)2012-2014(博物館・美術館)の6カ年間、JICAの根拠技術協力で、カンボジアの博物館(国立トゥール・スレン虐殺博物館、カンボジア国立博物館)の活動充実の支援に努めました。具体的には、同国博物館スタッフは約1か月の沖縄研修と、沖縄から派遣の学芸員によるフォローアップ研修を受講し、延べ27人の人材を育成しました。その結果、カンボジアの博物館活動(資料保存、調査研究、展示、教育普及)の充実に貢献したことから、2015年度 JICA 理事長賞を受賞しました。
今回は、その事業内容と成果および今後の課題について、プロジェクトマネージャーを務めた講師が語ります。

●開館時間:午前9時~午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

博物館学芸員講座

県民カレッジ 連携講座

考古担当学芸員の海外探訪記
インドネシア・イギリス・イタリア

2016
2月6日(土)
14:00-16:00
(開場13:30) **入場無料**

場所:沖縄県立博物館・美術館
博物館講座室

定員:80名(予約不要/当日先着)
講師:片桐千亜紀(考古担当学芸員)

〇キーワード:海外探訪、風景・再探、琉球古写真、パリア海底遺跡、ふらふら

沖繩では、先史時代から続く風葬・再葬の崖葬文化がある。それと似た葬儀を求めてインドネシアはスラウェシ島の山奥に調査へ行き、ある時は琉球処分直後に琉球を訪れたイギリス人が撮影した琉球の古写真を探しイギリスはケンブリッジ大学へ、またある時はローマ時代に船に沈んだ街を知るためイタリアはパリア海底遺跡へ。
当講座では、考古担当の学芸員が海外で行った調査成果の一端を紹介します。

1	2
3	4
5	6

(画像キャプション)
1.インドネシア/サワガン村のワルガ
2.インドネシア/タンバロ村の洞穴墓
3.イギリス/ケンブリッジの街並みと大学図書館
4.イギリス/琉球古写真の調査風景
5.イタリア/パリア海底遺跡(ローマ時代)
6.イタリア/パリア海底遺跡(色大理石の床)

●開館時間:午前9時~午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

柳宗悦と『琉球の富』
そして
昭和10年代の沖縄
~日本民藝館80周年記念展に向けて~

博物館学芸員講座

2016年
3/12(土)
14時~16時 **入場無料**
(開場13時半)
沖縄県立博物館・美術館
博物館講座室
外間 一先(美術工芸担当)
80名(事前申込不要、当日先着)

日本民藝館
「木白造り」(撮影:坂本万七)
「巻屋のアンマー」(撮影:坂本万七)

日本民藝館は、1936(昭和11)年に民藝運動の創始者である柳宗悦により東京都目黒区に開設され、今年で80周年を迎えます。同館には、陶磁器・染織品・木漆工品・絵画・編組品など約1万7千点の資料が収蔵されています。柳氏は1938(昭和13)年、初めて足を踏み入れた沖縄で、染織や陶器などの工芸品や可成、歌や踊りなど人々の日常の暮らしに魅了されます。その眼に映ったのは驚くべき美の王国の姿でした。また、柳氏は沖縄の人々との交流の中で琉球文化の調査研究を行い多くの品々を蒐集していきました。今回は、柳氏の著書『琉球の富』をもとに、その活動や当館が収蔵する資料を取り上げ、沖縄の工芸と昭和初期の沖縄の姿をご紹介します。

〇キーワード:柳宗悦、民芸、工芸、琉球の富、昭和10年代の沖縄

●開館時間:午前9時~午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

VI 展示解説会

1 博物館展示解説会実施要項

(1) 趣旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、学芸員が広い視点から分かりやすく講義・展示解説し、楽しく有意義な学習を通して、県民の意識の向上を図ることを目的とする。

(2) 内容

当博物館の自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野の担当学芸員が行う講義・展示解説を通して、県民が楽しく、より深く沖縄について学ぶことができる。

(3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、第2木曜日 午後2時～3時までの1時間

場 所：博物館常設展示室

(4) 受講方法

定員なし（事前申込不要、13：55にふれあい体験室に集合）

(5) 日程

	日程	分野	講師名	参加者	ボランティア
1	4月9日	人類	山崎真治	10	2
2	5月14日	考古	片桐千亜紀	15	4
3	6月11日	人類	藤田祐樹	17	3
4	7月9日	美術工芸	園原 謙	*台風の為、中止	
5	8月13日	地学	仲里 健	13	2
6	9月10日	美術工芸	與那嶺一子	6	4
7	10月8日	歴史	石垣 忍	9	7
8	11月12日	歴史	安里進 館長	21	11
9	12月10日	民俗	大湾ゆかり	15	4
10	1月14日	生物	山崎仁也	11	5
11	2月11日	美術工芸	園原 謙	6	3
12	3月10日	美術工芸	外間一先	20	4
合計人数				143	49

2 実施状況

常設展の展示解説会は、展示資料を前に、学芸員がパネル文だけでは補いきれない「博物館ならではの最新の調査報告や情報」を踏まえた内容を紹介している。参加者の内訳は、博物館ボランティアが全体の約30%を占め、その他年間パスポートや友の会会員、個人のリピーターの参加が定着している。常設展の展示解説会は、各学芸員が1回ずつ担当し、全12回143名（定員なし、平均参加人数12名）の参加を集めた。

企画展における展示解説会では、全7回245名（定員なし、平均参加人数35名）の参加者があった。博物館企画展「うちくい 沖縄のふろしき」では全4回97名（定員なし、平均参加人数24名）が参加し、紅型に興味関心の高いお客様のほか、他府県からの参加者も集った。また、特別展「琉球弧の葬墓制—風とサンゴの弔い—」では、全2回124名（定員なし、平均参加人数62名）が参加し展示パネルだけでは補えない情報や展覧会開催にまつわるエピソードなどについて詳しく解説した。そして、博物館企画展「大気と気象～見えない空気の“力と技”～」では1回24名が参加し、様々な実験装置を体験しながら、見えない空気の不思議に迫った。
(大瀧萌子)

平成27年度 博物館企画展・特別展付帯催事 展示解説会

	日程	時間	展覧会名	講師名	参加者
1	5月2日(土)	11:00～12:00	博物館企画展 「うちくい 沖縄のふろしき」	與那嶺一子	21
2	5月9日(土)	15:30～16:30			57
3	6月13日(土)	11:00～12:00			13
4	6月13日(土)	14:00～15:00			6
5	9月26日(土)	11:00～12:00	博物館特別展 「琉球弧の葬墓制—風とサンゴの弔い—」	大湾ゆかり	52
6	10月3日(土)	16:30～17:30			72
7	2月13日(土)	16:10～16:40	博物館企画展 「大気と気象～見えない空気の“力と技”～」	仲里 健	24
合計					245

Ⅶ バックヤードツアー

1 バックヤードツアー実施要項

(1) 趣旨・目的

博物館が持つ、調査・研究・保存の機能を担う収蔵庫や各部屋を学芸員が分かりやすく解説し、普段見る事のできない博物館の機能の見学を通して、文化財への県民の意識向上を図る事を目的とする。

(2) 内容

普段見る事のできない博物館内の各部屋を見学する。

(3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、今年度は基本第1土曜日 午後2時～3時までの1時間

場 所：博物館バックヤード

(4) 受講方法・定員

受講方法：当日9時から総合案内にて受付。

定 員：12名（当日先着順）

(5) 実施状況

バックヤードツアーは、より専門性を生かした内容とリピーターづくりを目指し、学芸員が月ごとに講師を務めた。安全性を考慮し、常に学芸員と文化の杜スタッフの2名体制で臨んだ。

学芸員研究室～研究資料室(書庫)～自然史実験室～トラックヤード～写真撮影室～冷凍室～工作室を基本コースとしたが、収蔵庫は専門分野を中心に案内することにより、資料に関する質問にも的確に対応することができた。また、建物の構造やIPM(Integrated Pest Management:総合的病害虫管理)の取り組み、資料の修復について解説するなど、来館者に博物館の役割や使命を理解してもらうための工夫が担当毎に見られた。参加者層は、県外からの旅行者を含む一般来館者が大多数を占め、夏休み期間中は、親子連れが目立った。全12回112名(定員12名、平均参加人数9名)の参加があった。

(大濱萌子)

(6) 日程

	日程	分野	講師名	定員	参加者
1	4月25日	人類	藤田祐樹	12	14
2	5月16日	考古	片桐千亜紀	12	12
3	6月27日	生物	山崎仁也	12	6
4	7月25日	人類	山崎真治	12	6
5	8月22日	歴史	崎原恭子	12	11
6	9月26日	美術工芸	與那嶺一子	12	11
7	10月24日	教育普及	金城久枝	12	12
8	11月14日	地学	仲里 健	12	10
9	12月12日	歴史	石垣 忍	12	4
10	1月23日	美術工芸	外間一先	12	7
11	2月27日	民俗	大湾ゆかり	12	10
12	3月19日	美術工芸	園原 謙	12	9
合計人数				144	112

VIII 夏休み！博物館学芸員教室

1 夏休み！博物館学芸員教室実施要項

(1) 趣旨・目的

学芸員が、夏季休暇中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究等について、可能な限り博物館の情報を提供し、郷土への興味・関心を高める。

(2) 内容

総合・部門展示、ふれあい体験室、情報センターなどの博物館の機能を紹介し、博物館を通した、沖縄の自然、歴史、文化について子ども向けの教室を行う。

(3) 実施方法

対象：県内の小学生・中学生

実施日：平成27年7月28日（火）から7月31日（金）まで

時間：10：00～16：30 * 1教室おおよそ90分程度（教室によって変更あり）

定員：各分野20名程度（事前申込制）*教室によって変更あり

参加料：無料 ※材料費は実費・・・講座により異なる

場所：実習室を中心に行う。

(4) 受講方法

①各分野の担当学芸員の日程表をチラシ等で表示し、参加者を募る。

②事前申込制 ※応募者多数の場合抽選。

③各担当学芸員の指示のもと、諸注意を守り受講する。

2 実施状況

日時	7月28日(火)	7月29日(火)	7月30日(火)	7月31日(火)
10:00～ 11:00	砂の中から 宝を探せ！！ 仲里 健 (地学担当) 参加費:無料 参加者 17人	動物の歯と 食べ物を調査せよ！ 藤田 祐樹 (人類担当) 参加費:300円 参加者 20人	水玉模様の ゾウリムシを 観察しよう！ 山崎 仁也 (生物担当) 参加費:無料 参加者 17人	オリジナルの 家系図を つくろう！！ 崎原 恭子 (歴史担当) 参加費:無料 参加者 9組 (親子)
13:00～ 14:30	貝づくりに挑戦 山崎 真治 (人類担当) 参加費:200円 参加者 15人	糸を作ってみよう！ 與那嶺 一子 (美術工芸担当) 参加費:100円 ※ 参加者 14人	—	—
13:00～ 16:30	—	—	カンカラ三線を 作って弾いて みよう！！ 園原 謙 (美術工芸担当) 参加費:1,000円 参加者 20組 (親子)	漆喰シーサーを 作ろう 外間 一先 (美術工芸担当) 参加費:1,000円 参加者 17組 (親子)
15:00～ 16:30	印じゃなあい？ 石垣 忍 (歴史担当) 参加費:1,000円 参加者 10人	アダン葉の ハブグラーを 作ってみよう！ 大湾 ゆかり (民俗担当) 参加費:無料 ※ 参加者 13人	—	—

* 応募総数428人/参加者数152人(定員153人)

※応募後、定員数を増やし、対応した。糸:10人→14人、アダン葉:10人→15人

☆砂の中から宝を探せ！

砂の中から宝を探せでは、星砂と呼ばれる砂が実は有孔虫の遺骸で、海砂には他にも生物遺骸が含まれていることを実体顕微鏡で海砂を観察し発見することができました。



☆貝器づくりに挑戦

貝器づくりでは、真珠貝を砥石やサンドペーパーで削り、貝のアクセサリーや釣り針、ヤジリなどの道具づくりを行いました。



☆印じゃなーい？

印じゃなーいでは、普段気に留めることのない、書や絵、文書に押されている印の役割について考え、好きな文字で印作りが行われました。



☆動物の歯と食べ物を調査せよ！

動物の歯をじっくり観察することから、食べ物による歯の構造の違いに気づき、肉食動物？雑食動物？と参加者は興味を持ってスケッチに取り組んでいました。



☆糸を作ってみよう！

糸作りでは、材料となる植物の苧麻観察やカイコから糸がとれる工程等を体験し、ものを作りだす大変さ生物の大切さを実感したようでした。



☆アダン葉のハブグウーを作ってみよう！

アダン葉のハブグウー作りでは、本物のアダン葉を使ったハブグウー作りとカタツムリ作りが行われました。アダンの葉でのおもちゃ作りは、昔の玩具を知る機会となりました。



☆水玉模様のゾウリムシを観察しよう！

顕微鏡でのぞく、不思議ワールドでは、顕微鏡の種類と特徴、使い方を学びその後チリメンモンスター、ゾウリムシの観察を行いました。



☆カンカラ三線を作って弾いてみよう！

カンカラ三線作りでは、三線の型の違いや沖縄の人々が三線を大事にする理由を学び、カンカラ三線作製後は、全員で三線演奏を行いました。



☆オリジナルの家系図をつくろう！

オリジナルの家系図づくりでは、身近な家族の広がり調べて、先祖から子孫にいたる一族の系統をまとめました。



☆漆喰シーサーを作ろう！

漆喰シーサー作りでは、博物館に展示されているシーサー見学や漆喰シーサー作りから、魔除けとしてのシーサーについて色々知ることができたようでした。



☆☆☆ 楽しかったよ！学芸員教室！！ ☆☆☆



あつ やす
夏休み!

博物館学芸員教室 2015

面白くてためになる。答えを教えるものではありません。
子どもたちに疑問を抱ききつかけや、その疑問を解決する方法を伝授します。

所 沖縄県立博物館・美術館
場 博物館実習室

7月28日(火)

1 砂の中から宝を探せ!!

砂をよく見ると…小さな宝物? 顕微鏡を使って探してみよう

講師 仲里 鍾(地学担当) 対象:小4~中3 (小学生は、保護者同伴) 時間10:00~11:30 定員:18人 参加費:無料

2 貝器づくりに挑戦

真珠貝を加工して古代の矢じりを作ろう

講師 山崎 寛治(人類担当) 対象:小1~中3 (小3以下、保護者同伴) 時間13:00~14:30 定員:15人 参加費:200円 *安全確保上、小さいお子様の参加はご遠慮ください。

3 印じゃなあーい?

自分の好きな一文字を石に刻んで、オリジナルの「印」を彫ろう

講師 石垣 忍(歴史担当) 対象:小4~中3(小学生は、保護者同伴) 時間15:00~16:30 定員:10人 参加費:1,000円(印材を含む) *安全確保上、小さいお子様の参加はご遠慮ください。

7月30日(木)

7 水玉模様のゾウリムシを観察しよう!

顕微鏡の使い方を学んで、ゾウリムシを水玉模様染めてみよう!

講師 山崎 仁也(生物担当) 対象:小4~中3 定員:20人 参加費:無料 時間10:00~11:30

8 カンカラ三線を弾いてみよう!!

三線が発する音のしくみを学ぶとともに沖縄の伝統楽器に親しんでみよう。

講師 國原 謙(美術工芸担当) 対象:小1~小6の親子 定員:20組 時間13:00~16:30 参加費:1,000円 協賛:沖縄県三線製作事業協同組合

7月29日(水)

4 動物の歯と食べ物を調査せよ!

頭骨レプリカの歯を見ながらスケッチ8歯の骨格レプリカを作ろう

講師 藤田 祐樹(人類担当) 対象:小1~小6 (小3以下、保護者同伴) 時間10:00~11:30 定員:20人 参加費:300円 *安全管理上、小さいお子様の参加はご遠慮ください。

5 糸を作ってみよう!

植物と蚕(かいこ)の繭から糸作り! いろいろな糸の作り方を知ろう!

講師 興那嶺 一子(美術工芸担当) 対象:小4~中3 定員:10人 参加費:100円 時間13:00~14:30

6 アダン葉のハブグラーを作ってみよう!

アダンの葉っぱをとってきて、てづくりおもちゃをつくらう!

講師 大冨 ゆかり(民俗担当) 対象:小1~小6 (小3以下、保護者同伴) 定員:10人 参加費:無料 時間15:00~16:30

7月31日(金)

9 オリジナルの家系図をつくろう!

身近な家族の広がり調べて「家系図」を作り、自由研究のヒントを見つけよう

講師 崎原 恭子(歴史担当) 対象:小4~中3の親子 定員:10組 参加費:無料 時間10:00~11:30

10 漆喰シーサーを作ろう

シーサー学んで、シーサー作って、乗シーサー!!

講師 外間 一先(美術工芸担当) 対象:小4~小6の親子 定員:20組 参加費:1,000円 *安全管理上、小さいお子様の参加はご遠慮ください。

申込方法 事前申込制。参加希望教室を第2希望まで選択し、当チラシの応募票に必要事項をご記入の上、FAX・郵送・来館(総合案内)にて、ご提出下さい。
※応募者多数の場合は、抽選にて、当選者のみ7/23(木)までにハガキで通知します。
※電話での申し込みはできません。 ※郵送、来館の場合は、お手元にコピー等の控えをお持ち下さい。
※当チラシ(応募票)は、当館HPでダウンロードできます。
ダウンロードはこちら▶ <http://www.museums.pref.okinawa.jp>

申込期間 平成27年7月8日(水)~16日(木)
お申込み 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1 沖縄県立博物館・美術館 指定管理者 文化の杜共同企業体「夏休み!博物館学芸員教室」係 (担当:さば、おおはま)
来館先 お申込みFAX先 098-941-2392

応募票	住所	〒 _____	自宅	電話 携帯	参加希望教室 <small>一つずつ記入して下さい。</small>
	名前 <small>(本名)</small>	ふりがな _____	年齢	_____	
	学年	_____	性別	_____	第2希望 <input type="checkbox"/>
	小・中・年生	_____	名前 <small>(保護者)</small>	_____	※希望教室の抽選にもれた場合、定員に達していない教室を受講希望
	※応募には保護者の承諾が必要。 ※個人情報保護法に基づき、応募票に記す個人情報の取り扱いについては十分留意します。				はい・いいえ

Ⅸ ふれあい体験室

1 ふれあい体験室の概要

(1) ふれあい体験室の位置づけと目的

「ふれあい体験室」は、ハンズ・オン展示の資料を通して来館者同士、来館者とスタッフ、また、ここで展示されている“おきなわ”との「ふれあい空間」創りをめざしている部屋です。この部屋は、常設展示として、総合展示、部門展示と補完しあい、また、実習室や野外体験プログラムと連携し、効果的に運用できる機能を併せもっています。

さらに、この部屋は館内における教育普及活動の拠点施設となり、来館者に発見や感動の喜びを提供する場として、教育のさらなる向上に寄与する展示・プログラムの開発を行う場ともなります。

(2) 体験キットの位置づけ

展示物(体験キット)は、沖縄の「自然のしくみ」と「先人の知恵」に触れる・見る・聞くなどの五感で体感できる操作や組立てなどの遊びを通じて、展示資料を深く学ぶことができます。

体験キットは、教育普及資料として位置づけられるもので、沖縄の自然、考古、歴史、美術工芸及び民俗などの内容に基づき、すべてが触れることのできるものとしします。

体験キットは、来館者が資料に触れあうことで目的が達成するものとして準備されています。来館者が自主的に触れることが出来る様にするために、職員や親子、一般の方々といった様々な人が参加する雰囲気作りを心がけていきます。ふれあい体験室では、能動的に“沖縄の「自然のしくみ」や「先人の知恵」”を発見・再発見することができる展示とします。

(3) ふれあい体験室・体験キットの対象者

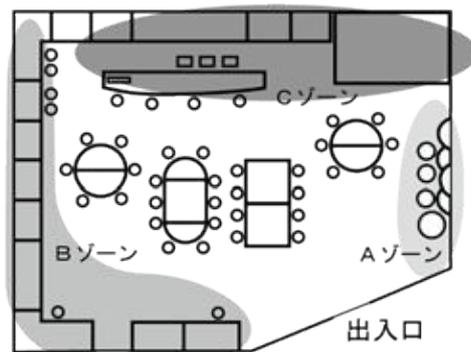
基本的に小学校中学年（3年生以上）を対象としています。しかし、テーマに沿った展示手法の工夫により、幼児から就学年齢の子ども、または大人にとっても楽しめる空間創りを目指しています。

(4) 体験キットの分類

ふれあい体験室は、自由に体験キットを利用することを基本としています。しかし、体験キットによっては安全性や耐久性の面で使用時の注意や制限がかかるものもあります。ふれあい体験室では、体験キットを分類し、配置されているゾーンによって、使用制限のランクを分けています。

体験キットグループ	キットの種類	来館者への使用制限
グループ A	【見る・触る】 ・直感的に（一見して）内容が分かる。 ・安全性、耐久性が高い。	・来館者は自由に出し入れできる。 *来館者によっては手助けが必要。
グループ B	【聞く・比べる・聞ける・押す】 ・簡単な操作で内容が分かる。 ・安全性がある程度確保されていて、耐久性が高い。	・来館者は自由に出し入れできるが、 *来館者によっては手助けが必要な場合もある。
グループ C	【組み立てる・作る・分類する】 ・作業を通して仕組みや内容が分かる。 ・細かい部品や安全面での指導、管理を要する。 ・破損、摩耗しやすい等、耐久性が低い。	・スタッフを介してキットを受け渡し、 介助を得ながら、もしくは目の届く範囲で利用する。 *来館者によっては手助けが必要ない場合もある。

見取り図（ゾーニング図）



2 体験キットの種類

大テーマ	中テーマ	小テーマ	番号	タイトル	分野	
自然のしくみ・先人の知恵	生物界	きみはだあれ？	1	サインを見のがすな！	自然史	
			2	小さな生き物の大きな仕事		
			3	耳をすませば		
			4	この骨だれの？		
			5	サンゴと生きる		
		6	いろいろなタネ			
	自然のすがた	7	いろいろな木と草			
		8	いろいろな石と砂			
		9	見える星座・見えない星座			
	地史	地下に ねむる歴史のなぞ	10	化石 ～生きたあかし～		
			11	港川人研究所		
	人々のくらし	食の知恵	12	土層と遺物からわかること	考古	
			13	石で築く ～石積みの知恵～		
			14	ヌテグスイ		
		食の習わし	15	イノー ～海の食料庫～	民俗	
			16	御三味		
			17	いろいろな道具		
			18	島々のコトバ		
			シマの心	19		いろいろな玩具
				20		いろいろな楽器
			色の ひみつ・ 形のふしぎ	21		衣からわかること
		22		焼物 ～かたちのわけ～		
		23		漆～飾るたのしみ～		
		国のかたち		24	印かんってなあに？	歴史
				25	島のかたち	
	26			記録のくふう		
	27			国々とのおつきあい		



No.11



No.13



No.18

3 スタッフの配置状況

ふれあい体験室は常駐の職員1名（文化の杜共同企業体）と博物館ボランティアスタッフで運営している。

職員は、常勤スタッフ1名とアルバイトスタッフ4～5名で構成。室内の安全管理、体験キットの整理・修繕や、来館者が体験キットに寄せる好奇心を、共に探求する「ふれあいスタッフ」を配置している。ふれあい体験室の「ふれあい空間づくり」には、博物館ボランティア・ふれあい体験室専属ボランティアの支援が大きな力となっている。

4 利用者状況

今年度のふれあい体験室の来場者は、60,500人（1日平均212人／3月19日現在）。幼少からのリピーターも多く、27種類の体験キットは、人々の交流の中で子ども達の成長に合わせて利用されている。毎週土曜日に開催している「ふれあい体験室ワークショップ」5-(1)は、体験キットの学びを深める機会として、子どもから大人まで幅広い世代が参加し、新たなプログラムを楽しみにする参加者も定着している。ワークショップの充実は、飽きさせない環境づくりや、来館を促すきっかけへと繋がっている。ふれあい体験室は小さな子どもから楽しめる博物館の「学びの場」となっている。



5 ふれあい体験室の取組み

(1) ふれあい体験室ワークショップ

今年度のふれあい体験室ワークショップは、体験キットの充実・発展を目的に、各分野担当学芸員や専門の指導者と協力して4つのプログラムを開催した。未就学児から大人まで広い世代に参加してもらえるよう、難易度を低くすることや、短時間で取り組める内容を選定した。参加者には、講座の要点をまとめた「博士カード」を配布し、カードを集める楽しさを取り入れながら、学びを深めてもらった。（主催：文化の杜共同企業体）

場所：ふれあい体験室前エントランスホール

講師：ふれあい体験室スタッフ1名

（文化の杜共同企業体：渡部貴子、平良尚人、渡久山海理）

対象：小さなお子さん～大人（小3以下、保護者同伴）

参加者数：1245人／一日平均24人



① ふれたい博士の「てづくりおもちゃ」

内 容：体験キットNo.19「いろいろな玩具」から、マーニー（クロツグ）やアダンの葉でつくった昔のてづくりおもちゃを、カラフルな画用紙やソフトテープで作製した。

日 時：4月～6月の毎週土曜日（6/29休館）

1回目 10:00「馬グワァー」

2回目 10:30「カタツムリ」

3回目 11:00「星コロ」

4回目 11:30「ハブグワァー」

参加費：100円

参加者数：357人（開催日数13日／一日平均12人／各日定員40人）



② ふれたい博士の「光合成ペンダント」

内 容：体験キットNo.7「いろいろな木と草」から、大きさ約4センチ×1.8センチの密閉容器に水草のオオカナダモと液体の水素イオン濃度を測る水溶液を入れ、光を当てて、水溶液の色の変化から植物の光合成と呼吸を観察できるペンダントを作製した。

日 時：7月～9月の毎週土曜日（7/4 休館）

1回目 10:00 / 2回目 10:30 /

3回目 11:00 / 4回目 11:30

参加費：150円

参加者数：551人

（開催日数12日／一日平均46人／各日定員60人）

指導協力：山崎仁也（生物担当）



③ ふれたい博士の「土器文様しらべ」

内 容：体験キットNo.12「遺物からわかること」から、土色の紙粘土を使って土器に文様をつけた方法を考え、文様から読み取れる土器の年代を調査しながら、「土器のカケラ風チャーム」を作製した。

日 時：10月～12月の毎週土曜日

1回目 10:00 / 2回目 10:30 /

3回目 11:00 / 4回目 11:30

参加費：150円

参加者数：119人（開催日数13日／一日平均9人／各日定員40人）

指導協力：片桐千亜紀（考古担当）／山崎真治（人類担当）／崎原恒寿氏（恩納村教育委員会）



④ ふれたい博士の「凧づくり～カーブヤーに挑戦！」

内 容：体験キットNo.19「いろいろな玩具」から、十字の骨組にカラフルなビニールを張り、大きさ28cm角の沖縄の伝統凧「カーブヤー」を作製した。

日 時：1月～3月の毎週土曜日

1回目 10:00 / 2回目 10:30 / 3回目 11:00 / 4回目 11:30

参加費：150円

参加者数：218人（開催日数13日／一日平均17人／各日定員40人）

指導協力：大湾ゆかり（民俗担当）／

上運天研成氏（おもちゃの会ピノキオ会長）

金城珍章氏（八重山凧愛好会会長）



(2) ふれあい体験室ワークショップ特別編

毎週土曜日に定期開催しているふれあい体験室ワークショップが、臨時的に開催の申し入れがあった団体へ向け、ワークショップを行った。通常の開催に参加したことのない人々へも、広く郷土玩具の普及を図り、関心を高められる機会となった。（主催：文化の杜共同企業体）

内 容：アダン葉細工の「ハブグラー」をカラフルなソフトテープで作製した。

日 時：6月10日（水）13:30～14:30

場 所：博物館講座室

講 師：渡部貴子（文化の杜共同企業体）、博物館ボランティア13人

対 象：琉球大学留学生クラス沖縄事情の学生

参加費：100円 参加者数：40人



ふれあい体験室 ワークショップ
毎週 土曜日
2015年4・5・6月は
ふれたい博士の「てづくりおもちゃ」

体験キット
いろいろな玩具 から、マニー（クログ）やアダンの殻でつくった音のてづくりおもちゃを、カラフルな画用紙やソフトテープでつくります。ものづくりの知恵や工夫が込められた、おもちゃづくりに挑戦してみよう！

馬グweer 10:00~
カタツムリ 11:30~
星コロ 11:00~
ハブグweer 11:30~

白にち: 4/4・11・18・25
5/2・9・16・23・30
6/6・13・20・27

時間: 1回目 10:00 馬グweer
2回目 10:30 カタツムリ
3回目 11:00 星コロ
4回目 11:30 ハブグweer

場所: 沖縄県立博物館・美術館
1階ふれあい体験室前

受付: 当日先着 40人 (各回10人)
※9:00よりふれあい体験室にて受付

対象: 5さい~大人
※小学生以下、大人といっしょに参加

参加費: 各回 100円

TEL: 098-941-8200
http://www.museum.pref.okinawa.jp

ふれあい体験室 ワークショップ
毎週 土曜日 2015年7・8・9月

体験キット
いろいろな木と草
ふれたい博士の
光合成
ペンダント

どんなふうに変わらそう? 10:00~11:00
ピンク 10:00~11:00
アオ 10:00~11:00

植物は光合成という働きで二酸化炭素と水と光で栄養をつくっているよ。
「光合成ペンダント」をつくって、オオカナダモが呼吸したり光合成している様子をペンダントの水滴液の色の変化から観察しよう。

白にち: 7/11・18・25
8/1・8・15・22・29
9/5・12・19・26

時間: ①10:00/②10:30
③11:00/④11:30

場所: 沖縄県立博物館・美術館
1階エントランスホール

受付: 当日先着 60人 (各回15人)
※9:00よりふれあい体験室にて受付

対象: ちいさなお子さん~大人
※小学生以下、大人といっしょに参加

参加費: 各回 150円

TEL: 098-941-8200
http://www.museum.pref.okinawa.jp

ふれあい体験室 ワークショップ
毎週 土曜日 2015年10・11・12月

体験キット
土層と遺物からわかること
ふれたい博士の
「土器文様しらべ」

土器は、生活のたまご、器の形にして使ったものだよ。おもに、食料の道具として使っていたんだ。ほかに、装飾を入れたり形を美化するものもあるよ。土器には、時代によっていろいろな文様があるんだ。仔細で観察された土器文様の土器にはどんな文様があるかな? どうやって文様をつけたのかな? 土器の表面を塗って土器に文様をつけた方法を学んで、文様から読み取れる土器の年代を勉強しよう。「土器のくまちゃん」をつくって、ペンダントや磁器にしよう。

白にち: 10/3・10・17・24・31
11/7・14・21・28
12/5・12・19・26

時間: ①10:00/②10:30
③11:00/④11:30

場所: 沖縄県立博物館・美術館
1階エントランスホール

受付: 当日先着 40人 (各回10人)
※9:00よりふれあい体験室にて受付

対象: ちいさなお子さん~大人
※小学生以下、大人といっしょに参加

参加費: 各回 150円

TEL: 098-941-8200
http://www.museum.pref.okinawa.jp

ふれあい体験室 ワークショップ
毎週 土曜日 2015年1・2・3月

体験キット
いろいろな玩具
ふれたい博士の
凧づくり
カーブヤー
に挑戦!

「カーブヤー」は、幼児から遊べる種類の伝統的玩具です。「カーブヤー」とは、ウチナーグチで「コウモリ」のこと。角が尖がっているため、そう呼ばれています。さあ、どんなふうに空を舞うのでしょうか? 十字の骨組にカラフルなビニールを張り、紙付けして空におかけよう! (大きさ: 28cm高)

白にち: 1/2・9・16・23・30
2/6・13・20・27
3/5・12・19・26

時間: 1回目 10:00
2回目 10:30
3回目 11:00
4回目 11:30

場所: 沖縄県立博物館・美術館
1階エントランスホール

受付: 当日先着 40人 (各回10人)
※9:00よりふれあい体験室にて受付

対象: ちいさなお子さん~大人
※小学生以下、大人といっしょに参加

参加費: 各回 150円

TEL: 098-941-8200
http://www.museum.pref.okinawa.jp

6 沖縄県立博物館・美術館 魅力アップ事業「ふれあい体験室機能強化事業」

博物館では、近年増加傾向にある外国人観光客への対応やユニバーサルデザインへの取組み、多様化するニーズへの対応等の改善を目指し、平成26年度から平成27年度の2年間、ふれあい体験室の機能強化事業に取り組んだ。ふれあい体験室は、ガラス張りの部屋で一見すると何のための部屋であるかがわかりにくい、外国語表記がないため国外からの来館者が認知しにくい、無料の施設であることがわかりにくいなどの課題があった。これらの改善に向け、平成26年度から取り組んだ機能強化事業により、ファサード、施設サイン、案内サイン、室内サイン、点字解説シート、体験キットの利用方法など工夫改善を行い、認知度向上につなげることができた。

施設案内サインは、英語、中国語（簡体・繁体）、韓国語、スペイン語を表記した。演示具分類サインをICT対応にし、AR（Augmented Reality）拡張現実と呼ばれる方法を導入した。ターゲットアイコンに、ARタブレットをかざすと反応し、体験キットの使い方が表示される。ARタブレットは、日本語、英語、中国語（簡体・繁体）、韓国語、スペイン語の5カ国語に対応できる。ふれあい体験室ARアプリは、Google Playでダウンロードできる。また、新体験キットとして、12件の体験キットを製作している。

（金城 久枝）



Before



After 平成26年度



外国語表記



AR対応 タブレット

X ボランティア養成事業

1 沖縄県立博物館・美術館 博物館ボランティア活動実施要項

平成 20 年 2 月 13 日

館長決済

(趣旨)

第 1 条 沖縄県立博物館・美術館は、博物館が行う教育普及活動または研究資料の収集・整理・充実を図るため、その活動の補助員としてボランティア（以下「博物館ボランティア」という。）を置くことができる。

(博物館ボランティアの活動)

第 2 条 博物館ボランティアは、次の各号に掲げる活動を行う。

- (1) 展示解説、文化講座、体験学習教室、ふれあい体験室、相談室における対応等の教育普及活動全般にわたる補助的活動。
- (2) 調査研究等を推進するために必要な資料の収集に関し、専門知識を生かした補助的な活動。

(登録等)

第 3 条 博物館ボランティアの登録は、博物館ボランティア講座の修了者、沖縄博物館友の会の会員、博物館ボランティア活動を希望する者で、登録票(第 1 号様式)により申請のあった者の中から、沖縄県立博物館・美術館館長(以下「館長」という。)が審査のうえ適当と認められる者について、登録簿(第 2 様式)へ登載を行う。

- 2 館長は登録を受けた博物館ボランティアに対し、博物館ボランティア登録証(第 3 号様式)を交付する。
- 3 登録期間は、登録した日の属する年度の末日までとする。但し、当該博物館ボランティアが希望する場合は審査のうえ登録を更新することができる。
- 4 館長は博物館ボランティア登録者に博物館の名誉を傷つける等の行為があった場合は、登録を取消すことができる。

(研修)

第 4 条 館長は博物館ボランティアの活動が効果的にすすめられるよう、随時研修会を開催する。

(ボランティア室の設置)

第 5 条 館長は博物館ボランティア活動の連絡及び相互交流の場として、ボランティア室を設置する。

(庶務等)

第 6 条 博物館ボランティアの登録は、博物館教育普及担当において処理する。

- 2 博物館ボランティア活動の連絡調整は、博物館教育普及担当と沖縄博物館友の会において処理する。

(雑則)

第 7 条 この要項に定めるもののほか博物館ボランティア活動の実施に必要な事項は、館長が別に定める。

付則

- この要項は、平成 5 年 7 月 1 日から実施する。
- この要項は、平成 12 年 8 月 1 日から実施する。
- この要項は、平成 20 年 2 月 13 日から実施する。

博物館「ふれあい体験室専属ボランティア」 募集要項

沖縄県立博物館・美術館では、地域の方々へ自己啓発の場を提供するとともに、博物館活動の活性化、来館者へのサービス向上、多様化するニーズへの対応を目指し、「ふれあい体験室専属ボランティア」を募集します。

1 ボランティアの種類

《ふれあい体験室専属ボランティア》

土・日・祝祭日において、博物館「ふれあい体験室」の支援活動をおこなうボランティアです。

※ふれあい体験室は、自由にハンズオン展示資料＝体験キットを利用することができる部屋です。

2 ボランティア活動の時間、内容

活動時間	9:00～18:00の時間内で、 自身の活動できる曜日と時間帯。 ※1日3時間程度
------	--

活動内容	「ふれあい体験室」にて来館者への体験サポート
------	------------------------

3 募集人員・内訳

《「ふれあい体験室」専属ボランティア》	15名
---------------------	-----

4 応募資格・条件など

- ・ 18歳以上(高校生を除く)で、心身ともに健康な方
- ・ **9に示す養成講座をすべてを受講できる方**
- ・ 各種講座修了後、6月に正式登録。登録後、**月に2日以上(1日3時間程度)**、当館においてボランティア活動ができる方
*特典として、博物館常設展、県主催の企画展や特別展の入館料免除、月1回の ボランティア通信の送付。ボランティアを対象とした学習会への参加。

5 登録と活動

- ・ 所定の講座を修了した方を、ボランティアとして登録(博物館費用でボランティア保険加入)し、登録証交付式で配布される【ボランティア証】を着用し、活動を開始していただきます。
- ・ 登録期間は翌年3月31日までの1年間とします。
- ・ 翌年の継続登録を希望する方は、活動状況などを基に1年度毎の更新となります。
- ・ 一年間に数回の会議があります。
※ボランティア全体会(4月、10月)。
※年度によっては受講を必修とする講座の開催もあります。

6 ボランティア登録までの流れ

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1) 募集期間 | 平成27年4月 1日(水)～5月1日(金) |
| 2) 開講式 | 平成27年5月16日(土) |
| 3) 登録申請(意思確認) | 平成27年5月31日(日) |
| 4) 閉校式・登録証交付式 | 平成27年6月13日(土) |

7 申込期間及び方法

受付期間:平成27年4月1日(水)～5月1日(金) 9:00～18:00 ※毎週(月)は休館日

申込方法:「申込用紙」をFAX、郵送(締切日必着)もしくは、来館(総合案内に提出)の上、提出してください。

* 定員を超える場合は先着順とします。

* 「申込用紙」が提出され次第、館から電話連絡をします。その上で、講座に参加していただける方には案内ハガキを5/8(金)までに送付します。

問合せ先:TEL(098)941-8200 FAX(098)941-2392

〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1 沖縄県立博物館・美術館 (担当:渡部・亘保)

8 養成講座の日時・場所

日時:平成27年5月16日(土)、5月31日(日)、6月13日(土)の 計3日(6時間)

場所:沖縄県立博物館・美術館 1階ふれあい体験室・博物館実習室など

9 養成講座日程表

* 講座の時間及び日程については、都合により変更することもあります。

	内 容	日時・場所	形態	担当学芸員
1	開講式/博物館活動について/ 博物館ボランティアについて/ IPMについて	5月16日(土) 10:00～12:00 (実習室)	講座	金城・比嘉・渡部
2	ボランティア実習① ふれあい体験室について/ 体験キットについて/ 常設展示室との関連について	5月31日(日) 14:00～16:00 (実習室)	実習	金城・渡部
3	ボランティア実習② ふれあい体験室での来館者を想定した 実地研修/意見・感想交換/新旧ふれあい 体験室専属ボランティア顔合わせ 閉講式・登録証交付式	6月13日(土) 14:00～16:00 (実習室)		金城・渡部



昨年度の研修の様子

平成27年度ふれあい体験室専属ボランティア養成講座 実習の流れ

第1回 5月16日(土)

会場：実習室

日 程	実 習 内 容
10:00 ~ 10:15 (15)	☆ 開講式 ○職員紹介 ○自己紹介 ○日程説明
10:15 ~ 10:45 (30)	1、IPMについて
10:45 ~ 11:05 (20)	2、博物館活動について・ボランティア活動紹介 「ふれあい体験室での活動」
11:05 ~ 11:20 (15)	～ 休憩 ～ 顔写真撮影(ボランティア証用)
11:20 ~ 11:40 (20)	3、ボランティアの手引き読み合わせ
11:40 ~ 11:50 (10)	4、登録について(申請書を見ながら)
11:50 ~ 12:00 (10)	5、諸連絡(ふれあい体験室てびき、体験キット取り扱い資料について、登録申請書提出について、次回講座日程確認)

第2回 5月31日(日)

会場：実習室、ふれあい体験室

日 程	実 習 内 容
14:00 ~ 14:10 (10)	1、前回の振り返り
14:10 ~ 14:25 (15)	2、ボランティア室の利用について
14:25 ~ 15:00 (35)	3、ふれあい体験室とは ○ふれあい体験室てびき読み合わせ
15:00 ~ 15:15 (15)	～ 休憩・移動 ～
15:15 ~ 15:55 (40)	4、ふれあい体験室実習 ○「体験キットの種類」 ○「常設展示室とのつながり」
15:55 ~ 16:00 (5)	5、諸連絡(ふれあい体験室のてびき持参、次回講座日程確認)

第3回 6月13日(土)

会場：実習室

日 程	実 習 内 容
14:00 ~ 14:10 (10)	1、前回の振り返り
14:10 ~ 14:30 (20)	2、ペーシングによる接客 理論「コーチングとは」 ○「ティーチング」と「コーチング」 ○「カウンセリング」と「コーチング」 ○「ペーシング」
14:30 ~ 15:00 (30)	実践「ペーシング演習」 ○来館者を想定した実践演習
15:00 ~ 15:15 (15)	～ 休憩・移動 ～
15:15 ~ 15:45 (30)	3、新旧ふれあい専属ボランティア顔合わせ 意見交換・感想
15:45 ~ 16:00 (15)	☆閉講式 ○登録証交付 ○激励のことば ○諸連絡

平成27年度博物館「ふれあい体験室」専属ボランティア養成講座修了者に対する

登録前の条件確認 チェックシート

6時間にわたるボランティア養成講座の受講、お疲れ様でした。この講座で

- ① 博物館について ② 博物館ボランティアの活動の概要 ③ ふれあい体験室の役目と位置づけが、大まかにでも、とらえる（考える）ことができたでしょうか。

◆ 登録の条件について（館が求めるボランティアへのご理解）



養成講座受講後、登録をおこない、館でのボランティア活動を開始して頂きますが、相互（館と登録者）の共通理解のもと、登録後の活動が円滑におこなわれるために、以下のことから（ボランティア登録の条件）をご確認いただきたいと思います。

チェック（確認）していただく文章は、「博物館ボランティアのてびき -2015年度版-」に示した内容を、チェックシート用書き換えたものです。

本趣旨をご理解の上、確認をお願いします。

※裏面をご確認下さい。

ふれあい体験室 専属ボランティア登録に向けて **チェックシート**

館が求めるボランティアへのご理解と確認のために

氏名

*「ふれあい体験室」におけるボランティアのてびき＝以下 てびき

*ふれあい体験室ボランティア活動＝以下 ボランティア活動

*不明な点は“てびき”を参照してください

- てびきに示す、“内容と目的”を理解したボランティア活動をめざします。
- てびきに示す、“運営の方針”を考えたボランティア活動をめざします。
- てびきに示す、“活動内容”に取り組みます。

当てはまる 当てはまらない

- 1. 土・日・祝日のなかで、月に2回以上の活動が可能です。
- 2. 1回で3時間程度の活動をめざします。
- 3. 館の定める遵守事項を守るよう努めます。

— 意見や要望 —

〈平成 27 年度〉沖縄県立博物館・美術館博物館ふれあい体験室専属ボランティア登録申請書〈1 年更新〉

①～⑭までもれなく記入して下さい。

登録申請日 2015 年 月 日

	ふりがな			
①	氏名			
②	会員番号			
③	職業*(現役者のみ)			
④	生年月日	19()年/昭和()年()月()日		
	ふりがな			
⑤	住所	〒		
⑥	連絡先 自宅		携 帯	
	*職場(現役者のみ)		メ ー ル	

*写 真

現在登録中の画像を
変更したい方は、
申し出て下さい。

⇒当てはまる□に を入れて下さい。

⑦	健康状態	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 体調にムラがある		
	*複数可	<input type="checkbox"/> 通院している <input type="checkbox"/> 他()		
⑧	来館手段	<input type="checkbox"/> 徒歩	<input type="checkbox"/> 自家用車	<input type="checkbox"/> タクシー
	*複数回答可	<input type="checkbox"/> バス	<input type="checkbox"/> モノレール	<input type="checkbox"/> 他()
⑨	館までの 所要時間	およそ()分		
⑩	職 歴			
	年 月			
⑪	免許・資格			

↓裏面も記入

○提出先＝博物館教育普及へ

○提出前に各自で控えをお取り下さい

⑫ 活動曜日 と 所属曜日	<p>※網掛け部分は、記入不要。</p> <p>活動可能な曜日 <u>※活動は、所属曜日班に選ばれません。複数回答可。</u></p> <p><input type="checkbox"/>火曜 <input type="checkbox"/>水曜 <input type="checkbox"/>木曜 <input type="checkbox"/>金曜 <input type="checkbox"/>土曜 <input type="checkbox"/>日曜 <input type="checkbox"/>祝日</p>
	<p>希望する所属曜日班＝（ ）曜日班＝(情報や連絡を共有します)</p> <p>※必ずいずれかの曜日班に属し、毎月の曜日班会議に出席ください。</p> <p>※希望者は、土・日いずれかの班へ加入も可能。</p>
⑬ 活動可能な時間帯	<p>() 時ごろ～ () 時ごろ</p> <p>理由があれば ()</p>

⇒当てはまる□に を入れて下さい。

⑭ 活動してみたい内容 ※複数回答可

※自分の能力を活かし(できる・やってみたい)、希望する内容(分野)で活動する!

民具体験サポート (小3 社会科 6月～2月)

誘導ボランティア (小・中・高・特別支援諸学校 4月～3月)

展示解説ガイド (小・中・高・特別支援諸学校の各教科の学習に対応 4月～3月)

例) 先生の要望に応じた解説、離島等の小規模校対応、ジブンボックスの配置など

資料整理活動 (4月～3月) *新聞スクラップ, 発送手伝い, ボランティア室の整美など

ふれあい体験室の支援 (4月～3月)

体験学習教室の支援 (年数回)

一般来館者向け—展示解説ガイド

曜日班世話係 * 曜日班会議の中で協議して下さい

曜日班(副)世話係 * " (連絡等, 世話係りを補佐します)

他——提案する活動があれば ()



★要望や意見がありましたらご記入下さい。

↓裏面も記入

○提出先＝博物館教育普及へ

○提出前に各自で控えをお取り下さい

〈平成 27 年度〉 沖縄県立博物館・美術館 博物館ボランティア登録申請書〈1 年更新〉

①～⑭までもれなく記入して下さい。

登録申請日 2015 年 月 日

	ふりがな			*写 真 現在登録中の画像を 変更したい方は、 申し出て下さい。
①	氏 名			
②	会 員 番 号			
③	職業*(現役者のみ)			
④	生 年 月 日	19()年/昭和()年()月()日		
	ふりがな			
⑤	住 所	〒		
⑥	連絡先 自宅		携 帯	
	*職場(現役者のみ)		メ ー ル	

⇒当てはまる□に を入れて下さい。

⑦	健康状態	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 体調にムラがある <input type="checkbox"/> 通院している <input type="checkbox"/> 他()		
	*複数可			
⑧	来館手段	<input type="checkbox"/> 徒歩 <input type="checkbox"/> 自家用車 <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> モノレール <input type="checkbox"/> 他()		
	*複数回答可			
⑨	館までの 所要時間	およそ()分		
⑩	職 歴			
	年 月			
⑪	免許・資格			

↓裏面も記入

○提出先＝博物館教育普及へ

○提出前に各自で控えをお取り下さい

⑫活動曜日 と 所属曜日	活動可能な曜日 複数回答可 <u>*活動は、所属曜日班にしばらくられません。</u> <input type="checkbox"/> 火曜 <input type="checkbox"/> 水曜 <input type="checkbox"/> 木曜 <input type="checkbox"/> 金曜 <input type="checkbox"/> 土曜 <input type="checkbox"/> 日曜
	希望する所属曜日班＝（ ）曜日班＝(情報や連絡を共有します) *必ずいずれかの曜日班に属し、毎月の曜日班会議に出席ください。
⑬活動可能な時間帯	() 時ごろ～() 時ごろ 理由があれば ()

⑭ 活動してみたい内容 (当てはまる□1～10に を入れて下さい。複数回答可)
***自分の能力を活かし(できる・やってみたい)、希望する内容(分野)で活動する。**

1 [学校団体] **展示解説ガイド** (小・中・高・特別支援諸学校の各教科の学習に対応 4月～3月)
 ①離島等の小規模校対応 ②先生の要望に応じた解説

2 [一般来観者対象] **総合展示部門解説ガイド**

★小学校3年社会科民具体験学習 (6月～2月)
 (※活動の募集は ボランティア室に掲示する“チラシ”で呼びかけます。)

3 民具解説 B

4 民具体験サポート C

5 民具体験学習での展示解説 D

6 誘導ボランティア (小・中・高・特別支援諸学校の各教科の学習に対応 4月～3月)

7 ふれあい体験室の支援 (4月～3月)
 (※ボランティア室内の 木付ボードへ 各自で名前「マグネット版氏名」を表示します。)

8 体験学習教室の支援 (博物館・美術館行事案内パンフレット参照)

9 **資料整理活動** (4月～3月) *新聞スクラップ, 発送手伝い, ボランティア室の整美等

*10 **他**—提案する活動があれば ()

曜日班(正・副)世話係 **勉強会(正・副)世話係** *会で協議して下さい。

★要望や意見がありましたらご記入下さい。



↓裏面も記入

○提出先＝博物館教育普及へ

○提出前に各自で控えをお取り下さい

平成27年度博物館ボランティア 登録証交付式

1 趣旨

- ・博物館ボランティアの継続にあたり、運営面で更改された事項を確認する。
- ・博物館登録証を交付し、今後の活動の予定等を連絡し活動を促す。

2 日時

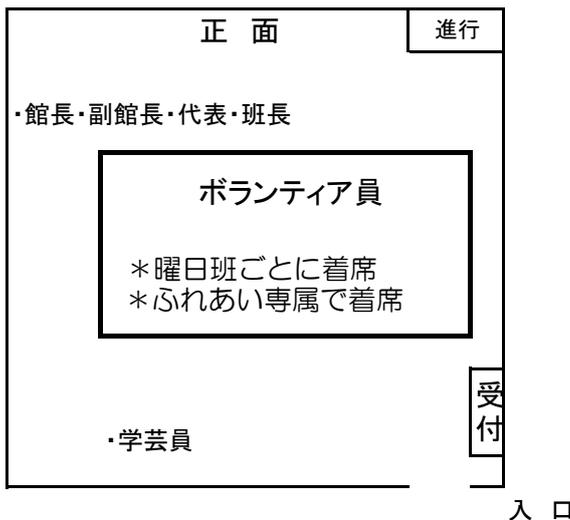
平成27年4月24日(金) 14時00分～14時25分

3 場所

博物館 講座室

4 参加者

博物館館長、副館長、文化の杜代表
博物館班長、博物館各学芸員
(継続)ボランティア員



5 式順

進行：比嘉 香織

- | | |
|---------------------|------------|
| (1) 登録証 交付 | 安里 進 館長 |
| (2) 館長あいさつ | 安里 進 館長 |
| (3) 学芸員(博物館職員)紹介 | 園原 謙 博物館班長 |
| (4) 文化の杜共同企業体代表あいさつ | 赤嶺 昌樹 統括 |
| (5) 文化の杜職員紹介 | 赤嶺 昌樹 統括 |

登録証交付式終了後 ボランティア員全体会 14時25分～16時

参加対象者：教育普及担当、ボランティア員

進行：比嘉 香織

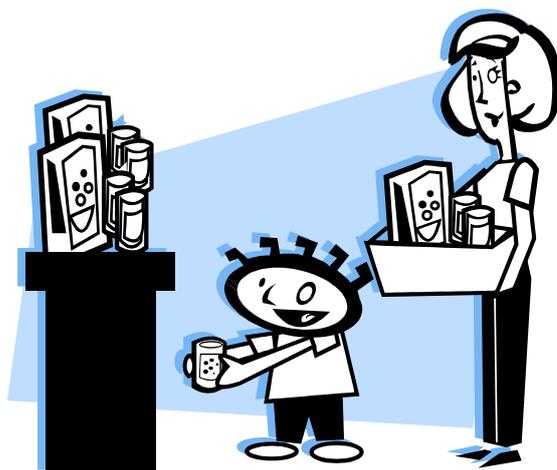
- 1 IPM(Integrated Pest Management)について14:25～14:45 (20分) 大湾 ゆかり(博物館主任学芸員)
- 2 本年度のボランティア活動について 14:45～15:00 (15分) 金城 久枝(博物館教育普及担当)
○博物館『ボランティアのてびき』確認等
- 3 質疑応答 (5分)
- 4 曜日班別グループ ミーティング(20分) 15:10～
(自己紹介、世話係選任、年間活動計画案など)
- 5 各曜日班発表(18分)
- 6 勉強会からの報告(10分)
- 7 事務連絡(1分)

平成27年度（2015年度版）

博物館ボランティアのてびき

ボランティア活動テーマ

来館者がよろこぶ博物館に！



沖縄県立博物館・美術館
博物館ボランティア

1 目的

沖縄県立博物館は、県民の自己啓発や学習の場の提供、また、博物館支援活動を目的として、「ボランティア」を導入します。この活動は、多様化する来館者のニーズに対して、よりきめ細かく適切なサービスへの寄与を目的としています。

2 活動の方針

- (1) 生涯学習の視点から、ボランティアがいつでも参加できる環境作りをすすめます。
- (2) ボランティアの自己啓発を促し、活動を通して無理なく楽しく学べる場にします。
- (3) 来館者を発見へと向わせるような発問の研究を行います。
- (4) ボランティアの自立的な活動を導き、意欲的に参加できる方向をめざします。

3 ボランティアの活動内容

(1) ボランティアの種類

◇博物館ボランティア ◆ふれあい体験室専属ボランティア

(2) 活動の種類

◇博物館ボランティア

- ・展示解説ガイド ・体験学習サポート ・資料整理活動 ・その他
- ・総合展示部門解説ガイドボランティア

◆ふれあい体験室専属ボランティア

ふれあい体験室支援 ⇒ 土・日・祝日における活動

(3) 活動の内容

①展示解説ガイド

ア 学校団体向け常設展示解説補助（主に学習プログラム対応）

総合展示部門・各部門展示解説補助

イ 総合展示部門解説ガイドボランティア（学校団体/一般来館者）

「総合展示部門」における展示解説

②体験学習サポート

ア 学校団体対応

誘導、民具体験学習の支援

イ ふれあい体験室支援

ふれあい体験室における活動支援

ウ 体験学習教室支援

体験学習・各種講座・移動博物館等における補助

エ 各種行事の際の補助

③資料整理活動

新聞スクラップ整理

④その他

ボランティア間の連絡・各種刊行物の発送業務・文化の杜（指定管理者）主催催事支援

ふれあい体験室 I P M 清掃 ※原則：毎月第4月曜日 13：20～

(4) 活動の種類、場所、人員の配置数等

	活動の種類	場所	内容 と ボランティア配置数	指定管理者担当
①	常設展示対応	常設展示室	サポート=数名	1人
②	学校団体対応	常設展示室 ふれあい体験室 民家・実習室	展示解説ガイド 体験学習サポート=数名	1～2人
③	体験学習教室	民家・実習室	サポート=数名	1～2人+外部講師
④	(県)特別・企画展	特別・企画展示室	サポート=数名	なし

(5) 運営体制

〔ボランティアの構成〕

- ① ボランティアは、博物館ボランティアとふれあい体験室専属ボランティアから成ります。
- ② ボランティアは、博物館養成講座(P.5の8(1)参照)履修のボランティアとします。

〔活動日・曜日班〕

- ① 博物館ボランティアは自身の希望する曜日に、希望する種類の活動をします。
※月曜日が祝日で開館する場合は、ふれあい体験室専属ボランティアを中心にふれあい体験室の支援活動を行います。
- ② 博物館ボランティアは、曜日班に所属し、月1回の定例会で、活動情報を共有します。
- ③ 曜日班の中に、正副世話係をおきます。曜日班の世話係は、活動の連絡を行います。

〔分野別勉強会〕

- ① 博物館ボランティアは、各分野別勉強会に参加することができます。
- ② 各分野別勉強会に正副の世話係をおきます。分野別勉強会の世話係は活動の連絡を行います。

〔連絡会〕

- ① 博物館担当者、分野及び曜日の世話係、文化の杜、友の会によるボランティア連絡会を月1回開催します。※原則第3火曜日 15:00～

(6) 経費

- ① 博物館は、ボランティアの活動に際する事故などに備え、ボランティア保険に加入します。
※保険は毎年3月に更新、保険期間は1年とします。
- ② 博物館は、ボランティア活動に必要な名札を購入し、貸与します。
※破損・紛失した場合は、博物館教育普及担当者及び文化の杜担当者までお申し出下さい。

(7) 活動日、時間、回数

- ① 活動は原則的に博物館の開館日とします。
- ② 活動時間は、1回で3時間程度とします。※場合によっては考慮します。
- ③ 活動回数は、月に2回以上とします。

(8) 遵守事項

- ① 博物館の諸規則に従って下さい。
- ② 博物館の展示方針に従って説明等を行って下さい。
- ③ 博物館内での政治活動、宗教活動は行わないで下さい。
- ④ 博物館の名誉を傷つける等の行為は行わないで下さい。

(9) 活動中の事故

- ① ボランティア活動中の傷害事故、偶然な事故によりボランティアがケガをした場合は、ボランティア保険の対象となります。
※館が認めるボランティア主催の館外勉強会等も含まれます。
- ② ボランティアの故意による事故、ボランティア活動外の事故については、原則としてボランティア自身がその責を負うことになります。

4 ボランティア活動の各組織

(1) 博物館教育普及

担 当	総 括	副担当
	◎ 金 城	比 嘉

(2) ボランティア担当の役割

- ① ボランティア登録に係る諸業務。
- ② ボランティア研修に係る企画、調整。
- ③ ボランティアの活動に関する企画、調整。

(3) 曜日班

曜日班は、ボランティア間の連絡（連絡網を作成する）や、館におけるボランティア活動の諸情報を収集する場であり、世話係を中心に自立的で協力的な運営をめざします。

- ① 博物館ボランティアは、必ずいずれかの曜日班に属し、毎月の定例の曜日班会議に出席します。
- ② ボランティアの活動を活性化させるために、曜日班に正副の世話係を置きます。（以下世話係）
- ③ 世話係は、曜日班内で選任されます。
- ④ 世話係は、毎月1回のボランティア連絡会に出席します。※原則第3火曜
- ⑤ 世話係は、ボランティア連絡会での情報を、曜日班会議の中で班員に伝えます。
※曜日班定例会は、ボランティア情報の共有と情報交換の場です。
- ⑥ 定例の曜日班会議は、世話係の進行でボランティア室で開催します。
- ⑦ 曜日班は月曜を除く、6つの班で編成します。

班	定例会	時間帯	班	定例会	時間帯
火曜日班	第 火曜	00:00～00:00	金曜日班	第 金曜	00:00～00:00
水曜日班	第1水曜	00:00～00:00	土曜日班	第 土曜	00:00～00:00
木曜日班	第 木曜	00:00～00:00	日曜日班	第 日曜	00:00～00:00

※ふれあい体験室専属ボランティア・・・希望者は土/日いずれかの班への加入も可能。

(4) 分野別勉強会

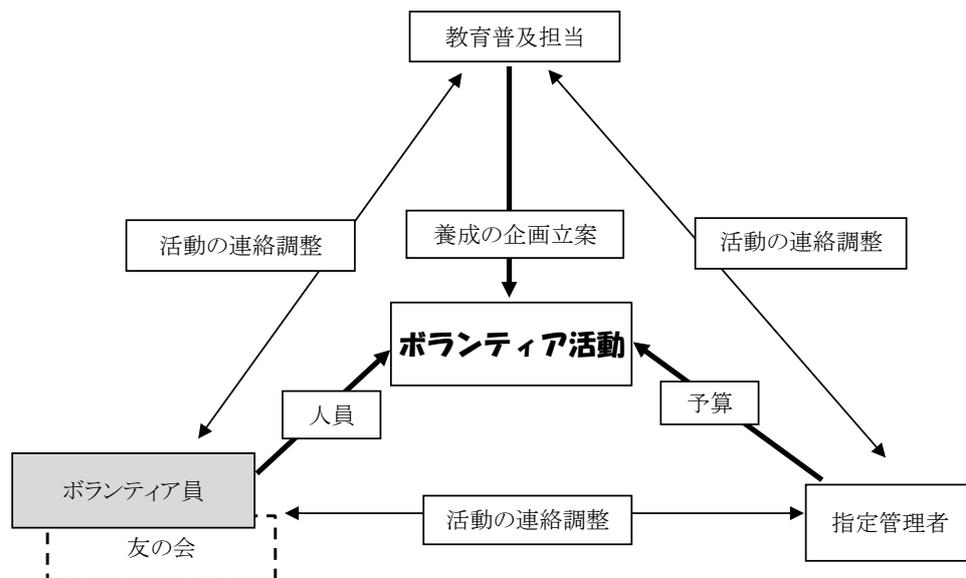
分野別勉強会は、ボランティアが自己研鑽として学習する場の提供と、継続したボランティア養成の補完的役割を担い、世話係を中心に自立的で協力的な運営をめざします。

- ① すべてのボランティア員（ふれあい体験室専属ボランティアを含む）は、分野別勉強会へ自由に参加でき、複数の勉強会への参加も可能です。
※活動は自立的で、協力的であること。勉強会参加を希望する者は、ボランティア室に掲示する参加者名簿に記名をおこない、勉強会への出席に責任をもつこと。
- ② ボランティアの活動を活性化させるため分野別勉強会に正副の世話係を置きます。（以下世話係）
- ③ 世話係は、勉強会内の選任で選出されます。
- ④ 世話係は、毎月1回のボランティア連絡会に出席します。※原則第3火曜
- ⑤ 世話係は各分野の学芸員と連携を取り、毎回の研修内容の調整や企画をおこないます。
※分野別勉強会は、ボランティアの自己研鑽の場であり、ボランティア養成の補完的役割を担います。
- ⑥ 分野別勉強会の世話係は、ボランティア室において、全ボランティアに研修計画を告知します。

分野	定例会	時間帯	分野	定例会	時間帯
人類学・自然史	第 土曜	00:00～00:00	美術工芸	第 土曜	00:00～00:00
歴史・考古	第 土曜	00:00～00:00	民俗	第 土曜	00:00～00:00

※開催日時は、諸事情で変更になることがあります

5 ボランティア組織図



※ボランティア活動は、自身の希望する活動の場であり、ボランティアの自立的な取り組みを目指します。

6 登 録

ボランティア登録は下記によりおこないます。

(1) 仮登録

「養成講座」終了後、応募者については資格要件及び適性を確認し、ボランティア名簿に仮登録します。

(2) 本登録

◇博物館ボランティア

「養成講座」受講者のうち、当館が定めるボランティア「専門講座」を修了した者で、館長の認定した者を本登録者とします。

◆ふれあい体験室専属ボランティア

ふれあい体験室専属ボランティア養成講座修了後、館長の認定した者を本登録とします。

○総合展示部門解説ガイドボランティア

総合展示部門解説ガイドボランティア養成講座修了後、館長の認定した者を本登録とします。

(3) 登録の更新

登録の活動期間は1年とします。但し、P.2の(7)活動、時間、回数(8)遵守事項に示す活動の条件を満たし、継続を希望する者は、更新することができます。

※館の定めた各種研修会並びに全体会等へ不参加（連絡なしの欠席）の者、P.2の(6)(7)に示す活動の条件を満たしていない者は、館指定の更新研修受講後に登録更新を行うものとします。

(4) 申請時の提出

次年度、博物館ボランティア活動、ふれあい体験室専属ボランティア活動の継続を希望する者は、指定の申請書に必要事項を記入し、申請の手続きを行います。

(5) 登録証

① 登録者には登録証を交付します。活動時は常に身に付けてください。

② ボランティアの継続が出来なくなった際には、登録証は返却するものとします。

(6) 登録の抹消

登録期間中であってもボランティアの資格要件に欠格を生じた場合、また、ボランティアとしてふさわしくない行動があった場合は、登録を抹消することがあります。

7 活動の評価

ボランティア活動の評価は、活動の目標に照らし、博物館側及びボランティアがその機能をどの程度に果たしているかを客観的基準により判断し、それに基づいてボランティア活動改善計画の作成に資することを目的とします。

※評価様式は別に作成する。

活動の評価基準

- ① 国際的交流に対応し、県民の自己啓発や学習の場を提供できたか。
- ② 人にやさしく、親しまれる施設を目指し、県民参画の橋渡しとして活動できたか。
- ③ 多様化するニーズに対応し、きめ細かく適切なサービスに寄与できたか。
- ④ 自主的に活動し、生涯学習の実践の場としての役割を担えたか。
- ⑤ 月に2回以上（1回3時間程度）の活動ができたか。

※P. 6の(4)に示す、活動記録簿の記録に基づき、達成状況を判断します。

8 その他

(1) 研修プログラム

◇博物館ボランティア

- ① 養成講座…1日2時間で5日間（講義）＋1日2時間で2日間（実習） **合計約14時間**
例：（副）館長講話、沖縄の歴史・文化の講座、沖縄の自然等についての講座、実地研修など
- ② 専門講座…1日2時間で7日間（講義と実習） **合計約14時間**
例：博物館学習ノート紹介、ふれあい体験室（体験キットの解説）、発問の研究など
- ③ 更新研修…1日2時間で2日間 **合計4時間**
- ④ 臨時研修…必要に応じて随時実習
例：企画展の解説、スキルアップ研修、体験学習教室の事前勉強会など

◆「ふれあい体験室」専属ボランティア

- ① 養成講座…1日2時間（講義）＋2日4時間（実習） **合計約6時間**
- ② 更新研修…レポート提出（例：ボランティア活動の復習等）
- ③ 臨時研修…スキルアップ研修等

○総合展示部門解説ガイドボランティア

- ① 養成講座…1日3時間で3日間（講義） **合計約9時間**
例：館長講話、ガイド心得、沖縄の歴史・文化等の講座、沖縄の自然等の講座、実地研修など
- ② 実践研修…1日2時間で2日間（演習） **合計約4時間**
例：総合展示部門での実践形式演習
- ③ 更新研修…1日2時間で2日間 **合計4時間**
- ④ 臨時研修…必要に応じて随時実習

(2) ボランティア活動時の服装等について

- ① ボランティアとして正式に登録された者には、ボランティア身分証明書として、ボランティア登録証を交付します。
- ② ボランティア活動を行う場合は、安全性と機能性を考え、ボランティア活動にふさわしい服装とします。
- ③ ボランティア登録証を常に身につけるものとします。

※博物館ボランティア登録証・・・水色 ふれあい体験室専属ボランティア登録証・・・緑色
ストラップ・・・緑色

(3) ボランティア室の使用について

- ① ボランティア室については、博物館教育普及担当の許可を得て使用できます。
- ② ボランティア室は、原則としてボランティア活動のために以下のような活動で使用します。
 - ア P.1の3(2)～(5)に示す活動に関する使用
 - イ 日程、連絡等のボランティア活動の掲示
 - ウ ボランティア活動のための用具類の保管及び使用
 - エ 来館者を発見へと向わせるような発問の研究
 - オ ボランティア活動のための休憩
- ③ ボランティア室には勝手に私物をもちこまないで下さい。
※個人の持ち物は、自己の責任で管理して下さい。
- ④ ボランティア室の使用時間は原則として、館の開館日の開館時間から閉館時間までとします。
- ⑤ ボランティア室は原則として使用した者が片づけ（整備・清掃）をするものとします。

(4) ボランティア活動記録簿の記入について

- ① 活動終了後ボランティアは、ボランティア室にある活動記録簿に、活動の記録をおこないます。
- ② 分野別勉強会への参加は“ボランティア活動の評価基準”にそぐわないため活動記録簿には記入できません。
※各勉強会のボランティアの参加状況は、各勉強会の世話係が記録（名簿管理や出席状況等）をおこない、12月にまとめて、博物館教育普及担当へ提出します（全体会にて勉強会参加者名簿配布）。
- ③ 「その他」の欄は、P.1の(3)④その他など、館が臨時召集した内容等を記録します。
- ④ 「会議」の欄は、館が主催する会議への参加を記録します（全体会、曜日班定例会、ボランティア連絡会など）。
- ⑤ P.2の(7)②に示す1回の活動時間の目安は3時間とします。
- ⑥ 1日で6時間以上の活動をおこなった場合。
例：午前＝学校対応3時間、午後＝ふれあい体験室支援3時間、出席簿の記入は、2カ所の記入を認めます。
※但し、短時間で2カ所の活動を実施してのカウントは認めない（例：1.5時間×2カ所）
- ⑦ 都合により館でのボランティア活動が不可能になる場合、博物館教育普及担当へ活動休止の理由の電話連絡を入れるとともに、活動記録簿にも活動休止のメモを記入します。
(例：7/5～8/31まで活動休止します。)

(5) 欠席時の連絡について

活動当日、都合で来館が不可能になった場合、登録証の裏面に示す番号へ連絡を入れて下さい。

- ①博物館教育普及（金城、比嘉） TEL 098-851-5401（内線253）
- ②文化の杜教育普及（大瀨、亘保、渡部） TEL 098-941-8200
内線151（大瀨、亘保） 155・220（渡部）
- ③友の会事務所（福嶺、野里） TEL 098-868-2722（内線113）

※曜日班ならびに勉強会の問い合わせについては、各世話係りへお願いします。

(6) 台風時の対応

台風時の活動は、館の開館状況に準じます。

- ①午前7時現在、暴風警報（以下「警報」）が発令されているときは、午前中閉館とします。
- ②正午時現在、警報が発令されている場合は午後も休館とします。
- ③開館中に警報が発令された場合は、直ちに休館とします。

※安全面が確認された時のみ、来館をお願いします。

～ 教 育 書 及 ～

●平成27年度 博物館ボランティア・ふれあい体験室専属ボランティア登録

平成27年度ボランティア登録申請者は、博物館ボランティア61名、ふれあい体験室専属ボランティア6名の合計67名になりました。8名の方が様々な理由によりボランティア活動を卒業されることとなりました。これまで博物館活動にご尽力いただきました心より感謝申し上げます。平成27年度継続で登録されたボランティアの皆様、新年度もよろしくお願ひいたします。

●平成27年度 春季ボランティア全体会・ボランティア登録証交付式のお知らせ

下記の日程で春季ボランティア全体会およびボランティア登録証交付式を行います。全ボランティア参加となりますので、よろしくお願ひいたします。

○日 時：4月24日(金) 14:00～16:00
 ○場 所：博物館講座室(1F)
 ○参加対象：博物館ボランティア・ふれあい体験室専属ボランティア
 ※当日はH26年度ボランティア登録証を受付にてご返却ください。

●ふれあい体験室清掃ボランティア募集： 4月27日(月) 13:20～

●ふれあい体験室が変わりました！

Before



After



H27年度もふれあい体験室支援よろしくお願ひします

～ 文化の社 ～

前回は、「ゆらぎ」について長文で挑んだところ、多くのボランティアさんよりご感想をいただきました。続きとして今回は、「テイクホームメッセージ」についてお話しします。

「テイクホームメッセージ」とは、その名の通り「家に持ち帰ってもらう情報」を指します。そのどこが大事な？と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、これを想像している人と同じ人では、発問の仕方が変わってきます。研修会では、展示に関連した体験教室やキット開発を行う場合、参加者の立場に立ち参加者が何を感ず、何を考え、理解してもらえかが、仕掛けづくりのポイントとなることを学びました。例えば、ふれあい体験室にあるキットの一つ「No.13 石で築く」を例に挙げると、グスクの石積みの特徴と意味、先人の工夫を伝えることを目的としているので、私の場合、「石の形が少し違うね。どうしてだろう？」や「組み立てている中で何か感じることはあるかな？一体どうやって作ったのだろうね。」と発問します。どんな回答が出るかはわかりませんが、利用者が目的に沿った目線で体験できるような発問を促すことで、体験した利用者は帰宅後、家族や友人にその時に発見したことについて興奮した面持ちで伝えるのだろうなあと想像します。

このように利用者の立場に立ち、ふれあい体験室や解説ガイドにおいて私たちが情報を与え続けるのではなく、「テイクホームメッセージ」を自身の中で密かに用意しお客様へ発問すると、利用者にとっては発見！となり、心に残る体験に繋がります。また、心に残る体験に関して印象深いお話もありました。博物館を利用したお客様の記憶には、そこで出会った人とのやりとりが鮮明に残っているという調査結果があるそうです。例えば、旅行に置き換えると、旅先で見た名所よりもそこで体験したハブニングや出会った人々の方が鮮明に覚えていることがありますよね(笑) その視点で考えると、お客様にとっても記憶に残る博物館での思い出の1つに、私たちとのコミュニケーションが関係してくるということです。すっかり長くりましたが、最後まで読んでくださりありがとうございます。

文化の社 大濱萌子

◆～◆ 4月の勉強会(詳細は掲示板をご確認ください) ◆～◆

※民俗・歴史・美工・自然勉強会・未定(日時・内容：掲示板をご確認ください)

- ◆参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。
- ◆内容が変更する場合がありますので、事前にご確認ください。

発行日：2015年4月25日 発行：沖繩博物館友の会 電：098-868-2722

●平成27年度 博物館班メンバー紹介♪ ～ 教育普及 ～

副館長	むらやま つよし 村山 剛	まきき 祐樹	歴史	いしがき 石垣 忍
班 長	そのはら けん 園原 謙	やまざき しんじ 山崎 真治	歴史	さきばら きょうこ 崎原 恭子
教育普及	きんじょう ひさえ 金城 久枝	なかせし たけし 中里 健	美術工芸	よなみね いちこ 與那嶺 一子
普及補助	ひが かわり 比嘉 香織	やまざき じんや 山崎 仁也	美術工芸	ほかま かずゆき 外間 一先
		おおむら ちあき 大湾 千亜紀	学芸補助	さきぐさ だいご 三枝 大悟

●ふれあい体験室清掃ボランティア募集：5月25日(月)18:20～

新年度を迎え、実習準備室に入ると、つい最近まで、限られた時間内に分かりやすく解説するには、連日使用していた民具達が休んでいる姿を目にします。彼ら(?)は昨年、総勢35校3,474人の児童・生徒たちの民具体験をサポートしてくれました。一緒に朝早くから対応して下さったボランティアの皆さん、本当にありがとうございました！

今年度も皆さんの熱意をお借りして、博物館を盛り上げていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。(恒保)



◆～◆ 5月の勉強会(詳細は掲示板をご確認下さい) ◆～◆

※民俗勉強会・・・5月2日(土)10:00～12:00 3階(内容:お墓いろいろ)

※歴史勉強会・・・5月9日(土)9:00～12:00(内容:館外研修 浦添城周辺)

※美工勉強会・・・未定(日時・内容:掲示板をご確認下さい)

※自然勉強会・・・5月8日(金)10:00～12:00(内容:ウイルスのおはなし)

◆参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。◆

◆内容が変更する場合がありますので、事前にご確認下さい。◆

発行日：2015年5月25日 発行：沖繩博物館友の会 電：098-868-2722

●平成27年度 ふれあい体験室専属ボランティア養成講座スタート!!

今年度、ふれあい体験室専属ボランティア(土・日・祝祭日活動)募集に15名の申込みがありました。5月16日(土)の開講式には、皆さん緊張の面持ちで参加されていました。講座は全3回です。講座修了日の6月13日(土)にはボランティア登録証が交付され、ふれあい体験室専属ボランティアとしての活動が始まります。



開講式の様子

先輩ボランティアの皆さん! どうぞ温かい目で見守ってあげてくださいね♪

●ふれあい体験室専属ボランティアへのお知らせ

平成27年度ふれあい体験室専属ボランティア養成講座第3回にて、新田ふれあい体験室ボランティアの顔合わせを下記の日程で行います。ふれあい体験室専属ボランティアの皆様全員の参加となりますので、よろしくお願致します。

日 時：平成27年6月13日(土)15:00～15:45
場 所：博物館実習室(1階)
対 象：ふれあい体験室専属ボランティア

●ボランティア参加ご協力をお願い ※募集用紙をボランティア室へ掲示します!!

募集日時	募集内容	募集人数
6月29日(月) 13:30～15:00	ふれあい体験室養生(燻蒸前作業)	6名程度
7月7日(火) 13:30～15:00	ふれあい体験室回復(燻蒸後作業)	6名程度

～裏面もあります～

～ 文化の社 ～

琉球大学の留学生クラスで「沖縄事情」という科目を履修する52人の学生が、6月に常設展示室のため来館します。

先生の依頼で、その際、ふれあい体験室ワークショップのハブグループづくりを体験してもらうことになりました。留学生は、中国、台湾、韓国、フィリピン、タイ、インドネシア、インドなどのアジア圏の学生が半数と、アメリカ、ペルー、ドイツ、フランス、スペイン、ウクライナ、ベラルーシなど、世界中の国々から集まり、沖縄の文化を学んでいます。

当日、サポーターしていただける方は、ボランティア室の掲示物にご記名をよろしくお願ひします。(渡部 貴子)

◆～◆ 6月の勉強会 (詳細は掲示版をご確認下さい) ～◆◆

- ※民俗勉強会・・・6月6日(土) 10:00～12:00 3階
(内容：お墓に関する展示資料について・ガイドマニュアルの検討)
- ※歴史勉強会・・・6月13日(土) 10:00～12:00
(内容：シュガーローフについて・・・勉強会の後、現地へ)
* 事前にご確認下さい。
- ※美工勉強会・・・6月27日(土) 10:00～12:00 (内容：学芸員による展示説明会)
- ※自然勉強会・・・未定(日時・内容：掲示版をご確認下さい)

◆参加希望者は、掲示版に名前の記入をお願いします。
◆内容が変更する場合がありますので、事前にご確認下さい。

～ 教育普及 ～

●平成27年度 ふれあい体験室専属ボランティア養成講座修了&本登録！！

5月16日(土)から開講した、ふれあい体験室専属ボランティア養成講座が6月13日(土)に無事修了致しました。3回目の講座では、新旧のふれあい体験室ボランティアの顔合わせを行いました。今年度は13名の方が養成講座を修了し、安里館長より登録証が交付されました。これから早速、ふれあい体験室専属ボランティアとしての活動が始まります！初々しい新人メンバーの姿を見かけた際は、先輩ボランティアさんの温かい声掛け宜しくお願いします♪



ふれあい体験室での実習



新旧ボランティアの顔合わせ



登録証交付と閉講式

●ボランティア参加ご協力のお願ひ ※募集用紙をボランティア室へ掲示します！！

募集日時	募集内容	募集人数
6月29日(月) 13:30～15:00	ふれあい体験室養生(燻蒸前作業)	6名程度
7月7日(火) 13:30～15:00	ふれあい体験室回復(燻蒸後作業)	6名程度
7/25(土)・26(日)・8/22(土) 9:00～12:00	◆体験学習教室『昆虫標本づくり』 (3回連続講座) →参加者の安全管理、補助 など	各回5名程度 ※詳細掲示予定
7/28(火)～31(金) 10:00～14:30	◆夏休み！学芸員教室(10教室開講予定) →各教室の活動、製作補助 など	各教室 ※詳細掲示予定

～ 教育普及 ～

いよいよ夏休みです。今年の夏休み期間中は、体験学習教室の『昆虫標本づくり』を皮きりに、『夏休み！博物館学芸員教室』と子ども向けの催事が続きます。『海底二万里の世界』『大哺乳類展』とイベントも目白押しとなっております。

これらのイベントにあわせ、夏休み期間中はふれあい体験室にも多くの来館が見込まれます。ボランティアの皆さんもお忙しいとは思いますが、平日・週末のふれあい体験室ボランティアへのご協力宜しくお願い致します。

●総合展示部門解説ガイドボランティア＜ジンプンボックス＞について
今回、夏休み期間のジンプンボックス対応日についてお知らせ致します。

夏休み期間<7/21(火)～8/31(月)>のジンプンボックス対応日
《通常》水・金・日 (週 3 日対応)
↓
《7/21(火)～8/31(月) 夏休み期間のみ》火・水・金・日 (週 4 日対応)

●ふれあい体験室定期清掃ボランティア募集＜毎月第 4 月曜日実施予定＞
→8 月 24 日(月) 18：30～15：00 <募集人数：3 名程度>

●ふれあい体験室燻蒸前・燻蒸後作業について
当館の燻蒸に伴い、6/29(月)と 7/7(火)にふれあい体験室の燻蒸前・燻蒸後作業を行いました。ご協力ありがとうございました！(写真：燻蒸前作業の様子)



～裏面もあります～

～裏面もあります～

～ 文化の社 ～

今年もあっという間に半年が過ぎ、梅雨が明け、暑い夏がやってきてきました。

夏がやってきたということは…そうです、子供たちにとっては待ちに待った夏休みが始まります。今年も博物館・美術館では、「子供たちに博物館を好きになってもらおう！博物館で学ぶ楽しさを伝えよう！」と、各担当学芸員が様々な講座を企画しています。毎年恒例ではありますが、ボランティアの皆さんには、子供達に楽しい時間を過ごしてもらえるように、安全管理を中心としたサポート＋参加者が安心して取り組めるようなちよつとした声援など、ご支援いただきたく思います。毎年同じ内容の講座でも、役者となる参加者が異なると、サポートをする側にとっても新しい発見があるかもしれません。私たちと一緒に、素敵な夏の思い出を作りますよう～♪宜しくお願いします。(大濱萌子)

◆～◆ 7 月の勉強会 (詳細は掲示版をご確認下さい) ～◆◆

※民俗勉強会・・・7 月 2 日 (木) 9：00～15：00 海中道路周辺

(内容：海中道路周辺でアダン葉採集)

* 集合時間等、事前にご確認下さい。

※歴史勉強会・・・7 月 11 日 (土) 10：00～12：00

* 内容：掲示版をご確認下さい

※美工勉強会・・・7 月 25 日 (土) 10：00～12：00

(内容：「糸をつくってみよう」夏休み博物館学芸員教室 事前学習会)

※自然勉強会・・・未定 (日時・内容：掲示版をご確認下さい)

◆ 参加希望者は、掲示版に名前の記入をお願いいたします。

◆ 内容が変更する場合がありますので、事前にご確認下さい。

発行日：2015年8月25日 発行：沖繩博物館友の会 電話：098-868-2722

～ 教育普及 ～

●ご協力ありがとうございました！

夏休み！学芸員教室をはじめ体験学習教室、ふれあい体験室の支援、総合展示部門解説ガイド(ジンプンボックス対応)等、夏休み期間中の活動支援心より感謝申し上げます。
ご協力ありがとうございました！

●H27年度 民具体験学習が始まりました！！

夏休み期間に入り、連日多くの学校から民具体験学習(学習プログラム)の申込みが入ってきています。主な申込み学年は小学3年生で、8月15日現在22校の申込みがあります。

各校の観覧日一覧表をボランティア室に掲示してありますので、ボランティアの皆さん、民具体験学習(学習プログラム)へのご協力宜しくお願い致します！

●9・10月の学校団体見学(民具体験)

※募集用紙はボランティア室に随時掲示します！

① 9月15日(火)	9:30-11:35	小嶺南小 (4名/7名:116名)
② 9月25日(金)	9:30-12:00	玉城小 (2名/7名:58名)
③ 10月20日(火)	9:30-11:35	兼城小 (4名/7名:110名)
④ 10月22日(木)	10:00-11:30	具志頭小 (2名/7名:52名)
⑤ 10月27日(火)	9:30-11:35	城南小 (3名/7名:74名)
⑥ 10月28日(水)	9:30-11:35	西原南小 (2名/7名:62名)
⑦ 10月30日(金)	9:30-12:00	石城小 (4名/7名:126名)

●ふれあい体験室定期清掃ボランティア募集(毎月第4月曜日実施予定)

→9月28日(月) 18:30~15:00 <募集人数:8名程度>

～ 文化の社 ～

去った7/28(火)～31(金)の4日間、「夏休み！ きました。ご協力頂き、ありがとうございました！博物館学芸員教室 2015」が開催しました。これは 「これで一息…」とつきたいところですが、夏休み小・中学生を対象に、博物館学芸員10人がそれぞれ みが明けた9月からは民具体験や総合展示ガイド等担当分野に関する教室を行うもので、全 団体が対応シーズンが到来します。民具体験は昨年より早いスタートで、最初の学校は9/15(火)となっており、428人の応募がありました。 団体数162人に対し、ボランティアさんのおかげで、事故もなくスムーズに全日程を行うことができ、ご確認・ご支援をお願い致します。(巨保)

◆◆◆ 9月の勉強会 (詳細は掲示板をご確認ください) ◆◆◆

- ※民俗勉強会・・・9月5日(土) 10:00~12:00
(内容: 銘苅古墓群と伊是名殿内の墓の見学会)
- ※歴史勉強会・・・9月12日(土) 10:00~12:00 3階研修室
(内容: ジョン万次郎について)
- ※木工勉強会・・・未定(日時・内容: 掲示板をご確認ください)
- ※自然勉強会・・・未定(日時・内容: 掲示板をご確認ください)

◆参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。
◆内容が変更する場合がありますので、事前にご確認下さい。

～ 文化の社 ～

当館では、子どもたちに大人気の企画展「大哺乳類展」と「海底2万マイルの世界展」が幕を開けました。ふれあい体験室も夏休み期間中の子どもたちで大賑わいです。週末は入場制限を行うほどのお客様が訪れています。夏休みを博物館で楽しく、安全に過ごしていただければ幸いです。ふれあい体験室の運営にご協力をお願いします。

毎週土曜日のワークショップ7・8・9月は新たに、「ふれあい博士の光合成ペンダント」を開催中です。体験キットNo.7「いろいろな木と草」から、「植物が成長するための栄養について考えてみよう」へ発展

☆☆☆☆ お知らせ ☆☆☆☆

これまで、毎週水・金・日曜日に実施していた、「博物館常設展総合展示部門解説ガイド」が、夏休み期間に曜日を増やし、毎週火・水・金・日曜日に実施することになりました。

日時: 毎週火・水・金・日	14:00-17:30
期間: 7月22日(水)~8月30日(日)	
目印: ボランティアとジンプンボックス	

☆☆☆☆☆☆☆☆

◆◆◆ 8月の勉強会 (詳細は掲示板をご確認ください) ◆◆◆

- ※民俗勉強会・・・8月1日(土) 10:00~12:00
(内容: 民俗展示室の展示物を学ぶ「アギのわざ」松川潤一郎)
- ※歴史勉強会・・・8月8日(土) 10:00~12:00 3階研修室
(内容: 家譜について)
- ※木工勉強会・・・未定(日時・内容: 掲示板をご確認ください)
- ※自然勉強会・・・未定(日時・内容: 掲示板をご確認ください)

◆参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。
◆内容が変更する場合がありますので、事前にご確認下さい。

発行日：2015年9月25日 発行：沖繩博物館友の会 電話：098-868-2722

～ 教育普及 ～

●平成27年度 秋季ボランティア全体会のお知らせ

秋季ボランティア全体会を行います。ボランティア全員参加ですので、お知らせします。

日	時：11月11日(水) 14:00～16:30
場	所：博物館講座室
対	象：博物館ボランティア、ふれあい体験室専属ボランティア

●10月の学校団体見学(民具体験)：4校 ※募集用紙はボランティア室に随時掲示します！

①兼城小 (4ヶ所：110名)	10月20日(火) 9:30～12:00
②具志頭小 (2ヶ所：52名)	10月22日(木) 10:00～11:25
③城南小 (3ヶ所：74名)	10月27日(火) 9:30～11:20
④西原南小 (2ヶ所：62名)	10月28日(水) 9:30～12:00

●ふれあい体験室定期清掃ボランティア募集

→10月19日(月) 13:30～15:00 <募集人数：3名程度>

～ 文化の社 ～

ボランティアの皆さんは、生徒やお客様の“つぶが”が付くと全員が参加し、場合によっては、解説をするから新たな発見をした経験はありますか？解る私たちが相手の反応から新たな発見に出会えることとがあります。実は、先達ての民具体験でボランティアさんがそれを自然に実践していた様子に気づきました。でも、実践するには、「限られた時間内で解説をする」という使命感も付きまといいますが、解説箇所を絞り、相手の反応や表情を見ながら柔軟に対応すると、沢山の“つぶがやき”に出会えると思えます。これから始まる団体対応でどんな“つぶがやき”に出会えるのか楽しみですね。(大瀧萌子)

◆～◆～ 10月の勉強会(詳細は掲示版をご確認ください) ～◆～◆

- ※民俗勉強会・・・10月3日(土) 10:00～12:00
 [内容：①上半期(10月～3月)までの活動について
 ②民俗展示室の「民家」について]
- ※自然勉強会・・・10月23日(金) 10:00～
 (内容：植物と衣生活の文化パート2、植物繊維について)
- ※歴史勉強会・・・10月はお休みです。11月は館外(不屈館)を予定しています。
- ※美工勉強会・・・未定(日時・内容：掲示版をご確認ください)
 ◆参加希望者は、掲示版に名前の記入をお願いします。
 ◆内容が変更する場合がありますので、事前にご確認ください。

発行日：2015年10月25日 発行：沖繩博物館友の会 電話：098-868-2722

～ 教育普及 ～

●平成27年度 秋季ボランティア全体会のお知らせ

秋季ボランティア全体会を行います。ボランティア全員参加ですので、お知らせします。

日	時：11月11日(水) 14:00～16:30
場	所：博物館講座室
対	象：博物館ボランティア、ふれあい体験室専属ボランティア

●11・12月の学校団体見学(民具体験) ※募集用紙はボランティア室に随時掲示します！

①豊崎小 (4ヶ所：122名)	11月17日(火) 9:30～11:35
②天妃小 (3ヶ所：73名)	11月26日(木) 9:30～12:00
③光洋小 (2ヶ所：72名)	12月1日(火) 9:30～12:00
④天久小 (4ヶ所：136名)	12月2日(水) 9:30～11:35
⑤座安小 (2ヶ所：56名)	12月3日(木) 9:30～11:35
⑥石嶺小 (4ヶ所：126名)	12月8日(火) 9:30～11:45

●ふれあい体験室定期清掃ボランティア募集

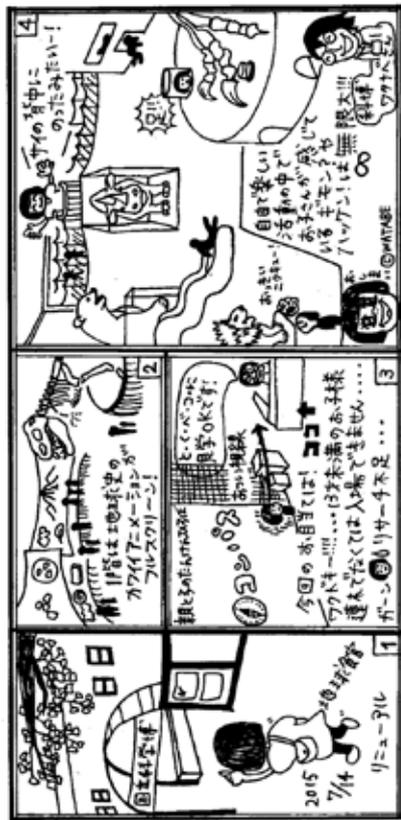
→11月16日(月) 13:30～15:00 <募集人数：3名程度>

◆～◆～ 11月の勉強会(詳細は掲示版をご確認ください) ～◆～◆

- ※民俗勉強会・・・通常の勉強会はありません。
 [琉球弧の舞臺制の関連催事や11月21日(土) 14:00～16:00の文化講座などに積極的に参加してください。]
- ※自然勉強会・・・未定(日時・内容：掲示版をご確認ください)
- ※歴史勉強会・・・11月14日(土) 9:30～12:00 館外研修
 (「不屈館」に集合。瀬長亀次郎と民衆資料館 館長による案内。)
- ※美工勉強会・・・11月28日(土) 10:00～12:00
 (陶器作り～たたらで造るマイカップ～ 講師：外間一先学芸員 材料費¥500)
 ◆参加希望者は、掲示版に名前の記入をお願いします。
 ◆内容が変更する場合がありますので、事前にご確認ください。

～ 文化の社 ～

今月は、他館のハンズ・オン展示をマンガで紹介！東京・上野の国立科学博物館「親子のたんけんひろば『コンパス』」には、こんな体験がありました！



「コンパス」は、今年、7月のリニューアルオープンで新設された展示コーナーです。アスレチックのトンネルを潜ると、ガラスの床下には、ワニが歩いていた、フタコブラクダの背中があったり、トンネルを抜けた先には、大きなシロクマのおしりが目の前に現れます。対象は、4～6歳の親子で、親子が協同で体験し、コミュニケーションを通した、博物館での経験を家庭に持ち帰ってもらうというコンセプトで、科学の知識だけでなく、感じる力、考える力を養うことを目的とした展示の仕組みになっています。ふれあい体験室にも、同じ年齢くらいの親子が来館することが多いです。ボランティアの方やスタッフがいるから、子どもを見守ってもらえると考える事だと思います。お家に帰った親子が、共通の経験を振り返る雰囲気作りも、私たちがサポートできる事だと思います。お家に帰った親子が、共通の経験を振り返ることで、ふれあい体験室での体験が記憶に残ると嬉しいですね。(文化の社 渡部貴子)

～ ボランティアの現場から ～

『銘苅墓跡群』と『伊是名殿内の墓』の見学会に参加して

平成27年9月5日(土)午前10時より那覇市文化財課の内閣棟の案内により『銘苅墓跡群』と『伊是名殿内の墓』を見学させて頂きました。

これは那覇市銘苅庁舎の裏側に広がっており、戦時中いわゆる「鉄の暴風」にさらされた神縄に15世紀頃からの遺跡群がしっかりと残されていた事にまず驚きました。

この地は長い間基地として接収されており、米軍が住宅を建設する為に埋め立てた事で、長きに亘り保存されてきたと聞き、とても複雑な思いがしました。

現在、遺跡群は半分以上埋め戻されており、「ここに人工物がある…」という程度のものしか見えず残念でしたが、地点地点で内閣様が写真を提示してくださり、発掘当時の様子が良く分かりました。

内閣様の説明によると保存の為に現在の埋戻し状況にあり、予算が計上されれば整備して発掘時のような形で見学ができるようにしたいとの事でした。1日でも早くそのようになって神縄の子供達にも自分達の祖先の生活が想像できる様な場所になってほし

いと思います。銘苅墓跡群の後、『伊是名殿内の墓』も見学させて頂きましたが、こちらは本場に綺麗に保存されており、当時の伊是名家の繁栄を彷彿とさせる素晴らしい石造りのものでした。

今回は、草刈り前のため見えにくかったのですが、亀甲墓の丸いフォルムはとて美しく、長きに亘り墓庭でどれだけの人達が祖先に祈りを捧げてきたのか、と想像すると自分達もその歴史の線上に立っているのだという実感が持てました。

最後になりましたが、内閣様には休日にもかかわらず暑い中、私達の為にご足労頂き本当に有難うございました。大変分かり易く、更に神縄の歴史を知りたいという気持ちになりました。

また、民俗勉強会の皆様にもこの様な機会をいただき、心から感謝致します。次の機会にも是非参加させて頂きたいと思っております。

(博物館ボランティア 納谷 佳子)



～ 教育普及 ～

●平成27年度 ふれあい体験室専属ポランテア ミーティングのお知らせ

ふれあい体験室専属ポランテアミーティングを下記日程で行います。ふれあい体験室ポランテア員全員参加ですので、お知らせします。

日	時：12月19日(土) 10:00～11:30
場	所：ポランテア室
対	象：ふれあい体験室専属ポランテア

●学校対応 (民具体験)

「民具体験学習の支援」ですが…1月人手が不足しています!!
ご協力お願いします!!
(12月～1月の申し込み状況)

No.	12月	曜日	時間帯	集合	学校名	学年	組数	人数
1	12月1日	火	9:30-12:00	9:05	光洋小学校	3	2	72
2	12月2日	水	9:30-11:35	9:05	天久小学校	3	4	136
3	12月3日	木	9:30-11:35	9:05	座安小学校	3	2	56
4	12月8日	火	9:30-11:45	9:05	石嶺小学校	3	4	126

No.	1月	曜日	時間帯	集合	学校名	学年	組数	人数
1	1月7日	木	9:30-11:35	9:05	古蔵小学校A	3	2	68
2	1月8日	金	9:30-11:35	9:05	古蔵小学校B	3	2	68
3	1月14日	木	9:30-11:35	9:05	松島小学校	3	4	120
4	1月21日	木	9:30-11:35	9:05	安謝小学校	3	3	105
5	1月22日	金	9:30-12:00	9:05	さつき小学校	3	3	83
6	1月26日	火	9:30-11:35	9:05	識名小学校	3	4	114
7	1月27日	水	9:30-11:30	9:05	銘苅小学校A	3	2	63
8	1月28日	木	9:30-11:30	9:05	銘苅小学校B	3	2	63
9	1月29日	金	9:30-11:35	9:05	上間小学校	3	3	99

●ふれあい体験室定期清掃ポランテア募集
12月21日(月) 13:30～15:00 <募集人数:3名程度>

～ 裏面もあります～

～ 文化の社 ～

日中と朝夕の寒暖差で、風邪をひきやすい時期となりました。私も先週風邪をひいてしまい、民具体験を急遽お休みしてしまいました。

スタッフやポランテアの皆さんにもご迷惑をおかけしてしまい、申し訳ございません。きちんと、うがい・手洗いをしていきたいと思えます!

さて、今回は調整中の催事についてお話しします。来年1/16(土)に開催される文化講座は、金武町と宜野座村の戦跡を巡るバスツアーとなっております。

私は先月、講師、片桐学芸員と共に下見へ行き、巡回地の1つである「金武観音寺 鍾乳洞」に入りました。講師によると、ここは防空壕として使用され、約1000人の命が助かったことです。その他、捕虜収容所跡地やウタタキ等を回る予定です。

本島北部の沖縄戦当時の実態を知る良い機会となるように、準備を進めています。

情報が整い次第、広報をしていきますので、ぜひチェックしてみてくださいね。(亘保)

◆～◆ 12月の勉強会 (詳細は掲示板をご確認下さい) ～◆◆

※民俗勉強会・・・12月5日(土) 10:00～12:00

(伊平屋島の暮し)

※自然勉強会・・・未定(日時・内容:掲示板をご確認下さい)

※歴史勉強会・・・12月12日(土) 10:00～12:00 3階研修室

(首里王府の行政機構(評定所)について)

※美工勉強会・・・12月4日(金) 10:00～11:00 (9:50ポランテア室集合)

(城間びんがた三代継承展 展示解説会 講師:城間 栄一氏)

◆参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。

◆内容が変更する場合がありますので、事前にご確認下さい。



謹賀新年

新年のごあいさつ

沖縄県立博物館・美術館副館長 村山 剛

グズーヨ、イイ正月（ショウウグワチ）デービル。
博物館ボランティアの皆様、明けましておめでとうございます。
皆様には、希望に輝く新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。
また、昨年中は、博物館への温かいご支援とご協力を賜り、職員一同、心より厚くお礼申し上げます。
さて、私が当館に赴任して初めて迎えた新年を迎えましたが、文化的刺激を享受できる環境で勤務させていた
だき、充実した日々を送ることができました。

また、当館としても常設展をはじめ、各種展示会や教育普及活動等を通じて、県内外の方々に幅広く沖縄
文化を紹介し、沖縄文化の総合発信拠点としての役割を担うことが出来たものと考えております。

今年も、生物実験展、旧石器時代の沖縄展、地窓展など魅力ある展示会の開催のほか、世界のウチナーン
チュウ大会に因んだ取組みも企画しており、今後とも楽しい、活力のある博物館づくりを皆様とともに進めて
まいります。

2016年が皆様にとってご多幸の年でありますように！
イツペー、ニフエーデービル。ユタサルグトク、ウニゲーサピラ。
どうもありがとうございます。よろしくお願ひします。

新年のごあいさつ

沖縄県立博物館・美術館 指定管理者
文化の杜共同企業体 代表 上原 徹

あけまして おめでとございます。
昨年文化の杜の事業に多大なご協力をいただき、本当にありがとうございます。
昨年、博物館・美術館ではペットボトル展に始まって、デザイン一展、大哺乳類展、深海2万里展など文
化の杜の関係する多彩な展示会が開催されました。

そのすべてにおいて、多くの参観者に楽しんでいただき、満足していただいたものと自負しております。
ただ、言うまでもなく、どの展示会も皆さんの力がなくてはならないものです。直接、参観者の方々と
接する皆さんのご協力にあらためて感謝申し上げます。

今年も甲申、申という字は「樹木の果物が熟して固まっという様子」を表したものと申します。
新年にあたり、私たちの働くここ沖縄県立博物館・美術館がこれまで以上に熱し、発展していくことを祈
念したいと思います。

さて、新年の話題にはふさわしくなくとは思いますが、ここで皆さんにお知らせすることがございます。
私ども文化の杜は本年度限りで博物館・美術館の指定管理を外れることになりました。理由は多々ござい
ますが、ここでは言及を控えたいと思います。何はともあれ、長年にわたって博物館・美術館の運営業務に
携わり、多くの展示会を展覧できたことをうれしく、そして誇りにしたいと思います。

次期指定管理者もすでに決まっております。皆さんにはこれから次期管理者にご協力いただき、博物館・
美術館がますます県民の宝として発展していくためにご尽力されますことをお願いして、ご挨拶とさせてい
たできます。

～ 教育普及 ～



謹賀新年

新年あけまして おめでとございます。

旧年中は、ボランティアの皆様には、学習プログラム（民具体験学習支援）をはじめ、総合展示
部門解説ガイド、小規模校対応等、来観者への各種支援をいただき大変ありがとうございました。
今年も引き続き、来観者への支援充実に期待をいたします。どうぞよろしくお願ひ致します。

ボランティア登録の更新＝《継続希望受付の開始》

さて平成27年度も残り3カ月となりました。

12月のボランティア連絡会で「平成28年度博物館ボランティア登録の流れ」を説明致しまし
た。★定例の曜日班会議で説明を受けてください。

尚、「平成28年度博物館ボランティア登録申請書」も配布済みです。提出期限をご確認のうえ、
申請書の提出をお願いします。

◆H28 博物館ボランティア継続申請 【提出期間】 H28年1月5日(火)～1月31日(日)	◆H28 くれあい体験室専属ボランティア継続申請 【提出期間】 H28年1月5日(火)～1月31日(日)
【提出場所】 ボランティア室設置箱 → 提出 (投函)	【提出場所】 ボランティア室設置箱 → 提出 (投函)

※ 1～2月、学習プログラム（民具体験学習）実施校が多数あります。ボランティアの皆様
ご協力よろしくお願ひします！



～ 文化の社 ～

今年のお楽しみ、上位にランクインしているのは、ふれあい体験室に待望の新しい体験キットが登場！！という事で、昨年は、小学校へ試作品のモニタリングに同行させていただきました。どの新キットも、既存のキットや常設展と補充し合い、さらに学びが深まる充実した内容になっています。完成品がどんな体験キットになるのか、昨年からずっとワーク・ソングしています。キットが完成した際には、来館者に楽しんでもらえるよう、ボランティアの皆さんとお披露目&勉強会をしたいです。新年もよろしくお願ひします♡ (渡部貴子)

新年あけましておめでとうございます。昨年同様な場面でサポーター頂きありがとうございました。おかげさまで博物館は、訪れる多くのお客様に喜ばれ愛された一年になったと思います。

今年は、個人的な思いとしてボランティアさんとの対話を大切に、試行錯誤しながら、活動における素晴らしい時間を一緒に体験できたらいいなと思います。

「見る・聞かざる・言わざる」の申年ですが、発想を転換し、「ボランティアさんをつっかり見つめ、お話を聞き・嬉しいことは情報としてどんどん話そう！」と思います。

引き続き宜しくお願いいたします。(大瀧萌子)

明けまして おめでとうございます

昨年は、学校団体対応や体験教室、夏休み！学芸員教室など、様々な場面でボランティアの皆様にご協力いただき、ありがとうございました！

私は「昨年より今年は、少し余裕を持って行動できるかなあ」と思いながら2015年を迎えましたが、そんなことはなく、干支だった末のように柔らかな足取りもできないまま、あっという間に2016年となつてしまいました。ボランティアの皆様は、どのような1年でしたでしょうか。

さて、新年最初の民具体験は、17(木)古蔵小学校の子ども達です。また、1月は民具体験の対応数が1番多い月となっています。子ども達が博物館を楽しんで体験してもらえらるるよう、昨年よりも一生懸命、頑張りたいと思います！ボランティアの皆様のご支援、どうぞよろしくお願ひいたします。(巨保はるな)

◆～◆～ 1月の勉強会 (詳細は掲示版をご確認下さい) ～◆～◆
※民俗勉強会・・・1月の勉強会はお休みします。
※自然勉強会・・・1月8日(金) 14:00～17:00
(野鳥観察会(ガイド付き) 漫湖水鳥・湿地センター
14:00センター集合、その後三角池へ)
※歴史勉強会・・・1月9日(土) 10:00～11:30 3階研修室
(「友利事件」、「サンマ事件」について
発表者：辻本淳二 アドバイザー：石垣忍学芸員)
※美工勉強会・・・1月23日(土) 10:00～12:00
(「芭蕉布-平良敏子のわざ」上映会 講師：与那嶺一子学芸員)
◆参加希望者は、掲示版に名前の記入をお願いします。
◆内容が変更する場合がありますので、事前にご確認下さい。

発行日：2016年1月25日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-868-2722

～ 教育普及 ～

●ボランティア継続希望申請書受付 1月31日(日)締切です！！

Table with 2 columns: Application type (e.g., H28 continuation), Submission period (1/5-1/31), and Submission location (Museum or room).

●学校対応 (民具体験) (2月～3月の申し込み状況)

Table with 8 columns: No., Date, Day, Time, School Name, Group, Grade, and Number of Participants.

今年度の学校対応(民具体験)プログラムも残り8校となりました。来館する子どもたちの多くが体験学習を楽しみにしています。博物館でしかできない民具体験です！！ 募集用紙はボランティア室に掲示中です。ご協力よろしくお願ひします。

●ふれあい体験室定期清掃ボランティア募集 2月22日(月) 13:30～15:00 <募集人数:3名程度>

～裏面もあります～

～ 教育普及 ～

◇今年度の学校対応プログラム実施は、残すところあと1校です。

3月1日(火) 9:30～11:35 大道小学校 3年生 2クラス 54名

1、2月は学校対応プログラムが毎日のように実施され、ポランテアの皆さんには、連日ご協力いただき感謝申し上げます。

平成27年度も、多くのポランテアの方々に支えられ、計画を実施する事ができました。

来館した子どもたちや先生方からも笑顔と感謝のことが沢山寄せられました。

ありがとうございます。平成28年度も引き続きご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



※子どもたちからのメッセージは、ポランテア室に掲示してあります。

◇臨時ポランテア全体会へのご参加ありがとうございました。

2月3日(水)に臨時のポランテア全体会を開催いたしました。臨時全体会では、継続申請について、ポランテア活動のねらい・目的・方針・活動内容について、学校対応についてなど共通確認を行いました。お忙しいところをご協力いただき、ありがとうございます。

～裏面もあります～

～ 文化の杜 ～

11月から始まっている民具体験。いつも朝早くからご支援いただきありがとうございます。民具体験は内容がほぼ決まっているので、毎回同じことを実施しているように思いますが、お天気・生徒数・体験する民具の数、そして、先生・保護者・体験する子供達が異なることで、様々な場面に出会います。さらには、一緒に活動するポランテアさんのメンバーが異なるとこれまで、面白い発見や技に気づきます。先達て、あるポランテアさんが「〇〇さんの話し方も勉強になるね～。話し手によって印象も変わるから

不思議さあ」と、つぶやいているのを耳にしました。民具体験を通して、仲間とのコミュニケーションを楽しみ、お互いに情報共有しながら引き出しを増やしていくのもいいのかもしれないですね。私も、密かにポランテアさんの言葉や技を拝借していることがあります(笑)民具体験は、3月まで続きます。残りすくない機会ではあります。一緒に色々な場面に出会えることを楽しみにしています。引き続きご支援の程、お願い申し上げます。(文化の杜 大濱)

◆～◆ 2月の勉強会 (詳細は掲示版をご確認下さい) ～◆◆

※民俗勉強会・・・2月6日(土) 10:00～12:00 3階研修室 (大瀧ゆかり先生の企画展の裏話など)

※自然勉強会・・・未定(日時・内容：掲示版をご確認下さい)

※歴史勉強会・・・2月13日(土) 10:00～12:00 3階研修室

(「程順則(名護親方)その時代背景」発表者：仲里紀子、学芸員：石垣忍先生)

※美工勉強会・・・2月27日(土) 10:00～12:00 実習室 (陶器作り(マイカップ))

*昨年10月に予定していた計画です。材料費¥500)

◆参加希望者は、掲示版に名前の記入をお願いします。

◆内容が変更する場合がありますので、事前に確認下さい。

～ 文化の社 ～

【募集！】平成28年度「博物館ボランティア<A>」

2/16 (火) から「博物館ボランティア第7期生<A>」並びに「ふれあい体験室専属ボランティア」の申込が始まっています。

募集人数は<A>50名、20名です。
この原稿を作成しているときは申込期間より前なので「どれぐらいの応募があるかなあ」とソワソワしながらキーボードを打っています。

チラシを関係機関に郵送したり情報をホームページに掲載したりと、あちこちで広報を行っています。皆様さんの周りでボランティア活動に関心がある方がいたら、ぜひオースメしてください！
(互保はるな)

The poster is divided into two sections. The top section is for '博物館ボランティア第7期生<A>' (Museum Volunteer 7th Term <A>). It features a dark background with three circular images showing people engaged in various activities. Text on the left includes '募集人数 50名' (Recruitment Number 50 people) and '活動日 平日～土・日に活動' (Activity Days: Weekdays ~ Saturday/Sunday). Below the images, it lists '主に「学芸プログラム、展示体験等」等、「伊勢学ササート」、「西川屋」など。' (Mainly 'Educational Programs, Exhibition Experiences', etc., 'Ise Gaku Sasarto', 'Nishikawa', etc.). The bottom section is for 'ふれあい体験室専属ボランティア' (Fureai Aitai Kenkyushitsu Senryu Bonteiya). It features a dark background with three circular images showing people in a hands-on activity. Text on the left includes '募集人数 20名' (Recruitment Number 20 people) and '活動日 土・日・祝日のみ活動' (Activity Days: Saturday/Sunday/Holiday). Below the images, it lists '「ふれあい体験室」にて、来館者への体験サポート。' ('Fureai Aitai Kenkyushitsu' for, visitor experience support).

- ◆～◆ 3月の勉強会 (詳細は掲示板をご確認下さい) ～◆◆◆
 - ※民俗勉強会・・・3月5日(土) 10:00～12:00 ボランティア室
(内容:「水と火の暮し」)
 - ※自然勉強会・・・未定(日時・内容: 掲示板をご確認下さい)
 - ※歴史勉強会・・・未定(日時・内容: 掲示板をご確認下さい)
 - ※美工勉強会・・・3月26日(土) 10:00～12:00 ボランティア室
(内容:「おきなわの焼物」について)
- ◆ 参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。
- ◆ 内容が変更する場合がありますので、事前にご確認下さい。

XI その他

1 移動展

名称：第8回 沖縄県立博物館・美術館 移動展 in 伊是名島
会期：平成27年10月9日（金）～11日（日）
開催時間：午前9時～午後5時（金曜日は10時から）
開催地：伊是名村（伊是名村産業支援センター、ふれあい民俗資料館）
対象：一般
観覧料：無料
主催：沖縄県立博物館・美術館、伊是名村、伊是名村教育委員会
協力：県立博物館友の会、県立美術館支援会 happ



趣旨

沖縄県立博物館・美術館は過去から長い年月をかけて収集した多数の資料を収蔵している。移動展は、ふだん沖縄県立博物館・美術館に足を運ぶことが難しい離島の方々にも、県民の財産である当館の博物館資料や美術品を移動展の展示として見てもらうことによって、沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図り、美術作品を鑑賞する機会を提供することを目的としている。

展示内容

(1) 博物館展示

- ①「世界の化石と輝く石」恐竜の骨格標本、岩石の展示
- ②「沖縄の自然、歴史、暮らし」生物・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗・教育普及に関する総合展示

(2) 美術館展示

- ①「沖縄の美術」沖縄を代表する画家達の作品（立体）を展示
- ②「沖縄の映画」県出身映画監督作品を上映

(3) 特別展示（尚円王生誕600年祭関連）

- ①「玉冠（付簪）」複製品 琉球国王尚家関係資料の展示（那覇市歴史博物館所蔵）

総入館者数 508人

内訳

- 10月9日（金）/164人（70歳以上9人、一般72人、高大0人、小中67人、未就学児16人）
- 10月10日（土）/157人（70歳以上3人、一般73人、高大0人、小中60人、未就学児21人）
- 10月11日（日）/187人（70歳以上4人、一般72人、高大0人、小中81人、未就学児30人）
- ①館長による講座「伊是名玉御殿の謎と魅力」参加者数：41人
実施日：10月9日（金）18：30～19：30 伊是名村産業支援センター
講師：安里 進（沖縄県立博物館・美術館 館長）
- ②伊是名島ジオツアー「太古と今をつなぐジオツアー」参加者数：25人
実施日：10月10日（土）10：00～12：00 伊是名村内
講師：仲里 健（地学担当）
- ③学芸員講座「伊是名島の成り立ち～古生代からの物語～」参加者数：25人
実施日：10月10日（土）15：00～16：00 伊是名村産業支援センター
講師：仲里 健（地学担当）
- ④伊是名村ふれあい民俗館 展示解説会 参加者数：41人
実施日：10月11日（日）15：00～16：00 伊是名村ふれあい民俗館
講師：園原 謙（博物館班 班長/美術工芸）、石垣 忍（歴史担当）、片桐千亜紀（考古担当）

尚円王生誕600周年の今年は、生誕地として知られる伊是名村で開催。人口1,529名（平成27年11月）の島に3日間で508人が来場した。会場では、展示資料を見ながら学芸員やボランティアと交流を楽しむ地元の人々で賑わっていた。また、今回は、学芸員講座の他、館長による講演会や地学担当学芸員によるジオツアー、当館学芸員がふれあい民俗資料館で展示解説会を実施し、伊是名島の魅力を伝えることができた。（大濱萌子）

移動展開催準備・当日の様子



開会式テープカット



学芸員による解説



恐竜・骨ぬり絵



紙芝居ちむドンドン



骨スーツ



太古と今をつなぐジオツアー



ふれあい民俗館展示解説会



安里館長による講演会

2 沖縄県立博物館・美術館のフリーパス

沖縄県立博物館・美術館では、県内の小中学生が博物館・美術館を知る機会とし、また、同館を身近に感じてもらい、何度も足を運んで欲しいとする目的で「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」の印刷・作成を小・中学校に依頼している。

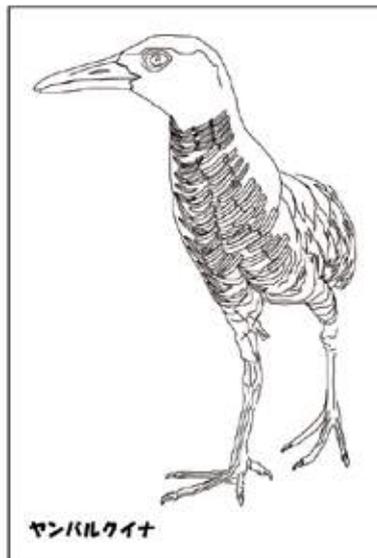
表紙は沖縄の自然、歴史、文化に関する図案を基本とするが、自らデザインした図柄でもよい。裏面にはマス目があり、来館の際にスタンプが押印できる形になっていて、学校で印刷した上で、裏面に校長印を押印し、来館時に総合案内に提出する。

利用の対象は、県内の小・中学生で、学校の授業の一環、または個人での来館の際に持参して利用する。スタンプの押印数については、遠隔地や離島などの学校の生徒にはスタンプの数を調整するなどとして、配慮を行っている。

平成22年度から、ゴールした児童生徒には、情報センターにおいて名前入りの「フリーパス終了証」と記念品（オリジナルクリアファイルと消しゴム）をプレゼントしている。今年度の対象者は0名。
(大瀨萌子)

【表紙】

【裏面】

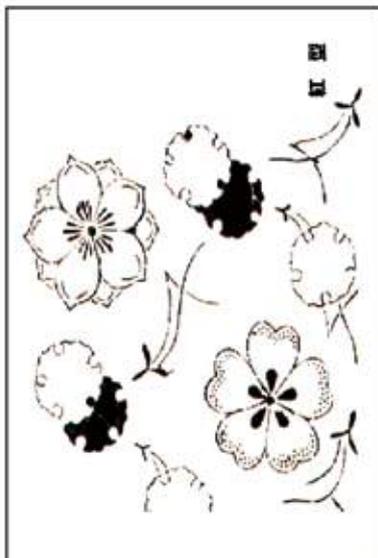


沖縄県立博物館・美術館フリーパス

1年 2年 3年 4年 5年 6年

氏名 _____ 学校名 _____ 校長印 _____

スタート!!				
				10
				ちょうど半分だよ!
				20
もう少し!				30
				ゴール!!



沖縄県立博物館・美術館フリーパス

1年 2年 3年

氏名 _____ 学校名 _____ 校長印 _____

スタート!!				
				10
				ちょうど半分だよ!
				20
もう少し!				30
				ゴール!!

3 職場体験

本年度も文化の杜が窓口となり、職場体験およびインターンシップを受け入れた。平成 27 年度は、4 校 8 人を受け入れた。もぎりやミュージアムショップでの接客業務をはじめ、情報センターでの資料整理、総務ではチケット・ポスター等の整理、ふれあい体験室ではワークショップの下準備をした。

また、本年度より博物館職員によるバックヤード見学や学芸業務の見学等対応していただき、充実した体験内容になった。

体験内容：もぎり(入場券の確認)、ふれあい体験室(ワークショップの準備)、ミュージアムショップ(接客、商品の管理)、情報センター(新聞の切り抜き作業・その他資料整理)、総務(チケット・ポスター等の整理)、博物館班(バックヤードおよび学芸業務の見学)

受入校：4 校 8 人(中学校 2 校、高等学校 2 校)

- ① 那覇市立安岡中学校(2 人)9 月 2 日～4 日(3 日)
- ② 沖縄県立那覇工業高等学校(2 人)9 月 30 日～10 月 2 日(3 日)
- ③ 沖縄県立中部商業高等学校(2 人)10 月 27 日～29 日(3 日)
- ④ 那覇市立古蔵中学校(2 人)2016 年 1 月 13 日～15 日(3 日)



(島袋百恵)

4 けんぱくキット貸出

	利用者名	利用目的	貸出期間	資料名
1	横浜市立東山田小学校	全体集会において、「しせい」について発表する際に活用するため。	2015年5月15日～6月10日	骨スーツ
2	鏡が丘特別支援学校 浦添分校	授業の中で使用（体験）するため。	2015年9月14日～9月29日	ちむドンドン
3	那覇市立天久小学校	授業で使用するため。	2015年12月2日～12月8日	むかしむん
4	沖縄県立玉城青少年の家	新春ファミリーキャンプで使用するため。	2016年1月8日～2月2日	豆腐をつくろう
5	浦添市立前田小学校	社会科学習（3年昔の道具とくらし）に役立てる。	2016年1月22日～1月29日	むかしむん
6	那覇市立若狭小学校	変わるわたしたちのくらしを体験して、昔の人々の知恵や工夫を知る。	2016年2月9日～2月12日	むかしむん 洗濯ゴシゴシ
7	那覇市立松川小学校	むかしの道具を体験する。	2016年2月12日～2月16日	むかしむん
8	那覇市立小禄小学校	社会科の学習のため。	2016年2月18日～2月26日	むかしむん
9	那覇市立仲井真小学校	社会科授業にて昔の洗濯を体験するため。	2016年2月17日～2月23日	ちむドンドン 洗濯ゴシゴシ
10	糸満市立潮平小学校	社会科授業「昔の人が使っていた道具」を体験するため。	2016年3月1日～3月4日	むかしむん 洗濯ゴシゴシ
11	沖縄県広報交流課	着物を披露することで、米国人に沖縄をアピールする。 （米国ワシントンD.C. テキスタイル博物館にて開催のOKINAWA FESTIVAL）	2016年3月11日～3月23日	両面染紅型単着物

(金城 久枝)



5 ボランティアによる展示ガイド

博物館ボランティアの活動の一つに、展示解説ガイドがある。これは、来館者サービス向上の一環として、博物館常設展示室の「民俗部門」と「総合展示部門」で、ボランティアがわかりやすく解説することを目指している。

まず、民俗部門展示室においては、民俗勉強会のボランティア有志メンバーが中心となり、沖縄県内の離島をはじめとする小規模校（20名以下）の子供たちを対象に解説ガイドを実施している。来館当日は、文化の杜スタッフが引率教員と担当ボランティアとを引き合わせるが、＜教員との打ち合わせ～オリエンテーション～展示ガイド～まとめ＞までボランティアが先導し行っている。今年度は、合計5校77人を受け入れた。

そして、総合展示部門解説ガイドは平成26年度から本格実施し、今年度は19団体772人を受け入れた。こちらは、県外の修学旅行3件の他、今年度は特に県内一般・70歳以上の団体7件も目立ち、幅広い年齢層の来館者へガイドを実施した。また、昨年度から引き続き、週3回（7～8月は週4日）午後待機型ガイドも実施した。こちらは、3,610人（1日平均25人/141日中）に対応した。

広報については、県内外の旅行会社へ向けた説明会の他、ホームページ掲載を行っている。また、団体受付窓口の情報センターから直接案内することもあり、年間を通じて実績を残すことが出来た。そして、リピーターによる依頼も少しずつ増えている。

今後の課題としては、多様化するニーズに合わせた対応等、特に旅行者など時間の限られた来館者に対し、簡潔に解説できるようボランティア、担当職員間で検討する必要がある。

（大濱萌子）

(1) 民俗ガイド実施内容

①実施日：開館日の9:00～16:00 ②所用時間：15分～30分

③対象：県内の離島をはじめとする20人以下の小学校・中学校・高等学校

④受付方法：

a 「沖縄県立博物館・美術館 博物館団体受付申込書」に必要事項を記入の上、FAXで送信。

（FAXを送信しただけで、予約は完了ではありません）

b その後、受け入れの有無、内容の確認をするため、担当者からご連絡差し上げます。

※見学をする2週間前までの予約が必要です。（先着順）

※ただし、館運営の都合やボランティアの都合等により、ご希望に添えない場合もあります。

⑤参加費：無料

⑥内容：3種類のメニューから選んでください。

Aコース【15分】「海とのかかわりを学びたい子どもたちへ」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展示室＜ウミのワザ、沖縄の住まいと衣食、年中行事と魔よけ＞

Bコース【15分】「昔の道具を学びたい子どもたちへ（田畑仕事を中心に）」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展示室＜アギのワザ、くらしに生きる自然素材、沖縄の住まいと衣食＞

アギとは…ウミに対して、陸地を意味する方言、限られた土地を上手に利用して田畑をこしらえました。さまざまな仕事で使う道具にも人々の知恵と工夫をみることができます。

Cコース【30分】「民俗分野全体を学びたい子どもたちへ」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展示室（村落をとりまく世界→御嶽と神人→訪ね来る神々→人の一生→ウミのワザ→アギのワザ→くらしに生きる自然素材→沖縄の住まいと衣食→年中行事と魔よけ→祭り→行事の現在→変わりゆく風景）

※メニューを基準に、内容の組み換えは可能です。

※現時点で、民俗分野以外の解説はできませんが、他の分野の展示物の見どころをお話しすることは可能です。（ただし、解説ではなく、展示物名を紹介する程度です。ご了承ください）

(2) 総合展示部門解説ガイド実施内容

①実施日：開館日の9:00～16:00 ②所用時間：30分～60分

③対象：県内外の一般・修学旅行団体

④受付方法：

a 「沖縄県立博物館・美術館 博物館団体受付申込書」に必要事項を記入の上、FAXで送信。

(FAXを送信しただけで、予約は完了ではありません)

b その後、受け入れの有無、内容の確認をするため、担当者からご連絡差し上げます。

※見学をする2週間前までの予約が必要です。(先着順)

※ただし、館運営の都合やボランティアの都合等により、ご希望に添えない場合もあります。

⑤参加費：無料

⑥内容：3種類のメニューから選んでください。

Aコース【30分】「総合展示部門：10～100人以内」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展総合展示部門<琉球王国の成立、旧首里城正殿鐘、進貢船、琉球王国の衰亡、米軍車両とナンバープレート>

Bコース【30分】「ジブンボックス*：100人以上」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→自由見学（総合展示部門5ヶ所、民俗部門2ヶ所にジブンボックスを配置し、各箇所に置いて来場者へのガイドと質問対応をおこなう）

*ジブンボックス：沖縄の方言でジブンとは「知恵」を意味し、「知恵を与える箱」として設置ガイドでは、このボックスの前でボランティアが来場者に向けた解説を行う。

■民俗班有志による県内小規模校ガイド									
	利用区分	地域	日付	団体名	対象	人数	ボランティア人数	備考	
1	修学旅行	県内	5月15日(金)	宮古島市立城辺小学校	小6	18	4		
2			6月12日(金)	座間味村市慶留間小学校	小1～小6	15	3		
3			9月10日(金)	渡嘉敷村立渡嘉敷小学校	小1～小4	25	3		
4			10月2日(金)	宮古島市立狩俣小学校	小6	10	2		
5			11月29日(日)	与那国町立久部良中学校	中1～中2	9	2		
合計						—	77	14	—
■総合展示部門解説ガイド									
1	研修	京都府	4月14日(火)	東洋きもの専門学校	大学生	8	9	Aコース	
2	研修	県内	6月25日(木)	かりゆし長寿大学同窓会 地域文化はたちの会	一般/70歳以上	13	9	Aコース/70歳以上9人	
3	修学旅行		7月23日(木)	国頭村立佐手小学校	小1～小6	20	2	Aコース	
4	研修		7月29日(火)	津嘉山小学校 全学年職員研修	一般	40	10	Aコース	
5	旅行	愛知県	9月9日(水)	和光商事株式会社 1班	一般	36	14	Aコース	
6	旅行		9月16日(水)	和光商事株式会社 2班	一般	43	12	Aコース	
7	研修	県内	10月15日(木)	かりゆし長寿大学	一般	22	9	Aコース/70歳以上13人	
8	研修	台湾	10月15日(木)	台湾東呉大学 学術文化視察沖縄交流団	一般	11	9	Aコース	
9	修学旅行	京都府	10月20日(火)	京都府立桃山高等学校	高2	160	12	Aコース	
10	見学	県内	10月24日(土)	北谷町宮城区自治会	一般	40	6	Aコース/70歳以上45人	
11	修学旅行	東京都	10月30日(金)	東京大学教育学部付属中学校	中3・高1	27	6	Bコース	
12	修学旅行	県内	11月6日(金)	久米島町立清水小学校	小6	28	7	Aコース	
13	研修		11月25日(水)	西原町我謝自治区 字誌編集会	一般	12	4	Aコース/70歳以上3人	
14	研修		11月27日(金)	中頭地区退職校長会	一般	16	6	Aコース/70歳以上6人	
15	見学		12月15日(火)	仲尾次老人クラブ	一般	42	6	Aコース/70歳以上35人	
16	修学旅行		滋賀県	2月9日(火)	近江兄弟社中学校	中2	167	10	Bコース
17	見学	愛知県	3月4日(金)	医科学応用研究財団	一般	6	7	Aコース/70歳以上6人	
17	見学	県内	3月18日(金)	北谷町北前区ときわぎ会	一般	32	6	Bコース/70歳以上26人	
18	研修	アメリカ	3月20日(日)	一般財団法人 日本国際協カセンター *KAKEHASHIプロジェクトの一環	高校生	50	6	Aコース	
合計						—	773	150	—

○ガイドの様子



6 企画展・特別展 関連事業

① 企画展「うちくい 沖縄のふろしき」

教育普及では、展覧会関連催事として、文化講座1回（参照：Ⅳ 博物館文化講座）、学芸員講座1回（参照：Ⅴ 学芸員講座）、展示解説会4回（参照：Ⅵ 展示解説会）、体験学習教室2回（参照：Ⅲ）を実施した。また、展示の理解を深めるために、子ども向けワークシートを作成した。

子どもガイド「うちくいの世界を探検しよう！」

配布期間：会期中随時配布 配布場所：展示室入口

配布枚数：1,000枚

監修：與那嶺一子（美術工芸担当）作成：大城愛香（フリーデザイナー）

小学校4年生以上を対象としたワークシートは、展示資料をじっくり観察し、質問に答えることで「うちくい」の歴史的背景を伝えると同時に、用途や素材の違いに気づかせるきっかけになることを期待した。また、裏面には、「うちくい」の文様の秘密を明かし、更には、実際にデザインに挑戦するスペースを加えた。



②特別展「琉球弧の葬墓制－風とサンゴの吊い－」

関連催事として、文化講座2回（参照：Ⅳ 博物館文化講座）、学芸員講座1回（参照：Ⅴ 学芸員講座）、展示解説会（参照：Ⅵ 展示解説会）2回を実施した。また、一般向けに「見どころシート」を作成した。

「琉球弧の葬墓制 風とサンゴの吊い」見どころシート

配布期間：会期中随時配布 配布場所：展示室入口

配布枚数：2,300枚

監修：大湾ゆかり（民俗担当）作成：大濱萌子（文化の杜共同企業体）

一般来館者を対象に、担当学芸員が特に見てほしい展示資料について詳しく説明した、鑑賞補助シートを作成した。その内容は、展示室内の地図と併せて各章ごとに注目してほしい点（例えば、碑文の内容とは？この幕が果たした役割とは？など）を質問形式で投げかけ、その回答と解説を簡潔に記載した。キャプションだけでは、伝えきることのできない細かな部分をこの「見どころシート」が補う役割を果たし、また、帰宅してからも来館者がもう一度思い出してくれることを期待し作成した。

③企画展「大気と気象 ～見えない空気の“力と技”～」

関連催事として、文化講座1回（参照：IV 文化講座）、展示解説会（参照：VI 展示解説会）1回を実施した。また、子ども向けにワークシートを作成した。

こどもガイド「いろんな実験をやってみよう！」

配布期間：会期中随時配布 配布場所：展示室入口

配布枚数：1,000枚

監修：仲里健（地学担当） 作成：大城愛香（フリーデザイナー）

今回のワークシートは、実験装置の展示が多い特徴を生かし、小学校4年生以上を対象に実験を通して大気と気象の不思議に気づく内容を検討した。そこで、数ある実験装置から5つを選び、体験した結果どのようなことが分かったのかを記入するシートに仕上げた。また、大気と気象に関するキャラクターを作成し、親しみやすいテイストとした。更には、空気の不思議を自宅に帰ってから考え、楽しめるように、シートの4分の1部分を切り取るとブーメランを作成できるような仕掛けを施した。子どもから大人まで楽しめる内容のシートとなった。



(大瀨萌子)

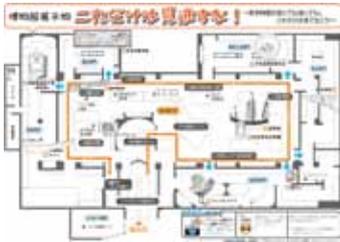
7 常設展に関する取り組み

(1) 博物館常設展見どころマップ「ここだけは見逃すな！」の活用

博物館常設展の見学の手助けとして、平成23年度に作成した見どころマップ「ここだけは見逃すな！」を増刷し、引き続き配布した。

配布枚数：日本語版13,000枚、英語版4,000枚

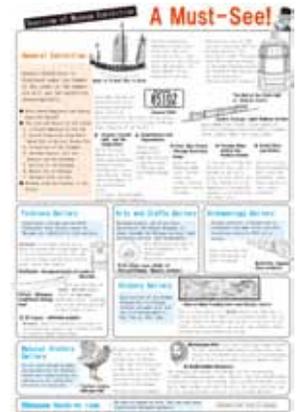
配布場所：常設展示室入口



<日本語版>



<英語版>



(2) おきなわサンゴ礁ウィーク2016「サンゴで謎解き！博物館へサンサンGOGO！！」

日時：3月5日(土)・6日(日) 10:00~16:00(最終受付15:30)

場所：1階エントランスホール、博物館常設展示室

受付：当日先着(随時受付、定員に達し次第受付終了)

参加費：無料 ※博物館常設展の入場券が必要

参加者数：211人(定員各日100人 ※予備の材料を準備していたため定員を増員)

沖縄県サンゴ礁保全推進協議会が呼びかける「おきなわサンゴ礁ウィーク2016」の一環として、サンゴにまつわる謎解きゲームを開催した。博物館内の展示物を題材に、4つの設問を掲載したワークシートを作成し、配布した。問題を解くごとに、謎解きのキーワードを1文字ずつ埋めて、サンゴの幼生が「プラヌラ」と呼ばれていることを解き明かし、サンゴの一生を学ぶ仕組みとした。参加者が帰宅した後も、博物館での体験を思い出すアイテムとして、1問正解するごとに材料を集めて作る「サンゴストラップ」の作製と、参加賞として、サンゴの一生・サンゴ礁の生き物達を描いたペーパークラフトの「ペン立て」をプレゼントした。



8 新聞・雑誌等掲載一覧

博物館で開催した催事に関する新聞や雑誌における掲載は下記の通りである。

○講座・展示解説会

沖縄タイムス	6月21日 日曜日	社会面	博物館文化講座「やんばるの沖縄戦」
琉球新報	6月22日 月曜日	ひと・暮らし面	
週刊かふう	1月29日 金曜日	22面 イベント情報	博物館文化講座 「台風と自然災害～台風を知ることと身を守ること」

○企画展関連

沖縄タイムス	5月24日 日曜日	社会面	博物館体験教室 「筒描き紅型にチャレンジ！」
--------	-----------	-----	---------------------------

○夏休み！博物館学芸員教室

沖縄タイムス	8月2日 日曜日	タイムス ワラビー	夏休み！博物館学芸員教室
--------	----------	-----------	--------------

○移動展

沖縄タイムス	12月12日 土曜日	地域面	移動展in伊是名
--------	------------	-----	----------

○常設展関連

沖縄タイムス	3月6日 日曜日	社会面	おきなわサンゴ礁ウィーク2016 「サンゴで謎解き！博物館へサンサン GO GO！」
--------	----------	-----	---

○ふれあい体験室ワークショップ

沖縄タイムス	2月7日 日曜日	タイムス ワラビー	ふれあい体験室ワークショップ 「ふれたい博士のカーブヤーづくり」
--------	----------	-----------	-------------------------------------

「たいようのえくぼ vol.18」	4月17日(金) 発行	「イベントおでかけ情報ポケット」	「ふれたい博士の てづくりおもちゃ」
「たいようのえくぼ vol.19」	8月7日(金) 発行		「ふれたい博士の 光合成ペンダント」
「たいようのえくぼ vol.20」	12月4日(金) 発行		「ふれたい博士の 土器文様しらべ」

発行:たいようのえくぼ

「ミュージアムキッズ vol.2」	12月1日(火)	「ワークショップ@ミュージアム 2015冬～2016春」	ふれあい体験室
-------------------	----------	---------------------------------	---------

発行:こどもひかりプロジェクト

「たいようのえくぼ 特別版」	2月19日(金) 発行	「えくぼママオススメ! 体験できるお出掛けスポット」	ふれあい体験室
----------------	-------------	-------------------------------	---------

発行:沖縄県教育庁「家～なれ～運動」

9 印刷物一覧

	タイトル	規格	デザイン	印刷	部数
1	文化講座（全12回）	A4 (片面カラー・片面モノクロ)	文化の杜共同企業体	株式会社プリマリアル/ 館内手刷り	各500
2	学芸員講座（全12回）	A4 (片面カラー)	文化の杜共同企業体	株式会社プリマリアル/ 館内手刷り	各500
3	体験学習教室（全4回）	A4 (片面カラー・片面モノクロ)	文化の杜共同企業体	株式会社プリマリアル/ 館内手刷り	各500
4	博物館ボランティア募集案内	A4 (片面カラー)	文化の杜共同企業体	株式会社プリマリアル/ 館内手刷り	1,000
5	夏休み！博物館学芸員教室 (美術館「夏休み！子どもフェスタ2015」との共同制作)	A4 (両面カラー)	グラフィックデザイナー 大熊 さゆり	株式会社プリマリアル	15,000
6	常設展解説シート「これだけは見逃すな」 (英語版)	A4 (両面カラー)	教育普及班 (沖縄県・文化の杜共同企業体)	株式会社プリマリアル/ 館内手刷り	5,000 (増刷分)
7	ふれあい体験室ワークシート 「港川人研究所 港川人VS現代人」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	2,000
8	ふれあい体験室ワークシート 「土倉と遺物からわかること 黒曜石で切ってみよう」	A4 (片面モノクロ)	—	館内手刷り	1,000
9	ふれあい体験室ワークシート 「いろいろな楽器①チューリップを弾いてみよう」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	500
10	ふれあい体験室ワークシート 「いろいろな楽器②工四で弾いてみよう」	A4 (片面モノクロ)	—	館内手刷り	500
11	ふれあい体験室ワークシート 「島のかたち①古地図パズルのおまけ」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	500
12	ふれあい体験室ワークシート 「島のかたち②古地図絵本のおまけ」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	500
13	ふれあい体験室ワークシート 「島のかたち③古地図かるたのおまけ」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	500
14	博物館企画展「うちくい 沖縄のふるしき」 子供向けワークシート	A4 (両面カラー)	グラフィックデザイナー 大城 愛香	株式会社プリマリアル	1,000
15	博物館特別展「琉球弧の墓墓制～風とサンゴの弔い」 一般向け見どころシート	A3 三つ折り (両面カラー)	文化の杜共同企業体	株式会社プリマリアル	2,300
16	博物館企画展「大気と気象展」	A4 (両面カラー)	グラフィックデザイナー 大城 愛香	株式会社プリマリアル	1,000
17	教育普及報告書	A4	教育普及班 (沖縄県・文化の杜共同企業体)	企画印刷ハーツ	1,000

平成 27 年度
博物館教育普及活動
2016 (平成 28) 年 3 月

発 行 沖縄県立博物館・美術館
〒900-0006
那覇市おもろまち 3 丁目 1 番 1 号
Tel (098) 941-8200 (代表)
Fax (098) 941-2392

編 集 沖縄県立博物館・美術館 博物館教育普及
沖縄県立博物館・美術館指定管理者 文化の杜共同企業体

印 刷 企画印刷 ハーツ
那覇市繁多川 3 丁目 13 番 8 号
Tel (098) 835-3752
Fax (098) 835-3754